

国立国会図書館所蔵複製西洋中世写本目録

十文字香奈子 佐藤典子 折田洋晴
北村弥生 安部さち子

はじめに

収録対象

目録の記入要素

目録記入の排列

コレクションの特徴

凡例

複製西洋中世写本目録

I 宗教 II 法律・政治 III 学芸 IV 医学

V 歴史・地理 VI 文学 VII 木版本

所在都市・所蔵機関名索引

書名索引

著者名索引

はじめに

ここに編集した目録は、国立国会図書館が所蔵する西洋で筆写された中世写本のファクシミリ目録である。収録対象とする写本の筆写年代は西ローマ帝国の滅亡(476年)からインクナブラの下限である1500年までとするが、中世写本文化の圏内であると判断したものは、この範囲外でも収録した。また、簡単な歴史学的解説や写本学的解説を行なっているので、本誌第51号の「複製インクナブラ目録」と併せて、ヨーロッパ中世の書物史の読み物として利用していただきたい。

我が国においては、西洋写本は印刷本と比べると収集量も少なく、目録法も確立していない。国内のOPACで写本のレイアウトや組成(折丁)、書体、伝来等まで記した例を見付けるのは難しい。国立国会図書館が所蔵する中世写本もアリストテレス『オルガノン 靈魂論』(14世紀か15世紀初頭にパリで筆写。請求記号WA42-29)が唯一であり、同書の詳しい書誌学的調査は残されたままである。また、大学図書館でも、慶應大学、早稲田大学のように西洋中世写本を所蔵する図書館もあるが、点数はあまり多くないようである。

一般的に、国内各図書館で中世写本をどのように扱うかについては、経験が不足であり、古文書学等の基礎的勉強も不足している。こうした点をカバーするのに、ファクシミリ版の利用は非常に有効である。これまでに相当数のファクシミリ版が刊行されており、国立国会図書館でも以下にある通り99点を所蔵している。Zotterの目録(本号p.5参照)が1,052点収録しているのに比べると、この数は決して多いものではないが、これらを利用することで、多少とも中世写本に接する機会が増すことを期待

したい。国内の大学図書館等には本目録に収録されていないファクシミリ版が多数所蔵されている。それらは各図書館のインターネット上のOPACで検索出来るものも多いので、熱心な読者は一度試みられたい。

収録対象

本目録に収録する複製中世写本の条件は以下の4点が満たされていることである。

- ① オリジナルの筆写地がヨーロッパであること
- ② オリジナルの筆写年が476年から1500年の間であること
- ③ 複製の範囲がオリジナルの全体にわたること
- ④ 紙媒体への複製であること

従って、アジアや新大陸で筆写された写本の複製は収録対象になっていないし（例、イスラム写本やマヤの絵文字写本）、古代ギリシア・ローマ期の写本の複製も収録対象になっていない。また、写本の一部だけを複製したものやマイクロ・フォームのもの、CD-ROM形態のものも収録対象になっていない。ただし例外があつて、中世写本世界の全体像を解説するため、ある分野の収載資料が少ない際は、部分的な複製も収載している場合があり、彩色写本については16世紀のものも収録した。また、写本の範囲として、彩色写本だけでなく「マグナ・カルタ」のような政治文書や古地図、手稿類も収録対象とした。

さらに、写本とインキュナブラの間に位置する木版本（xylograph）を前回は収録対象としなかったので、今回はその複製も収録対象として、巻末にまとめた。

目録の記入要素

オリジナルの写本の目録記述から始め、それに解題や複製の書誌事項を加えている。写本の目録記入は複製写本目録 Hans Zotter: *Bibliografie Faksimilierter Handschriften* に倣って、まず写本の所在都市から記入し、さらに所蔵機関、写本番号、著者・書名、使用言語名、対照事項（全葉数、折丁、サイズ）、支持物の種類、筆写地・筆写者・筆写年の順に記載する。記入は最初に通し番号をふるが、その写本が前記 Zotter にある場合は、Zotter での番号も付記している。都市名と言語名は英語形を用いるが、所蔵機関名は原則としてその母語形とする。写本の書名は、統一書名で知られるものはその形を用いている。具体的な目録記述については、文末に凡例を付けたので参照されたい。

解題は、その写本に特徴的な点（書体、レイアウト、装飾等）についても解説するようにした。また、複製の書誌事項は「複製インキュナブラ目録」同様、簡潔に示したが、今回は複製の様態（忠実さや尺度等）が分かるようにした。

目録記入の排列

この目録は、検索することだけが目的ではなく、中世写本に親しんでもらえるような読み物としての役割も持たせている。そこで排列は前回の「複製インキュナブラ目録」とほぼ同じである以下の7つの分野に分けて、内容的に近いものが出るだけまとまるようにした。即ち、Ⅰ. 宗教 Ⅱ. 法律・政治 Ⅲ. 学芸 Ⅳ. 医学 Ⅴ. 歴史・地理 Ⅵ. 文学 Ⅶ. 木版本の7分野である。特にⅠ. 宗教については内容によって、さらに9項目に細分し、Ⅲ. 学芸、Ⅳ. 医学、Ⅴ. 歴史・地理、Ⅵ. 文学についても、特定のジャンルについて細分項目を設けた。全体の体系は以下の通りである。

Ⅰ. 宗教

- Ⅰ-1. 聖書 (Ⅰ-2. 詩篇、Ⅰ-3. 福音書、Ⅰ-4. 黙示録)
- Ⅰ-5. 時禱書
- Ⅰ-6. 日課祈禱書
- Ⅰ-7. 典礼書
- Ⅰ-8. 免罪符
- Ⅰ-9. ユダヤ教

Ⅱ. 法律・政治

Ⅲ. 学芸

- Ⅲ-1. 数学
- Ⅲ-2. 音楽

Ⅳ. 医学

- Ⅳ-1. 本草

Ⅴ. 歴史・地理

- Ⅴ-1. 年代記
- Ⅴ-2. 地図

Ⅵ. 文学

- Ⅵ-1. 動物寓話

Ⅶ. 木版本

また、同じ分類項目内は筆写年の古い順に排列した。

コレクションの特徴

本目録に収録された複製中世写本のうち24点は国内刊行であり、その殆ど(18点)が岩波書店から刊行されている。同書店は美術書刊行の一環としてレオナルド・ダ・ヴィンチの素描集やジョヴァンニ・デ・グラッシの素描帖のファクシミリ版(これらは写本というより絵画であるとして今回の対象に含めていない)を初めとしてヴァチカン図書館の蔵する彩色写本や最近ではエステ家図書館の蔵する「ボルソ・デステの聖書」のファクシミリ版を刊行している。国際共同出版なので、複製は海外で

も同時に刊行されているが、日本語による解説書は国内向けの出版である。当館では国内刊行物は納本制度により収集しているの、網羅的に集まっている。

次に多いのが、オーストリアGrazにある出版社Akademische Druck-u. Verlagsanstalt (ADEVA) から刊行されたものである。同社は50年間に120点以上のオリジナルに忠実なファクシミリ版を刊行しており、世界最大のファクシミリ出版社として知られる。本目録中の14点は同社の刊行したものである。

もうひとつの特徴として、ロシアを含む東欧の刊行物が多い(14点)ことが挙げられる。当館は国際交換制度によっても外国出版物を収集しているの、このルートで東欧の刊行物が多く収集されている。東欧諸国は写本複製の刊行に熱心であり、比較的多く集まっていると考えられる。

他の国の収録点数は以下、イギリス9点、ドイツ8点、アメリカ7点、スペイン6点、イタリア5点等となっている。

凡例

① ② (Zotter 181) ③ Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. ④ Codex Vaticanus graecus 1162.

⑤ Jakobus Kokkinobaphos: *The Homily for the Virgin (Marien - Homilien)*.

⑥ Greek. 188 leaves. ⑦ 325×225. ⑧ Parchment.

⑨ コンスタンティノープルで1126-50年の間に筆写。82点の細密画。

⑩ コッキノバフォスのヤコボス「聖母マリア讃詞集」新字体。この写本は六篇の讃詞(祝日に公共の場で朗読される説教)から成るが、他の説教集のように教会暦の祝日の順序には並べられておらず、むしろ聖母マリアの伝記といった構成である。「聖母マリア讃詞集」の写本としては、もう1点、フランス国立図書館所蔵のギリシア語写本1208番(Codex Parisinus graecus 1208)がある。(以下略)

* Issued as *Codex vaticanus graecus 1162*. ⑪ Tokyo, 1992. 2v. (⑫ *Codices e Vaticanis selecti quam simillime expressi iussu Ioannis Pauli PP II, consilio et opera curatorum Bibliothecae Vaticanae*, v. 79) ⑬ 原色複製 1.0倍 <YP51-A318>

① 本目録のエントリー番号(1から107までの通し番号で、巻末の索引はこの番号への参照である)

② 複製写本目録 Zotter, H.u.H. *Bibliographie Faksimilierter Handschriften*. 2. Aufl. Graz, 1996 でのエントリー番号

③ オリジナル写本の所蔵情報(所蔵機関の所在都市名(英語形)、所蔵機関名(原語形)がこの順に記載されている)

④ オリジナル写本の所蔵機関での管理番号

⑤ 写本の著者名

⑥ 写本のタイトル(統一書名の形を出来るだけ用いる)

- ⑦ 写本のテキストの言語（英語形で記載）
- ⑧ 写本の全葉数
- ⑨ 写本1葉のサイズ（縦×横をmm単位で記載）
- ⑩ 写本の支持物の種類（ヴェラム等獣皮はすべてParchmentと記載。紙の場合はPaperと記載）
- ⑪ 写本の制作地、制作者、制作年の情報
- ⑫ ⑤, ⑥の情報の日本語訳
- ⑬ 写本の書体
- ⑭ 解題（写本の特徴、旧蔵者、複製の刊行状況等について簡単な解説を試みた）
- ⑮ 複製の書誌事項
 インキュナブラの場合と同様、複製の目録記入単位がオリジナルと同じ場合は Issued as で始め、複製の目録記入単位がオリジナルより大きな場合（即ち、大きな著作の中に写本の複製が載っている場合）は Issued in で始めた。記載事項は複製インキュナブラ目録の場合と同じである。
- ⑯ 複製の出版事項（ただし出版地と出版年のみで出版者名は省略した）
- ⑰ 複製の叢書名（複製がシリーズ・タイトルを持つ場合は、それを記載した）
- ⑱ 複製の様態（色彩を含めた復元の場合は原色複製、白黒写真による複製の場合は単色複製と記載。また複製範囲が写本全体でなく部分的なものである場合は括弧に包んで部分と追記）
- ⑲ 複製の倍率（複製のサイズのオリジナルのサイズとの比を記載。長さでの比であり、面積比ではない）
- ⑳ 国会図書館請求記号（〈 〉に包んで記載）

複製西洋中世写本目録

I. 宗教

中世ヨーロッパの書物の大多数が宗教に関するものであることは容易に想像出来る。実際、複製の刊行されている写本の相当な部分が宗教、即ちキリスト教に関係するものである。中世を通じてどれぐらいの数の写本が作られたのか、正確な数字は分からないが、現存数でも100万点程度であろう。うち、筆写年の古いものは非常に少なく、断片を除くと8世紀以前のは2,000点を越えないと言う。かなりの数の写本が消失してしまったものと思われる。

例えば旧約聖書は元々ヘブライ語で書かれていたものだが、長らく10世紀に筆写された「アレppo写本」が最も古い現存写本であった。それより古い旧約は「ヴァチカン写本」「シナイ写本」(いずれも4世紀に筆写)のようにギリシア語訳(七十人訳)であった。ところが、1947年に「死海文書」が発見され、紀元前2世紀の旧約本文も中世の本文とあまり変わっていないことが確認された。このように、中世写本は古代写本を土台にしながら、中世独特の書物文化を開花させている。

中世において、書物はただ読むためだけのものではなく、儀式等に使う目的でも制作されている。それ自体が崇拜の対象となったものもあり、非常に豪華な装飾が施されたものもある。以下では、聖書原典と典礼関係書物については独立した分類項目とし、インクナブラ時代に多数印刷された免罪符についても独立項目とした。

聖人伝(hagiography)は文学との境界が難しいため、多くはここに収めたが、文学的色彩が強いものは文学に分類した。また、読誦集は音楽に分類した。

1 Jerusalem, Israel Museum; Jerusalem, Rockefeller Archaeological Museum; Amman, Amman Museum.

Dead Sea scrolls. Hebrew (90%), Aramaic (10%) and Greek. About 800 rolls and fragments. Mostly parchment, papyrus (10%) and 1 copper plate.

紀元前2、3世紀から紀元1世紀にかけて、ユダヤ教クムラン宗団によって書かれた。

〔死海文書〕 1946年から47年にかけての冬、3人の羊飼いが死海北西部にあるクムラン涸れ谷の洞穴で7つの巻物を見付けた。そのうち4つはシリア正教会のサムエル大主教が、3つはヘブライ大学のスケーニク教授が購入した。サムエル大主教はこの巻物をエルサレムの American School of Oriental Research に持ち込み、写真撮影が行なわれた。それを元にしたのが本複製である。

この発見がきっかけとなり、1956年までに合計11の洞穴で大小800種以上の古い文

書が発見された。これらを総称して「死海文書」と呼ぶ。巻物の形を留めていたのはおよそ10巻、ほとんどが大小の断片の状態であり、合計で25,000片にも達する。

文書の内容は、4分の1は「死海文書」を残したクムラン宗団の教え、規則、儀礼に関するもの。3分の1は外典または偽典と呼ばれる文学的書物。4分の1は聖書の写本で200を超える数があり、エステル記を除くすべての旧約聖書の写本が見付かっている。他には聖書の注解書がある。

最初に発見された巻物7つは現在イスラエル博物館の写本館「書物の殿堂」(The Shrine of the Book)に展示されているが、本複製は1954年にイスラエル国に売却されるまでエルサレムのシリア正教会聖マルコ修道院が所蔵していた3つの巻物を写真複製している。その3点を略述すると次のようになる。

①「イザヤ書大写本」(1 QIs^a) 右から左へと書かれるヘブライ語のテキストが、角書体で54欄(1欄約30行)に書かれている。17の羊皮紙を麻の糸で縫い合わせて巻物仕立てにしてある。長さ7.35m、丈は平均26cm。「死海文書」には22のイザヤ書写本が含まれるが、詩篇、申命記に次いで多い数である。筆写年はB.C.125年頃か。

②「ハバクク書注解」(1 QpHab) 旧約「ハバクク書」の注解書で、詩を引用しながら、それを詳解している。2枚の羊皮紙を縫合。冒頭部分に欠損があり、巻物の下部が全体に渡って2～3行分損なわれている。丈は最大15cm程。長さは150cm余。13欄15行平均。

③「共同体の規則」(1 QS) 発見された時は2つの巻物に分かれていたが、本来は1つのもの。5枚の羊皮紙を縫合。全長186cm、丈24cm。11欄、平均26行。方形書体。中味は宗教団の規約のようなもので、複製の著者 M.Burrows はタイトルを *Manual of discipline* としている。

* Issued as Burrows, M. (ed.) *The Dead Sea scrolls of St. Mark's Monastery*. New Haven, 1950-51. 2 v. 単色複製 1.0倍 <091-B972d>

2 Jerusalem, Israel Museum. 1 QIs^a, 1 QpHab, 1 QS.

The Isaiah manuscript, the Habakkuk commentary, the Manual of discipline.

3 rolls. Parchment.

「死海文書」本複製は、日本の技術を用いて原写本と同じ素材の羊皮紙にプリントされ、素焼きの土器のレプリカに納められている。イスラエル博物館の写本館の地下にある作業室で写真撮影が行なわれた。3巻の内容は、「イザヤ書大写本」(1 QIs^a)、「ハバクク書注解」(1 QpHab)、「共同体の規則」(1 QS)であり、前出1と同じ写本をオリジナルと同じように巻物状で複製したものである。

* Issued as Sekine, M. (ed.) *Megilot Yam ha-melah*. Tokyo, 1979. 3 rolls. 単色複製 1.0倍 <YR.1-77>

3 (Zotter 181) Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Codex Vaticanus graecus 1162.

Jakobus Kokkinobaphos: *The Homily for the Virgin (Marien - Homilien)*.
Greek. 188 leaves. 325×225. Parchment.

コンスタンティノープルで1126-50年の間に筆写。82点の細密画。

コッキノバフォスのヤコボス「聖母マリア讃詞集」新字体。この写本は六篇の讃詞（祝日に公共の場で朗読される説教）から成るが、他の説教集のように教会暦の祝日の順序には並べられておらず、むしろ聖母マリアの伝記といった構成である。「聖母マリア讃詞集」の写本としては、もう1点、フランス国立図書館所蔵のギリシア語写本1208番 (Codex Parisinus graecus 1208) がある。

Vat. gr. 1162は、1894年の盗難により多数の単独紙葉・複葉を切り取られた。再発見された紙葉は、縁に羊皮紙の帯を貼り付けて元の状態に復元されたが、ff. 4, 5, 7, 9, 33, 34, 49, 104は欠けたままである。紙葉には番号が振ってあり (ff. 1, 1a, 1b, 2, 3-194)、全体は折丁に含まれない4枚の紙葉と25の折丁からなる。折丁は、殆どが「冊子を開くと常に羊皮紙の同一面が現われる」というグレゴリーの法則通りに重ねられた quaternion (8葉で1丁) で、変則的な箇所は各讃詞の終わりと一致している。全ての紙葉は同じ方法で鉄筆により罫線が引かれている。テキストは一人の写字生により筆写されたもので、文字の基本サイズは比較的大きく、書体の軸線は垂直に引かれ、気取った筆跡である。文字の間隔はかなり空いており、文字は基本線上を水平に続けている。書体はコントラストの著しい「新字体」の傾向を見せている。また、Vat. gr. 1162の写本の書体は、フランス国立図書館所蔵の「聖母マリア讃詞集」の書体と酷似しており、両写本が同じ写字生の作品という可能性もある。また、本写本には82点の細密画があるが、各讃詞の冒頭以外は、全て本文を中断して内容上本文に最も近い箇所を組み込まれている。

* Issued as *Codex Vaticanus graecus 1162*. Tokyo, 1992. 2v. (*Codices e Vaticanis selecti quam simillime expressi iussu Ioannis Pauli PP II, consilio et opera curatorum Bibliothecae Vaticanae*, v. 79) 原色複製 1.0倍 <YP51- A318>

4 (Zotter 1030) Moscow, T'Sentral'nyi gosudarstvennyi arkhiv drevnikh aktov.

Skazanie o Borise i Glebe, etc. Old Russian. 164 leaves. 300×215. Parchment.
14世紀に筆写。

「ボリスとグレブの物語」10世紀に成立したキエフ・ルーシ公国が988年にキリスト教を導入したのは、キエフ大公（聖公）ウラジミール (c.955-1015) がギリシア正教を国教としたからで、息子ヤロスラフ（賢公）は1037年にソフィア聖堂を建て、聖典の翻訳を行なった。ウラジミールの亡くなった1015年、長子スビャトポルクは一切の支配権を握ろうと多くの兄弟を刺客によって次々に殺したが、ボリス（ロストク公）とグレブ（ムーロム公）の兄弟は抵抗もせず神に祈っていた態度から、1020年にロシア教会の聖人の列に加えられた。この物語を記した本書（図1）は生き方の模範を示す話として、ロシア正教徒の間で愛読された。

複製本は、*Sil'vestrovskii sbornik* というタイトルの写本の89葉から164葉までの

原色複製で「ボリスとグレブの物語」全文を含む。

* Issued as Dmitriev, L. A. (ed.) *Skazanie o Borise i Glebe; nauchno-spravochnyi apparat izdaniia*. Moskva, 1985. 原色複製(部分) <YP51-A314>

5 (Zotter 203) Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Codex Vaticanus latinus 8541.

Vitae sanctorum. Latin. 106 leaves (quaternions). 280×214. Parchment. 14世紀中頃に筆写。ハンガリーにおいて制作か。106点の細密画。



(図1)

「諸聖人伝」ゴシック体。本写本は、短い説明文を除けば細密画のみで構成されており、ヴァチカンでも当初は手写本としてでは

なく、美術作品として扱われていた。細密画が描かれているのは色の薄い肉側の面だけで、毛側は空白のまま残されている。紙葉のレイアウトは規則的で、細密画は常に同じ大きさの枠の中に収められており、それを植物文様の多彩な縁取りが取り囲んでいる。細密画に描かれているのは、諸聖人および処女マリアの生涯からのエピソードである。各紙葉の上下の余白には、赤色のインクでそれぞれのエピソードについての短い説明文が書かれており、その説明は、若干の例外を除けば、ドミニコ会修士でジェノヴァの司教であったヤコブス・デ・ヴォラギネが1263-73年に編纂した「黄金伝説 (*Legenda aurea*)」に記されている物語に関連している。

現在の Vat. lat. 8541は、元来の写本のすべての紙葉を保存しているわけではない。この写本の紙葉は、ヴァチカン図書館に106葉、ニューヨークのピアポント・モーガン図書館に27葉、サンクト・ペテルブルクのエルミターージュ美術館に5葉、カリフォルニア大学のバークレー校にあるバンクロフト図書館に1葉所蔵されていることが分かっているが、本来はさらに多くの紙葉が存在していたと推測されている。

また、この写本はヴァチカン図書館においては伝統的に「諸聖人伝」と呼ばれてきたが、取り上げられている聖人にポーランド・ハンガリーの歴史と極めて密接な関わりを持つ人物が多いことなどから、ハンガリーにおいて、恐らくハンガリーのアンジュー家の委託を受けて制作されたものと思われ、それゆえ近年特にハンガリーの学者から「ハンガリー聖人伝」あるいは「アンジュー家の聖人伝」と呼ばれている。

* Issued as Morello, G. (ed.) *Vitae sanctorum: Vat. lat. 8541*. Japanese ed. Tokyo, 1992. 2 v. (*Codices e Vaticanis selecti quam simillime expressi iussu Ioannis Pauli PP II, consilio et opera curatorum Bibliothecae Vaticanae*, v. 78)

I-1 聖書

聖書を意味するラテン語 *biblia* はギリシア語では単に書物という意味であった。元々ヘブライ語で書かれた「旧約」とギリシア語で書かれた「新約」から成るが、様々な言語に翻訳され、部分的なものも含めると現在では2,200を超える言語に訳されているという。また、様々な挿図で飾られた写本が多数作られた。どれ位の数の写本が作られたのか、正確な数は分からないが、現存するギリシア語「新約」写本は断片も含めて5,700点程度である（うちバビルス本 115点、大文字写本 309点、小文字写本 2,862点、聖句集 2,412点）。

ヘブライ語写本では「カイロ写本」（895）、「アレッポ写本」（930）等が有名であり、ギリシア語写本では「シナイ写本」（4世紀）、「ヴァチカン写本」（4世紀）、「ウィーン創世記」（6世紀）等が有名である。4世紀にはシリア語・エチオピア語・コプト語等に訳され、5世紀にはラテン語・アルメニア語・グルジア語・アラビア語等に訳されているが、中世においてはラテン語訳（ウルガタ訳）が広く用いられた。

聖職者向けだけでなく、一般民衆等が理解しやすいように抜粋、翻案した「道徳聖書」や「貧者の聖書」「聖書物語」も作られた。

6 (Zotter 480) London, British Library. Ms. Royal 1 D v-viii.

Codex Alexandrinus. Greek. 4v. (279 leaves, 238 leaves, 118 leaves, 144 leaves)
327×254/60. Parchment.

恐らくアレクサンドリアで5世紀前半に筆写。

「アレクサンドリア写本」 アンシャル体。「シナイ写本」（4世紀筆写、英国図書館蔵）、「ヴァチカン写本」（4世紀筆写、ヴァチカン図書館蔵）と並ぶ、優れたギリシア語聖書写本のひとつ。これらは若干の欠損部分はあるものの、旧約・新約聖書のほぼ完全な写本として高い価値が認められている。「アレクサンドリア写本」は5世紀前半にエジプトで筆写され、ずっとエジプトにあったと推測されている。1621年にアレクサンドリアからコンスタンチノーブルに移され、さらに1627年にコンスタンチノーブル総主教キュリロス・ルーカリス（1572-1638）からチャールズ1世に贈られた。1757年、ジョージ2世が王室文庫を国に寄贈し、本写本も大英博物館が所蔵するところとなった。写本の装丁には英国王家の紋章とイニシャル「C.R.」が残っている。各丁は8葉から成り（quaternion）、王室文庫に入った時に4巻に分冊されたい。最初の3巻は旧約聖書、第4巻は新約聖書とクレメンス1世の書簡である。旧約聖書は10葉の、新約聖書はマタイ伝冒頭の25葉をはじめ、末尾などでも欠葉がある。テキストはダブル・コラムで組まれ、平均50-51行、1行20-25文字である。茶色のインクで書かれているが、諸篇（Book）の最初の行などに赤インクが使われ、また諸編（Book）

の最後には、赤と黒のインクで簡素な装飾模様が描かれている。5人の書記が筆写を担当している（2人が旧約とクレメンス1世の書簡、3人が新約）が、早い時期に、特にモーセ5書において、広範囲に訂正した跡が残っている。

この写本は、まず1657年にロンドンで刊行されたB. Walton: *Biblia sacra polyglotta* で底本として使われ、1786年にはC. G. Woideによりファクシミリが刊行されている。本複製は元々1879-83年に大英博物館から刊行された写真複製をサイズを縮小して刊行し直したものである。

* Issued as *The Codex Alexandrinus (Royal ms. 1 D v-viii) in reduced photographic facsimile*. London, 1909-57. 5 v. 単色複製 0.6倍
<HP13-49>

7 (Zotter 147) Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Codex Reginensis graecus 1.

Bible of Patricius Leo. Greek. 2+565 leaves. 410×270. Parchment.

10世紀前半に筆写。筆写地は不明。18点の細密画。

「パトリキオス・レオン(レオ)の聖書」レオンという人物が、聖母マリアと聖ニコラオス(レオンの兄弟コンスタンティノスが創建した修道院の守護聖人)に捧げるために作らせたもので、レオンの献呈図が挿絵として描かれている(f.2v)が、レオンという人物は特定されていない。前半部の旧約聖書のみが現存し、後半部の新約聖書は失われてしまっている。前半部に関する限り、挿絵と装飾を施した現在まで伝えられる唯一のビザンティン聖書の完本である。

写本は修道院に寄託されたものと思われるが、後にスウェーデンのクリスティーナ女王(1629-89)の図書館の蔵書となったため別名「クリスティーナ女王の聖書」とも呼ばれている。1690年に他の女王蔵書と共にヴァチカン図書館に購入された。このコレクションには写本が2,300点含まれ、Codex Reginensisとして管理されている。本写本は殆どは規則的なquaternionから成り、ひとまとまりが終わったところではしばしばternion。細密画の紙葉は1枚を除いては後から挿入されており、4人の筆跡を区別出来る。

* Issued as Dufrenne, S. (ed.) 「レオの聖書 ギリシア語旧約聖書」Tokyo, 1990. 3 v. (*Codices e Vaticanis selecti quam simillime expressi iussu Ioannis Pauli PP II, consilio et opera curatorum Bibliothecae Vaticanae*, v. 75) 原色複製(部分)単色複製 1.0倍 <YP51-A208>

8 (Zotter 1020) St. Petersburg, Rosiiskaya Natsionalnaya Biblioteka (Saltykov-Shchedrin). Ms. B 19A.

Leningrad codex. Hebrew. 493 leaves. 238×210. Parchment.

Shmuel b. Yaakov が(カイロで?) 1008年に筆写。

「旧約聖書レニングラード写本」ヘブライ語で書かれた完全な旧約聖書最古の写本。



(図2)

14世紀に旧約聖書のヘブライ語公認本文 (textus receptus) が成立するまでには、紀元前から中世に至る長い時間が必要だった。フェニキア文字から派生したヘブライ文字は母音を持たなかったため、旧約聖書本文はまず子音本文として記録され、2世紀頃にその標準本文が確立した後、口頭で伝えられた発音を母音記号を用いて表わす作業が行なわれた。標準本文および母音記号体系の確立には、パレスチナとバビロニアの〈マソラ学者〉(伝承者)の活動(7世紀から14世紀)が大きく貢献して

いる。既に母語として話されることの無くなっていたヘブライ語に対し、最終的に母音記号体系を確立したティベリアス(パレスチナの都市)の二つのマソラ学派(ベン・アシェル系とベン・ナフタリ系)のテキストを混合する形で、公認本文が成立した。レニングラード写本は、ベン・アシェル系の最も優れた本文で、マソラ学者アロン・ベン・モーシェ・ベン・アシェルによる本文の正確な写本であると言われている。子音字の上下に小さく書き込まれている記号が、母音やアクセント記号である(図2)。旧約聖書初期の完全なテキスト自体はもちろん、追記と巻末のリストもテキスト研究、ベン・アシェル系の母音記号体系(vocalization)研究など、聖書研究のすべての分野で価値あるものとなっている。

多くの印刷本の底本となり、今日最も一般的に用いられている R. Kittel (ed.) *Biblia hebraica*. 3d ed. (1937)、およびその改訂版である K. Elliger & W. Rudolph (eds.) *Biblia hebraica Stuttgartensia* (1977) などでも底本として用いられている。

この写本は、ユダヤ人実業家 Abraham Firkovich (1786-1874) が集めたヘブライ語写本コレクションのひとつで、1863年に当時のペテルスブルク王室図書館に売却したものである。

* Issued as Loewinger, D. S. (ed.) *Pentateuch, prophets, and hagiographa; Codex Leningrad B 19 A: the earliest complete Bible manuscript*. Jerusalem, 1970. 3v. 単色複製 1.0倍 <HP16-20>

9 Oxford, Bodleian Library. Ms. Rawlinson C. 259.

The New Testament (tr. by John Wycliffe, rev. by John Purvey). Middle English. 252 leaves. 175×124. Parchment.

1430年頃筆写。

ジョン・ウィクリフ「新約聖書」ゴシック体。英訳聖書の創始者ウィクリフ(1330?-84)による新約聖書。ウィクリフはオックスフォード大学で学んだ神学者で、当時のローマ教会の腐敗を弾劾し宗教改革の先駆者となった人物である。聖書こそすべての真理を含む最高の権威と考え、万人が自由に読めるようその英訳を企図した。1382年、主任司祭を務めていたイングランド・ライセスター州のラタワースに退いてから聖書翻訳に取り組んだとされる。

「ウィクリフ訳聖書」はラテン語からの重訳とはいえ聖書全体の初の英訳だった。

今日では旧約聖書はヘリフォードのニコラスが訳し、新約聖書のみウイクリフ自身によって（あるいは彼の影響下で）翻訳されたと考えられている。ラタワース時代のウイクリフの秘書ジョン・パーヴェイ（1353?-1428）が1388年に改訂し、それまでの英語本来の語順を無視したラテン語的な逐語訳をより自然な英語訳へと改めた。ウイクリフ派の人々によって広く普及し、現存する写本は200を数え、国内では慶應義塾図書館が1400年頃筆写されたものの部分を所蔵している。

本写本はパーヴェイの改訂したテキストで新約聖書のみを含む。この時代の多くの聖書の写本の特徴である精巧な彩色はないが、改訂600周年を記念して初の正確な「ウイクリフ訳聖書」のファクシミリ化が企画されたとき、当時の人々が読んだ典型的な聖書を体現しているという理由でこの写本が選ばれた。写本冒頭にカレンダーが付いている。本文は2段組、中型のイニシャルが見られる。ロマ書には二つ序文が付いており、最初の序文は初期訳の序文である。前の見返しには Tho. Hearne、Tho. Baker の署名入りの書き込みなどが、後ろの見返しには様々な歴史的な覚え書き（1531、1553、1554、1558年）がある。

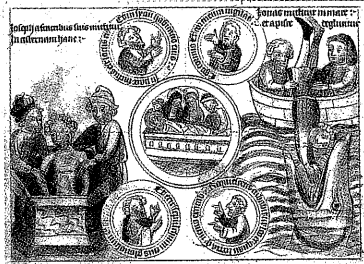
* Issued as Brake, D. L. (introd.) *The New Testament in English*. Sexcentenary ed. Portland, Or., 1986. 単色複製 1.0倍 <HP23-A9>

10 (Zotter 142) Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Codex Palatinus latinus 871.

Biblia pauperum. Latin & Early German. 23 leaves. 362×275. Parchment. ヘッセン北部またはテューリンゲン西部で、15世紀の第2四半世紀に筆写。

「貧者の聖書」 ゴシック体。一種の絵入り聖書。新約聖書におけるキリストの生涯は既に旧約聖書の中に示されていた、という予型論 (typology) の観点から、キリストの一生の代表的な場面とそれに対応する旧約聖書中の出来事を彩色図版で描いたものである。現存写本は14世紀のものが最古で、

約80点が知られ、英国図書館が所蔵するもの (Kings Ms. 5) のように金で装飾されたものもある。中央の円の中にキリストにまつわる場面、その四隅の四つの円の中に預言者像、その左右に旧約聖書の出来事が描かれている (図3)。図の上下にはそれぞれ3段組6行、2段組24行程度のラテン語及び初期新高ドイツ語による解説文が付いているが、こうした複数言語併記の



(図3)

「貧者の聖書」のファクシミリ版は本複製が初めての試みだった。筆写には主に黒茶色のインクが使用され、読誦部冒頭の頭文字は交互に赤と青で大きく特記されており、行を区切る罫線がはっきりと引かれている。本写本は、プファルツ選帝侯が収集したハイデルベルク・パラティナ文庫の旧蔵書だったが、30年戦争のさ中（1622）、当地を占領したカトリック連盟の指導者バイエルン侯マクシミリアン1世が文庫の書物

を篡奪して教皇グレゴリウス15世に献上した折に、2,500点の書物と共にローマに送られた。同時に送られた全く異なる写本とローマで合冊製本され、現在は全33葉の冊子となっている。第1-23葉が「貧者の聖書」。本来24葉（2 sexterns）だったがが最初の1葉が欠けている。

「貧者の聖書」はしばしば木版本として印刷され、断片も含めると120部以上の存在が知られる。また、インクユナブラとしても印刷され、1462年にバンベルクのA.Pfisterが印刷したものが最初とされる。

* Issued as Wirth, K.-A. (ed.) 「貧者の聖書」 東京 1985. 2v. (*Codices e Vaticanis selecti quam simillime expressi iussu Ioannis Pauli PP II, consilio et operarum curatorum Bibliothecae Vaticanae*, v. 51) 原色複製 1.0倍 <YP9-71>

11 (Zotter 914) Vorau, Stiftsbibliothek Vorau. Codex 273.

Die Vorauer Volksbibel. German (Bavarian - Austrian dialect). 460 leaves. 405×285. Parchment.

南ドイツで1467年に筆写。

「ファラウの民衆聖書」 斜体の草書体。写本の内容は、ドイツ語のバヴァリア・オーストリア方言で書かれた旧約・新約聖書の自由翻案（聖書物語）である。559点の挿絵には当時の信仰心や宗教上の理想が表現されているだけでなく、中世後期における人々の生活様式や服装なども細部に渡って描写されている。貴重な民俗研究の資料としても評価が高い。

複製本は、fol.72-97の26葉のみの部分複製であるが、完全な複製が1989-93年に4分冊で刊行されている。

* Issued as Hutz, F. (ed.) *Die Vorauer Volksbibel; Einführung.* Graz, 1986. 原色複製（部分） 1.0倍 <YP51-A85>

I-2 詩篇 Psalters

詩篇 (psalm) と歌うことが意図されている聖書テキスト (canticle) を収めた本を「詩篇唱集」(psalter) と呼ぶ。詩篇を朗唱することは聖務日課の基礎であり、多数の「詩篇唱集」が制作された。

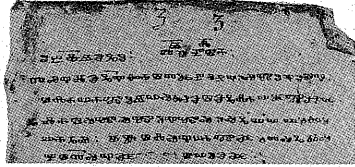
古い写本も残っており、最古のものと言われる「ウェスパシア詩篇」(8世紀)をはじめ、「ダゲルフの詩篇」(8世紀)、「ユトレヒト詩篇」(9世紀)、「シュトゥットガルト詩篇」(9世紀)、「パリ詩篇」(10世紀)、「ウィンチェスター詩篇」(11世紀)等、多数の複製も刊行されている。

12 (Zotter 819) Sinai, St. Catherine's Monastery.

Psalter of Sinai. Old Church Slavonic. 177 leaves (22 quaternions). 150×115. Parchment.

11世紀に筆写。

「シナイ詩篇（聖詩集）」 マケドニア版詩篇の最古のスラブ語訳。詩篇1から137を含む。グラゴール文字（Glagolitic）で書かれている（図4）が、これはキリル文字と並んで古代教会スラブ語の文献で用いられた文字で、865年頃キュリロス（St. Cyril）がギリシア文字などをもとに考案したとされる。キリル文字に約50年先行して成立したが、10世紀頃からは取って代わられた。本写本ではT、Mなど2、3のキリル文字が詩篇標題などに現われている。



（図4）

主に4人の写字生が筆写に携わったと考えられている。大小の穴があつたりページの端が切れているなど質的に欠点のある羊皮紙を使用しているため、各ページの欄や罫線の長さが一様でない。筆記は粗末な質の黒インクでなされ、イニシャルなどを強調するためにレモン・イエロー、赤オレンジの2色が主に使われている。2つの装飾的な飾り、鷲ペンで描いた鳥のドロイングが3つある（2つは黄色で彩色）。マケドニアン・カリグラフィーにおける装飾的要素としての鳥は、後世のキリル写本からも良く知られている。

製本されていないため、最初のフォリオと最後の頁が傷んでいる。quaternion 1は余分な葉を持ち、quaternion 10は第8葉が欠けている（81葉の次の葉。詩篇67：19-36の部分）。

* Issued as Altbauer, M. (ed.) *Psalterium Sinaiticum; an 11th century: Glagolitic manuscript from St. Catherine's Monastery, Mt. Sinai*. Skopje, 1971. 単色複製 1.0倍 <HP18-9>

13 (Zotter 756) Paris, Bibliothèque nationale de France. Ms. lat. 10525.

Psautier de Saint Louis. Latin. 260 leaves. 210×150. Parchment.

パリで1252-70年に筆写。78点の細密画。

「聖王ルイの詩篇」 プロトゴシック体。聖王ルイ（Saint Louis）の名で知られるフランス王ルイ9世（在位1226-70年）は、封建諸侯に対する国王の支配を固めると共に第6-7回十字軍を主導し、死後は教皇ボニファキウス8世により列聖された（1297）13世紀唯一人の王である。聖王ルイが所持していた詩篇集は少なくとも3つあることが分かっており、その中で最も有名なものが本写本「聖王ルイの詩篇」である。13世紀のパリで制作された彩色写本の中の傑作と評される細密画78点は、すべて旧約聖書に題材を採ったもので、カインとアベルの貢物からサウルの塗油までの各場面を描いている。特に戦闘の場面が多く、しかも武器、防具等が写實的に再現されている点が注目される。これは旧約聖書の表現というよりむしろ、十字軍遠征に代表される当時

の戦闘風景を描いたものであるという指摘もなされている。複製本は、ページ全面にわたる細密画78点のすべてを複製している。

* Issued as Thomas, M. (ed.) *Der Psalter Ludwigs des Heiligen; Wieder der 78 ganzseitigen Miniaturen des Manuscript Latin 10525 aus der Bibliothèque Nationale in Paris.* Graz, 1985. 原色複製 (部分) 1.0倍 <KC482-A16>

14 (Zotter 481) London, British Library. Ms. Royal 2 B VII.

Queen Mary's Psalter. 319 leaves. 275×174. Parchment.

英国で14世紀 (1320年頃か) に筆写。223点の細密画。

「メアリー女王の詩篇」ゴシック体。筆写から約200年後に、所蔵者がチューダー朝のメアリー女王 (在位1553-58) であったことから「メアリー女王の詩篇」と呼ばれる。動物寓話 (bestiaries) やキリストの生涯、聖人伝等様々な挿図が含まれている。王室のために制作されたものと思われるが、古い記録がない。

本複製はコロタイプによる単色複製。

* Issued as Warner, G. (ed.) *Queen Mary's Psalter; miniatures and drawings by an English artist of the 14th century.* London, 1912. 単色複製 (部分) <VF 5-Y2530>

I-3 福音書 Gospels

1世紀 (A.D.60頃-) に編集されたと思われるマルコ、マタイ、ルカ、ヨハネによる4福音書が新約聖書の正典である。最近の文献学によると、共通点の多いマルコ、マタイ、ルカの「共観福音書」も5つの文献から派生した可能性が強いと言うが、4福音書にヒエロニムスによる序文とエウセビウスによる対観表 (canon tables) を付けた書物が古くから作られており、現存数も多い。マタイは人、マルコはライオン、ルカは雄牛、ヨハネは鷲というシンボルも確立しており、装飾的な写本が多い。

6世紀に作られた「ロッサノ紫の福音書」をはじめとして、島嶼写本と呼ばれるイギリスで制作された「リンディスファーン福音書」(8世紀頃) や「ダロウの書」(7世紀)、あるいはオットー朝を代表する「オットー3世の福音書」(10世紀末) 「ライヘナウの典礼用福音書抄本」(11世紀) 等の有名な写本はすべて複製が刊行されている。

15 (Zotter 240) Dublin, Trinity College Library. Ms. A. I. 6 (58).

The Book of Kells; Lat. Evangeliar. Codex Cenannensis. Latin. 340 leaves. 330×241. Parchment.

アイオナ島で8世紀から9世紀の間に筆写。

「ケルズの書」アイリッシュ・ハーフ・アンシャル体。「ダロウの書」(680年頃か

ら8世紀初め)、「リンデイスファーン福音書」(698年頃。最近の研究によれば8世紀初め)に続くケルトの3大写本の一つで、装飾写本芸術の最高峰と称賛される作品。スコットランドのアイオナ島で制作されたのち、ノルマン人の襲来から逃れてアイルランドのケルズの修道院に運ばれ、そこで最終的に完成したと推定される。その後、1660年代にミース大司教 Henry Jones によりダブリン大学トリニティカレッジ図書館へ寄贈され、現在に至っている。現存部分は340葉であるが、30葉程度が欠落したようである。写字生の人数については諸説があり、少なくとも主要な3人の写字生が存在したと見られる。構成は、福音書そのものに先立って、対観表、各福音書の物語の梗概と福音書記者の摘要などが置かれている。福音書本文は「ウルガタ版聖書」に基づいて、「島嶼の大文字」と呼ばれる太字で1頁16行または17行で書かれている。各節の頭文字を中心に緻密な装飾がなされており、特に、マタイ福音書第1章第1節の‘Liber generationis’ (fol.29r) など各福音書の初めの言葉や、‘Chi Rho’ (キリストの名前の略)の組み合わせ文字 (fol.34r) に施された豪華な装飾は有名である。なお、四福音書はそれぞれ福音書記者の象徴と肖像の挿画に始まっているが、肖像画のうち聖マルコと聖ルカが欠落し、聖マタイと聖ヨハネのもののみが現存する。キリストは魚、獅子、蛇などの様々な動物のシンボルで表わされたり、それらを伴って登場する。こうした装飾や挿画は、聖書の理解を助けるだけでなく、視覚に訴える図像として布教活動の上で重要な役割を果たして来たと考えられている。ケルト式の組紐や渦巻等の細文模様ที่印象的な本写本は、ケルト文化とキリスト教の要素が装飾的表現の効果において見事に組み合わせられた作品と言える。

本複製は部分複製であるが、完全な複製が1989年に Lucerne で刊行されているし、CD-ROM も2000年にダブリンで刊行されている。

* Issued as Henry, F. (ed.) *The Book of Kells; reproductions from the manuscript in Trinity College, Dublin.* London, 1974. (repr. 1976.) 部分複製 (原色図版126点、白黒図版75点) <YP14-1051>

16 (Zotter 7) Alba Julia, Biblioteca Nationala a Romanier, Filiala Batthyaneum. Manuscript 162.

Codex Aureus Laureshamensis. Part of the *Lorsch Gospels.* Latin. 111 leaves. 370×271. Parchment.

アーヘンで810年に筆写。

「黄金福音書」 アンシャル体、一部カロリング朝体。カロリング朝シャルルマーニュ帝(西ローマ皇帝。カルル1世。742-814)の典型的な彩色写本。帝の命によりロルシェ教会のミサで使用する為に、アーヘンで官廷派(Ada派)と呼ばれるグループにより制作された。表紙は象牙に聖母子やキリスト等を彫った板が使われた。1479年に、大きすぎて使いにくいという理由から Eberhard von Wassen によりこの写本は前半分と後半分の二つに分けられた。1461年にはロルシェがプファルツ選帝侯の支配下に入り、本写本は16世紀にはハイデルベルクの有名なパラティナ文庫の蔵書となっ

た。30年戦争後、同公の蔵書全体がヴァチカンに入ったので、現在でも「ロルシェ福音書」の後半部分（127葉）はヴァチカン図書館が所蔵（Palat.lat.50）しており、裏面の象牙表紙はヴァチカンの Museo Sacro の所蔵となっている。

詳細な経緯は不明だが、「ロルシェ福音書」の前半部分（111葉）は1785年にトランシルヴェニアの貴族 Ignatz Batthyány の手に渡り、彼のコレクションとなった。彼の図書館のあった都市 Karlsberg（ハンガリー）は1937年にはルーマニア領となり、都市名も Alba Julia となる。彼の図書館は現在はルーマニア国立図書館の一部分となっている。一方、象牙表紙は1866年にロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート美術館の所蔵となった。

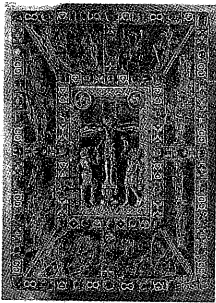
本複製は部分的なものだが、二つの部分と両方の象牙表紙を含む完全な複製が2000年に Lucerne で刊行されている。

* Issued as Simonescu, D. (ed.) *Codex aureus*. Bucuresti, 1972. 原色複製（部分）様々な倍率 <HP25-111>

- 17 (Zotter 637) Nuremberg, Germanisches Nationalmuseum. Ms. 2* 156 142. *Evangeliar; Codex Aureus Epternacensis*. Latin. 136 leaves. 440×310. Parchment.

エヒテルナッハで1035-40年に筆写。

「エヒテルナッハの黄金福音書」 カロリング朝体（小文字）。神聖ローマ皇帝オットー3世（在位998-1002）からハインリヒ2世、コンラート2世、ハインリヒ3世（在位1039-56）のオットー朝時代を代表する作品で、トリーアに近いエヒテルナッハ修道院で制作された福音書。外装に施された浮彫は、象牙彫りによる磔刑像（図5）で、十字架を支える大地と上部に太陽および月を配し、また、金の打出しによりオットー3世と母后テオファヌの姿を表わしている。浮彫の周囲は宝石と瑠璃細工で飾られるという豪華なもので、本体より約半世紀前に作られたと見られる。写本の内容は、冒頭の「栄光のキリスト」の図と福音書を掲げる天使の図から、ヒエロニムスの序文、エウセビオスの書簡、対観表（各福音書の共通な文章を対照した表）と続く。四福音書記



（図5）

者像や、受胎告知に始まる数々の説話場面を描いた挿画、「Beato papae Damaso」の頭文字「B」を大きく描いた装飾文字のページなど、金をふんだんに用いて華やかに写本全体が彩られている。複製本は、単色図版94ページとカラー図版12ページ、さらに外装の単色図版とカラー図版（中央部分のみ）1ページずつを含んでいる。

* Issued as Metz, P. (ed.) *The Golden Gospels of Echternach*. Tr. by I. Schrier and P. George. New York, 1957. 単色複製（部分）原色複製（部分）0.75倍 <HP23-57>

18 (Zotter 251) El Escorial, Real Biblioteca del Monasterio de San Lorenzo de El Escorial. Codex Vitrinas 17.

Golden Gospel of Heinrich III. Latin. 170 leaves. 500×350. Parchment.
エヒテルナッハで1043年から46年にかけて制作。

「ハインリヒ3世の黄金福音書」カロリング朝体(小文字)。ハインリヒ3世(1017-56、在位1039-56)は神聖ローマ帝国の最盛期を築いた賢明な皇帝として知られ、教会改革を行ない学芸を奨励した。皇帝就任時に、現在ブレーメンにある「聖書抜粋」(Pericopes)を贈呈された返礼に、この写本と、現在ウブサラにある「福音書」(*Codex Caesarius Upsaliensis*)を当時最も卓越していたエヒテルナッハ修道院に制作を命じた。完成したばかりのシュバイエル修道院に寄贈されたが、前出17の「エヒテルナッハの黄金福音書」やブリュッセルにある「聖書抜粋」等と共にエヒテルナッハ派の写本芸術の最重要作品と考えられている。極めて完成度の高い細密画が随所に挿入され、その名の示す通り金色を大量に使用している。

本複製は全部で157図版(細密画3枚が原色で復元)の部分複製だが、完全な複製が1995年にマドリッドで刊行されている。

* Issued as Boeckler, A. *Das goldene Evangelienbuch Heinrichs III.* Berlin, 1933. (*Jahresgabe des deutschen Vereins für Kunstwissenschaft*, 1933) 単色複製(部分) 0.7倍 <096.1x-B671g>

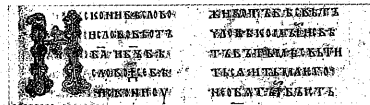
19 (Zotter 1021) St. Petersburg, Rossiiskaya Natsionalnaya Biblioteka.

Ostromir Gospel. Russian (Church Slavonic). 294 leaves. 350×330.
Parchment.

キエフで1056年から57年にかけて筆写。

「オストロミール福音書」中世キリル文字のアンシャル体(大文字)(図6)。本書

はロシアに現存する最古の彩色写本であり、典礼用の福音書抜粋(Aprokos)形式のものである。オストロミールは当時ノボゴロドの太守だった人物であり、本写本は太守オストロミールのために、補祭グリゴイとその写



(図6)

字生たちによって1056年から57年にかけて制作された。植物装飾がキエフのSt. Sophia教会の壁画と非常に似ているので、この写本もキエフで制作されたと思われる。本文は左右2段からなり、各節の冒頭では金、赤、青などの華やかな色の装飾文字が用いられている。fol. 1v、87v、126rにはそれぞれ福音書著者のヨハネ、ルカ、マルコが細密画によって描かれている。古代教会スラブ語を研究する上でも貴重な資料の一つである。

* Issued as *Ostromirovo evangelie; 1056-1057; faksimil'noe vosproizvedenie.* Leningrad, 1988. 原色複製 1.0倍 <YP51-A669>

20 Moscow, Rossijskaya Gosudarstvennaya Biblioteka.

Arhangelski Gospel in 1092. Old Russian. 178 leaves. 208×165. Parchment.
ロシアで1092年に筆写。

「アルハンゲリスク福音書」 Ustav 体キリル文字。前項の「オストロミール福音書」、そして1070年代成立の「スヴァトスラフの文集」に続く、11世紀にロシアで筆写された現存写本の一つである。1877年にアルハンゲリスク県の農民がモスクワに持ち込み、美術品ブローカーのボリシャコフに売却、その後、500ルーブルでルミャンツェフ博物館（ロシア国立図書館の前身）に転売されたという経緯を持ち、よって「アルハンゲリスク福音書」の名称で世に知られることとなった。内容は典礼用福音書抜粋（Aprokos）であり、言語的な特徴からロシア南方で筆写されたものと考えられている。全178葉から成るが、冒頭の24葉をはじめ、随所の欠葉が指摘されている。また、最終の第178葉はのちに綴じ込まれたと見られる。筆跡によって第1葉～76葉、77葉～175葉、175葉から177葉の3つの部分に分けることが出来る。なお、本複製はルミャンツェフ博物館が設立50年を記念して出版したものである。1912年の5月から6月にかけて写真撮影が行なわれ、すべてカラー印刷という、当時としては最先端の技術を駆使して製作された。

* Issued as *Arkhangelskoe evangelie 1092 goda.* Moskva, 1912. 原色複製 1.0倍 <HP25- A22>

21 Moscow, Rossijskaya Gosudarstvennaya Biblioteka. Ms.Grg 9.

Grigorovich Gospel. Church Slavic. 58 leaves. 215×145. Parchment.
バルカン半島で1301-07年頃筆写。

「グリゴロヴィッチ福音書」 文献学者 V.I.Grigorovich (1815-76) が発見した福音書の断片。「ドブロミール福音書」（12世紀に筆写）や「カルピニア福音書」に並ぶバルカン・スラブ語福音書である。

* Issued as Despodova, V. *Grigorovicevo evangelie, br. 9.* Prilep, 1988. (*Make-donski srednovkovni rakopisi, 2*) 単色複製 1.0倍 <HP25- A34>

I-4 黙示録 Apocalypses

「黙示録」は1世紀頃、小アジア西岸で編纂された啓示の文書で、著者はヨハネと呼ばれる人物である。現在では、新約聖書の正典として扱われ、様々な図像に飾られた写本が多数現存する。

彩色写本は9世紀から作られ始め（「トリニア黙示録」が有名）、10世紀にはリエバナのベアトゥスによる注釈書が流布し、この「ベアトゥス写本」は25部現存する。その他、11世紀初めにハインリヒ2世のために作られた「バンベルク黙示録」、ロンドンにある「ラ

ンベス黙示録」(13世紀末)、ダブリンにある「ダブリン黙示録」(13世紀末)等が有名である。

複製も多数作られており、Zotterによれば17種の「黙示録」写本に対し複製が作られている。

22 (Zotter 1036) New York, Pierpont Morgan Library. Ms. 644.

Beatus of Liebana: *Commentary on the Apocalypse*. Latin. 300 leaves. 387 × 285. Parchment.

10世紀半ばに Maius により彩色、筆写。89点の細密画。

ベアトウス「黙示録の注解」西ゴート書体。スペインで流布した「黙示録注解書」にリエバナのベアトウス(d.c.798)によるものがある。9世紀後半から13世紀前半までに、モサラベ様式、ロマネスク様式、ゴシック様式とスタイルを変えて制作された25の写本が現存し、I, II a, II bの3系統に分類されている。本写本は系統II aの中で最も古いと目されるもので、10世紀半ばにサン・ミゲール・デ・エスカラーダ修道院の為に制作された(奥付f.293)。14世紀までは同修道院が所蔵し、19世紀初頭までスペインにあったが、19世紀半ば以後G.Libri, Ashburham 伯, H.Y.Thompsonといったコレクター達の手に渡り、やっとなら1919年にJ.P.Morgan, Jr.が購入して、現在のようにモーガン図書館の蔵書となった。モーガン図書館は他にII bに属する「ウエルガス写本」(1220年筆写)というベアトウス本も所蔵している。



(図7)

ベアトウス「黙示録の注解」はどの本も挿図が多く(図7)、13写本について複製が刊行されている。本目録で取り上げているのは3点だが、他にも「コゴーリヤ写本」「エスコリアル写本」「サン・スヴェール写本」「オスーマ写本」のようなI群のものや「バルカバード写本」(II a群)「トリノ写本」(II b群)等の複製が刊行されており、特に挿図中の世界図(T-O図)(口絵1参照)はそれぞれに特徴があって比較研究されている。

* Issued as his *Apocalipsis*. Valencia, 2000. 3 v. 原色複製 1.0倍 <YP51-A760>

23 Madrid, Biblioteca Nacional. Ms. Vitr. 14-2.

Beatus of Liebana: *Commentary on the Apocalypse*. Latin. 312 leaves. 360 × 280. Parchment.

1047年にカスティリヤ及びレオン王フェルディナンド1世と王妃サンチャの命により能書家ファクンドゥスが制作。68点の細密画。

ベアトウス「黙示録の注解」西ゴート書体。通称「フェルディナンド1世本」(または「ファクンドゥス写本」と呼ばれる本写本は、前出22「モルガン写本」と同じ系

続II aに属する。王家の特注品である本書は修道院以外のために制作された唯一の写本であり、王の死後は17世紀までレオンのサン・イシドロ教会に所蔵されていた。保存状態は極めて良好で、様式はモサラベ美術（ムーア人支配下でのキリスト教美術）の影響下にある。細密画の大胆な色彩対比と明快なデザイン性、また王家の持ち物にふさわしく金彩が多用されている点が特徴である。

岩波版は部分複製だが、完全な複製が1996年にマドリッドで刊行されている。

* Issued as J. ゴンザレス・エチュガライ〔ほか〕解説 大高保二郎, 安發和彰訳「ベアトウス黙示録註解」Tokyo, 1998. 部分複製（原色図版41点、白黒図版13点）<YP9-107>

24 (Zotter 692) Paris, Bibliothèque nationale de France. Ms. français 403r.

Apocalypse. French. 45 leaves. 324×175. Parchment.

アングロ＝ノルマン地域で13世紀に筆写。



(図8)

「黙示録」ゴシック体。92の美しい彩色挿絵付黙示録。挿絵だけの類書とは異なり、フランス語の本文と注釈を伴う構成を最初から意図して制作された点が特徴である。ページの上半分に挿絵が描かれ（図8）、下半分に2段組テキストが対応している。13世紀にアングロ＝ノルマン地域で制作され、シャルル5世、シャルル6世、Bedford公、Louis de Brugesの手を経て、ルイ12世の所蔵となり、以降フランス王立図書館（現在のフランス国立図書館）の蔵書となった。1840-60年頃に17葉と18葉の間にあった1葉（恐らくアンチクリストを描いた挿絵）が切り取られて紛失している。

本書の複製は1900年に単色写真によるものがパリで刊行されたが（L. Delisle et P. Meyer, 1900-01）、原色による複製は本複製が初めてである。

* Issued as Otaka, Y. & Fukui, H. (eds.) *Apocalypse: Bibliothèque nationale fonds français 403; reproduction photographique en couleurs suivie de l'édition des textes*. Osaka, 1977. 原色複製 0.66倍 <HP25-112>

* Also issued as Otaka, Y. & Fukui, H. (eds.) *Apocalypse: Bibliothèque nationale fonds français 403; reproduction photographique en couleurs suivie de l'édition des textes*. Osaka, 1981. 原色複製 0.66倍 <HP25-A16>

25 Paris, Bibliothèque nationale de France. Nouv. acq. lat. 2290.

Beatus of Liebana: *Commentary on the Apocalypse*. Latin. 168 leaves (24 quaternions). 440×305. Parchment.

13世紀前半の作。69点の細密画。

ベアトウス「黙示録の注解」カロリング・ゴシック書体。カステイーリャの王都ブルゴス近在のサン・アンドレス・デ・アローヨ修道院（尼僧院）が所蔵していたことから、「アローヨ写本」と通称される。系統IIbに属し、挿絵入りベアトウス写本群

最終期の代表作。従来のモサラベ様式、ロマネスク様式の伝統に則りながら、細密画の自然主義的な人体表現、書体などの面で、初期ゴシック様式の影響が見てとれる。具体的な制作地などは不明だが、金箔、銀箔を多用した豪華さや、テキストの行間や余白に修道士の注意書きが少ないことから、何か特別な理由で制作されたのではないかと推測されている。落丁が少なく保存状態は良好。ファクシミリ版は19世紀に原写本（現在167葉）から切り離された1紙葉（ニューヨーク、Bernard H. Breslauer collection）を元の位置に戻して複製している。

* Issued as 「ベアトゥス黙示録註解 アローヨ写本；フランス国立図書館蔵本ファクシミリ版：nouv. acq. lat. 2290 = *Beato de Liébana, códice de San Andrés de Arroyo*] Japanese ed. Tokyo, 2000. 2v. 原色複製 1.0倍 <YP51-A736>

26 (Zotter 108) Cambridge (Eng.), Trinity College Library. Ms.R.16.2.

Anglo-Norman Apocalypse. Old French (Anglo-Norman). 32 leaves.
432×305. Parchment.

北フランス又は英国で1242-50年に筆写。

「黙示録」ゴシック体。ヘンリー3世(1207-72)妃エレアノール(d.1291)の為に制作されたと思われる彩色写本。13世紀はタタールの侵入やエルサレムの陥落(1244年)が起こる等ヨーロッパにとって危機の時代であり、聖書のテキストにBerengaudus(fl. c. 859)の注釈文が添えられた黙示録が流行を見た。本写本は1649年、Anne Sadleirによりケンブリッジ大学Trinity Collegeに寄贈されたもので、71の細密画が入り入れられ、少なくとも4人以上の画師が判別される。複製はまず1909年にRoxburghe Clubから出されたが、その時は原色複製は3葉のみであった。

* Issued as Otaka, Y. & Fukui, H. (eds.) *Apocalypse anglo-normande* [Cambridge Trinity College MS.R.16.2]; *reproduction photographique en couleurs suivie de l'édition des textes*. Osaka, 1977. 原色複製 0.5倍 <HP25-107>

27 (Zotter 654) Oxford, Bodleian Library. Ms. Douce 180.

Douce Apocalypse. Latin. 84 leaves. 311×203. Parchment.

イギリス、ウェストミンスターで1272年に筆写。97点(当初は103点)の細密画。

「ドゥースの黙示録」テキストウーラ体。本写本はイギリス王エドワード1世とエリノア王妃の注文によって制作されたものである。その後の所有者については不明であるが、19世紀の前半にはフランシス・ドゥース(1757-1834)の所有となり、現在はボドレイ図書館に所蔵されている。ドゥースは有名なコレクターで、写本を含む蔵書、コインがボドレイ図書館に遺贈され、書簡、手稿は大英博物館へ遺贈された。写本(文書を含む)だけでも約500点に上る。本写本はヨハネ黙示録のテキストに97点の細密画が描かれ、画家の個性を感じさせる芸術的な装飾が施されている。現在の製本は17世紀に施されたもの。13世紀のイギリス写本の中で最も重要なものの一つであり、完全な複製が1981年に刊行されている。

* Issued as Klein, P. K. (ed.) *Endzeiterwartung und Ritterideologie; die englischen Bilderapokalypsen der Frühgotik und MS Douce 180*. Graz, 1983. 原色複製 (部分) 1.0倍 <YP51-A83>

I-5 時禱書 Book of hours

個人向けの祈禱書で *primer* とも *horae* とも呼ばれる。テキストの中心は1日の8つの時間(時課)に唱える祈禱文(聖母マリアの小聖務日課)で、この前にカレンダー(年暦)が付けられ、聖人の祝日が表になっている。また、小聖務日課の後に聖人の連禱(litany)や死者聖務(office of the dead)が付されている。

13世紀頃から形式が整えられ始め、16世紀まで作られ続けた。美しい細密画が描かれ、豪華なものも作られた。以下で取り上げているものの他、「イサベラ女王の時禱書」「メアリー・スチュアートの時禱書」「ジャンヌ・テグラーの時禱書」「ブルゴーニュのマリーの時禱書」等は有名な時禱書で、いずれも複製が刊行されている。

時禱書はインクナブラの時代には印刷されるようになり、特に1490年代にパリで多数印刷された。

28 (Zotter 619) New York, Metropolitan Museum of Art.

Les Belles heures de duc de Berry. Latin. 224 leaves. 239×170. Parchment.
パリでランブル兄弟が1410-13年に制作。

「ベリー公の美麗時禱書」 テキストウーラ体。94の1頁大の細密画、54の長方形の小型細密画、月暦内の24の円形飾り模様(メダイオン)、蔓葉模様の縁飾りなどで飾られた美しい時禱書。ベリー公の財産目録には細密画家の名前が記されていないが、「豪華時禱書」(後出30)と様式的に類似していることから、Pol, Jean 及び Herman のランブル三兄弟が制作に関与したのは間違いないと考えられている。本書はランブル兄弟が最初に仕えていたブルゴーニュ剛勇公フィリップ(1342-1404)の兄であるベリー公のため装飾に携わった初めての写本であり、次に着手したのが「豪華時禱書」であった。ランブル兄弟がフィリップ剛勇公のために彩色した「道徳聖書」(Ms.fr.166)は彼らの初期の仕事であるが、この一連の時禱書とも共通点が多い。ベリー公の死後はアンジュー公妃でナポリ・シチリア女王であるアラゴンのヨランドの手に渡り、細密画家達にモデルとして用いられた。19世紀末にパリのロスチャイルド家に入り、1954年モーリス・ロスチャイルドからクロイスターズ(メトロポリタン美術館分館)が入手した。豪華な挿絵入り月暦に始まり、アレクサンドリアの聖女カタリナの生涯を描いた一連の挿絵など、ヤコブス・デ・ヴォラギネの「黄金伝説」に基づいた諸聖人の挿絵が豊富に含まれている。聖女カタリナはヴェアロワ家が特に崇敬した聖人の1人。貴顕の出であったことから、多くの王家の女性は彼女の庇護を受けて

いた。

* Issued as Rorimer, J. J. (introd.) *The Belles heures of Jean, Duke of Berry; Prince of France. At the Cloisters, the Metropolitan Museum of Art.* New York, 1958. 部分複製 (単色図版1点, 原色図版32点) 1.0倍 <KC482-66>

* Also issued as Meiss, M. & Beatson, E. H. *The Belles heures of Jean, Duke of Berry; the Cloisters, the Metropolitan Museum of Art.* New York, 1974. 部分複製 (原色図版127点, 単色図版30点) 1.0倍 (原色図版部分) <KC482-A38>

29 (Zotter 762) Paris, Bibliothèque nationale de France. Manuscrit Nouv. acq. lat. 3093.

Les Très belles heures de Notre Dame. Latin. 120 leaves. 279×199. Parchment.

パリで14世紀末から15世紀初頭にかけて筆写。25点の挿絵はナルボンヌの祭壇飾布の画家 (ジャン・ドルレアン) とその弟子による。

「いともしき聖母時禱書」(パリ分冊) テクストウーラ体。この時禱書は、前出28と同じくベリー公ジャンによって注文され、1382年頃にまずパルマン・ド・ナヴァールが制作を開始した。このパルマン・ド・ナヴァールはベリー公の兄フランス王シャルル5世 (1338-80) の画家でもあった。しかし、ベリー公は制作を途中で中断し、ランブル兄弟も含むお抱えの芸術家たちの手で全面的に彩色された前半部分と、まだ一部分しか彩色を施されていない後半部分 (後出31) の二つに分割した。彩色済みの部分は財産管理人ロビネ・デタンブに譲渡された。この前半部分が、現在パリのフランス国立図書館に所蔵されている「いともしき聖母時禱書」(パリ分冊) である。その装丁からはデュプレシ=シャティヨン家が所有していたとも見られており、さらに別の所有者の手に渡ったことが推測される。19世紀半ばにロスチャイルド家の所有となり、1956年にモーリス・ロスチャイルドによってパリ国立図書館へ寄贈された。全体で25点の細密画を含んでいる (図9)。祝祭日の格付けが特記され、ラテン語で綿密に編纂された暦は各月1ページずつ、合計3葉の複葉に書写されている。続くテキストは、「受胎告知」の絵画と「Domine labia mea aperies (主よ我が口唇を開き給え)」という言葉に始まり、聖母の小聖務、連禱をともなう悔悛詩篇、死者の聖務という3編の基本テキストから成り立っている。



(図9)

ちなみに、ベリー公が注文した別の小時禱書 (*Petites heures*) もパリのフランス国立図書館に蔵されている (Ms. lat. 18014) が、こちらは1372年より制作が開始され、1390年頃完成、さらに前出のランブル兄弟による細密画が加えられている。

* Issued as エバーハルト・ケーニヒ解説 「ベリー公のいともしき聖母時禱書」; パ

り国立図書館蔵本; *nouv. acq. lat. 3093*] Japanese ed. Tokyo, 1994. 2 v. 原色複製 1.0倍 <YP51-A394>

30 (Zotter 120) Chantilly, Musée et Château de Chantilly (Musée Condé).

Ms.65.

Très riches heures de duc de Berry. Latin. 206 leaves. 290×210. Parchment.
パリにて1412年頃制作開始。細密画はランブール兄弟とジャン・コロンプによる。「ベリー公の豪華時禱書」ゴシック体。国際ゴシック時代のフランス写本芸術を代表する傑作。多数の大型・小型イニシャル、文末飾り、縁取りまで及ぶ葉飾りなどによって豪華に装飾されている。特に131点に及ぶ当時の著名な彩飾画家によって描かれた細密画(大型細密画66点、小型細密画65点)は、他の写本に類を見ない見事さで有名である。

1412年頃、ベリー公の依頼で画家ランブール兄弟が制作を開始した。1416年にベリー公が亡くなった時、写本は未完成の状態であった。同年のランブール兄弟自身の死によって制作は中断され、最終的に1485年から89年の間に、サヴォワ侯カルル1世のもとでジャン・コロンプ(*fl.*1463)が細密画を完成させた。両者の様式は全く異なっている。

冒頭の月暦では12ヶ月の行事図が1ヶ月毎に全頁大に独立して描かれている。これは「豪華時禱書」以前には見られず、後世の写本に大きな影響を与えた手法である。また8枚の単葉に描かれた大型細密画(「占星学の人体」「ローマの図」など)が含まれているが、同時代の時禱書には珍しい主題であるため、本来本書のために制作されたのではない細密画が挿入されたと考えられている。

31の折丁で構成されており、基本的に quaternion から成る(31中20)。テキストは幅48mmの2段組で、赤い罫線に従い1頁に21、22行のテキストが記されている。

ベリー公が注文した時禱書には他に大型の *Grandes heures* (1409年頃に完成。Paris ms.lat.919) やブリュッセルの王立図書館に蔵されている *Très belles heures* (1402年以前に完成。Ms.11060-1) があり、全部で6点が知られている。

* Issued as レイモン・カザル著、木島俊介訳「ベリー侯の豪華時禱書」東京1989。原色複製(部分) <HP87-E1>

* Also issued as Durrieu, P. (ed.) *Les très riches heures de Jean de France duc de Berry; Chantilly*. 生駒1999。原色複製(1葉)と単色複製(部分) 1.0倍 <YP51-A701>

31 Torino, Musei Civici di Torino. Inv. N° 47.

Heures de Turin - Milan. Latin. 128 leaves. 284×206. Parchment.

パリとネーデルランドで14世紀末から15世紀中頃にかけて筆写。挿絵はヤン・ファン・エイクとその弟子による。「トリノ=ミラノ時禱書」(ミラノ分冊) テクストウーラ体。前出29で述べた通り、

ベリー公ジャンが制作を中断した時禱書のうち、一部分しか彩色が施されないまま残された後半部分はネーデルランドにもたらされた。この部分は、ホラント伯ヨーハン・フォン・バイエルンなど様々な注文主によって制作が続けられ、同地で15世紀の中頃に完成を見た。ヤン・ファン・エイク (c. 1390-1441) とその追随者によって彩色された同書は、フランドル絵画史においても極めて重要な作品と評される。しかし、この後半部分はさらに分割されることとなる。後に「トリノ分冊」と呼ばれる一方は、祈禱文の大部分を含み、他方「ミラノ分冊」は、ミサ典礼文を収める。後者はミラノのトリヴルツィオ家が所有していたため「ミラノ時禱書」と呼ばれていたが、1935年にトリノ市立美術館へと移された。これが、「トリノ＝ミラノ時禱書」(ミラノ分冊)である。また、前者はサヴォイア公家の所有から1720年にトリノ国立・大学図書館に移されていたが、1904年の火災で焼失した。幸運にも、焼失のわずか2年前にポール・デュリュエ伯 (1855-1925) がパリでこの分冊の複製を刊行しており、現在「トリノ時禱書」(トリノ分冊)として資料が残されている。なお、この祈禱文のうち数葉はパリのルーブル美術館の所蔵となっていたため、火災を免れ、4葉が現存する。この部分は「ルーブル断片」として知られる。

複製本は、「トリノ＝ミラノ時禱書」(ミラノ分冊)の完全複製に加えて、トリノ時禱書残闕として、焼失した「トリノ時禱書」(トリノ分冊)の残された資料からの単色複製と「ルーブル断片」の完全複製を含んでいる。

* Issued in 「トリノ＝ミラノ時禱書：トリノ市立美術館蔵本」 Japanese ed. Tokyo, 1996. 3v. 原色複製 1.0倍 <YP51-A496>

32 (Zotter 872) Torino, Biblioteca Nazionale Universitaria. Ms. K. IV. 29.

Heures de Turin. Latin. 93 leaves. 280×190. Parchment.

パリとネーデルランドで14世紀末から15世紀中頃にかけて筆写。

「トリノ時禱書」(トリノ分冊) テクストゥーラ体。1904年に焼失。31で述べた通り、30の後半部のうちの祈禱文の部分。ちなみに前記火災で焼失した「サヴォイア時禱書」(Ms. E. V. 49)も1910年にロンドンで複製が刊行されている。

* Issued in 「トリノ＝ミラノ時禱書：トリノ市立美術館蔵本」 Japanese ed. Tokyo, 1996. 3v. 単色複製 1.0倍 <YP51-A496>

33 Paris, Musée du Louvre. RF 2022-2025.

Les Très belles heures de Notre Dame. Latin. 4 leaves. 284×206. Parchment.

パリとネーデルランドで14世紀末から15世紀中頃にかけて筆写。

「いともしき聖母時禱書」(ルーブル断片) テクストゥーラ体。31で述べた通り、32のうちの4葉で、焼失を免れた部分。

* Issued in 「トリノ＝ミラノ時禱書：トリノ市立美術館蔵本」 Japanese ed. Tokyo, 1996. 3v. 原色複製 1.0倍 <YP51-A496>

34 (Zotter 801) Rouen, Bibliothèque municipale. Ms.183.

Book of hours from the School of Jean Bourdichon. 59 leaves. 170×88.
Parchment.

Tours で16世紀に筆写。

「ブルディション派の時禱書」 ゴシック体。ダブル・コラムで書かれたラテン語カレンダー付時禱書。11枚の細密画があり、他の頁も多くの装飾模様で飾られている。細密画はトゥールの画家ジャン・ブルディション (1457頃-1521) とその流派の影響を受けている。ブルディションの制作した時禱書として、フランス国立図書館の所蔵する *Grandes heures à Anne de Bretagne* (Ms.lat.9474) があり、この写本と様式が似ている。1859年、Martainville コレクションの一冊としてルーアン図書館に入った。

本複製を刊行したのはルーアンの Société de bibliophiles normands。

* Issued as Laford, J. (ed.) *Un livre d'heures de l'école de Jean Bourdichon.* Rouen, 1927. 単色複製(部分) 1.0倍 <VF 5-Y3063>

35 (Zotter 982) Vienna, Österreichische Nationalbibliothek. Ms. Series nova 2844.

Prayer book: Rothschild-Gebetbuch. Latin. 252 leaves. 228×160. Parchment.

Ghent か Brügge で1510-20年に筆写。

「ロスチャイルド時禱書」 テクストウーラ体。非常に豪華に装飾された時禱書。



(図10)

1520年までにフランドル地方で制作された。30の折丁から成り、多くは quaternion か quinternion。第1葉が白紙で、f. 2v から f. 7r までがカレンダー頁、f. 8v から本文が始まっている。ff. 8v、10v、16v、22v 等67の頁に全頁大の細密画が描かれており、図10は8vにあるヴェロニカの帛(きぬ)の図。伝説によれば、刑場に向かうイエスにヴェロニカがヴェールを差し出すと、イエスは顔を拭って返した。その布にはキリストの顔が印されていたという。

16世紀にはヴィッテルスバッハ家エルンスト公 (1500-60) が所蔵していたが、以後、ハイデルベルク大学図書館、ヴァチカン等で所蔵され、20世紀にはウィーンのロスチャイルド家アルフォンス男爵 (1878-1942) の所蔵となったので「ロスチャイルド時禱書」と呼ばれる。本書第1葉の白紙には頭文字を取って「AR3390」という書き込みがある。1947年にオーストリア国立図書館に寄贈された。

* Issued in Trenkler, E. (ed.) *Rothschild-Gebetbuch: vollständige Faksimile - Ausgabe im Originalformat des Codex Vindobonensis series nova 2844 der Österreichischen Nationalbibliothek.* Graz, 1979. 2v. (*Codices selecti phototypice impressi*, v. 67-67*) 原色複製 1.0倍 <KC482-A71>

36 Vienna, Österreichische Nationalbibliothek. Codex 1858.

The Book of hours of Croy. Latin. 2+182 leaves. 195×138. Parchment.
フランドルにて16世紀の10年代に筆写。カレンダー頁(24頁)と15葉に細密画。
細密画の作者はヘラルト・ポーレンバウト(*d. c.* 1541)とシモン・ベニング(1483-1561)。

「クロイの時禱書」 ロトンダ体。 フランドル画派の一派ヘント＝ブリュッヘ派(15世紀末-16世紀初め)による豪華彩色写本の一つ。ブルゴーニュ公国の有力貴族ギヨーム・ド・クロイ(*d.*152x)が書き込みを残していることからこの標題が付いた。他にもシャルル大公(後の神聖ローマ帝国皇帝カルル5世)などの書き込みがある。最初の所有者は確定されていない。型押しされた褐色犢革で覆われた表紙、表紙中央と角に付いている金メッキされた銀製の金具と二つの留め金、切り揃えられて金箔を塗られた小口という、制作当時の装丁がそのまま残っている。これはブリュッヘの装丁師ルドヴィクス・ブロックの手になるもので、ファクシミリ版でも忠実に復元されている。テキストは赤線で区切られた枠の中18行に、丸みを帯びたロトンダ書体で筆写されている。ロトンダ体とはゴシック楷書体(テキストウーラ体)の変種で、中世盛期以来イタリアで発達した。

たくさんの装飾頭文字、装飾枠内の細密画、テキスト欄外に描かれた花や蝶、鳥、奇妙な生き物たちなどで満ち、すべてのページに何らかの装飾が施されている。磔刑図と聖霊降臨図はヘラルト・ポーレンバウト、それ以外はシモン・ベニングの作品である。後者制作の細密画にはヘント＝ブリュッヘ派の巨匠ヘラルト・ダフィット(*d.*1523)の影響が色濃く現われているため、ダフィット自身が制作に関与したのではないかという見方もある。折丁は殆どがquaternion。全ページ大の細密画はそれぞれの画家の工房で単葉に描き、後から写本本体の折丁に挿入する方式がとられている。オーストリア国立図書館に入ったのは18世紀初め頃である。

シモン・ベニングはヘントの細密画家の一族に生まれ、1500年頃から活躍。時禱書の細密画に優れ、次項37の「ロザリオの祈り」の他、ミュンヘンにある「花時禱書」等が代表作である。

* Issued as Mazal, O. (ed.) 「クロイの時禱書: オーストリア国立図書館蔵」 Tokyo, 1997. 2v. 原色複製 1.0倍 <YP51-A538>

I-6 日課祈禱書 Breviaries

1日に8課(朝課、賛課、一時課、三時課、六時課、九時課、晩課、終課)ある日々の礼拝の諸本をまとめたものを聖務日課書、又は日課祈禱書という。12世紀頃から作られ始め、聖職者用の書物であったが、13世紀に入るとドミニコ会やフランシスコ会により一般に流布した。

日課祈禱書は聖節の部 (temporare) と聖人祝日の部 (sanctorale)、聖人共通の部 (Common of Saints) から成る。美しく飾られたものも作られており、「フィリップ・ル・ボンの日課祈禱書」「グリマニ日課祈禱書」等は複製も作られている有名な日課祈禱書である。

37 (Zotter 231) Dublin, Chester Beatty Library. Ms. Western 99.



(図11)

Rosarium. Latin. 42 leaves. 124×84. Parchment.

1530年頃、ブルージュでスペイン人の写字生により筆写。33点ある細密画 (図11) のうち32点はシモン・ベニングによる。

「ロザリオの祈り」 ロトンダ体。 *Rosarium* は元々はバラ園を意味する言葉だったが、アンソロジーという意味に転じ、マリアに捧げる典礼外の祈禱文集をさすようにもなった。教会で用いるロザリオはこの祈りをあげる際に用いられる数珠である。本書はミサ書や日課祈禱書を簡略にしたテキストであり、1475年頃より、インキュナブラとしても刊行され、広く普及した祈禱書である。

前付け葉にある書き込みによると、本書はスペインのフェリペ2世 (1527-98) が所蔵していたもので、また、序文がスペイン語で書かれていることから、スペイン人パトロンがスペイン人写字生に書かせたものであり、最初の所蔵者はフェリペ2世の父であるカルロス1世=カルル5世 (1500-58) である可能性がある。本書は、1652年にデンマーク人 Cörfits Ulfeldt (1610-64) の手からスウェーデン人 Carl Gustav Wrangel (1613-76) の手に渡ったという書き込みが残っており、さらにドイツの Putbus 家へと渡ったという書き込みも残っている。その後、アメリカ人コレクター Alfred Chester Beatty (1875-1968) の手に渡り、現在は彼が1954年にアイルランドのダブリンに開設した Chester Beatty Library に蔵されている。ちなみに、同館は「チェスター・ビーティ・パピリ」と呼ばれるギリシア語聖書パピルス群の所蔵で有名である他、アラビア語等東洋写本や浮世絵等東洋美術コレクションでも有名である。

* Issued as Testa, J. A. *The Beatty Rosarium; a manuscript with miniatures by Simon Bening*. Doornspijk, 1986. 2v. (*Studies and facsimiles of Netherlandish illuminated manuscripts*, v. 1) 原色複製 1.0倍 <UM21-A9>

I-7 典礼書 Sacramentaries

ローマの典礼書は4世紀半ばに編纂され、これから役割に応じて「秘蹟書 (sacramentarium)」「朗読集 (lectionarium)」等が別に作られるようになった。歌われるものは「聖歌集 (antiphonarium)」としてまとめられ、10世紀頃には全面的な「ミサ典書 (missale)」が作られたが、本項に含まれるのは典礼に用いられる書物のうち、歌われるものを除いたもの (歌われるものは音楽に分類されている) である。

「メッスの典礼書」(9世紀)、「ベルトルドの典礼書」(12世紀)、「フルヴォエのミサ典礼書」(15世紀)等は複製も刊行されている有名な典礼書である。

38 (Zotter 912) Verona, Biblioteca Capitolare. Cod. Bibl. Veron. LXXXV (80).
Leonine sacramentary. Latin. 139 leaves. c.245×170. Parchment.
600年頃筆写。筆写地は Verona か。

「レオの典礼書」 アンシャル体。ローマ式典礼を記したものとレオ1世 (d. 461)、ゲラシウス1世 (d.496)、グレゴリウス1世 (c.540-604) の3人の教皇によるものが知られている。本書はレオ1世によるものと言われ、最も古い典礼書とされる。しかし、最近の研究によれば、本書は典礼書というよりは、祈禱文の小冊子 (libelli) を集めたものであり、1,331の詞文 (formulae) が300の部門に分けて集められている。各部門はカレンダーの月単位でグループ化されている。編纂は590年以前であり、筆写年代は600年から625年の間との推定がある。

本写本はヴェロナの修道院に蔵されていたところを1713年に発見され、1735年にはテキストが印刷刊行もされているが、写真複製が初めて刊行されたのは1957年のことであった。

本写本を蔵するヴェロナ司教座聖堂図書館は、517年には写字室 (scriptorium) が作られ、現在でも1,500点の古書 (1630年以前に作られたもの) を所蔵する古い図書館である。

* Issued as Sauer, F. *Sacramentarium Leonianum*; Cod. Bibl. Capit. Veron. LXXXV (80). Graz, 1960. (*Codices selecti phototypice impressi*, v. 1) 単色複製 1.0倍 <HP126-5>

39 (Zotter 945) Vienna, Österreichische Nationalbibliothek. Ms. 958.
Gregorian sacramentary (fragment). Latin. 8 leaves. 270/80×216/20. Parchment.

北フランス、サンタマンで9世紀後半に筆写。

「カロリング朝の典礼書」 ラスティック書体とカロリング朝体 (小文字)。1丁 (quaternion) のみから成る典礼書 (断片)。8頁は縁飾りに囲まれており (図12)、うち2頁は文字がない装飾的な頁。残りの6頁にはカノンが金文字で書かれている。

北フランスのサンタマン修道院で制作され、余白の部分にたくさんの書き込みが見られる。ヴァレンシアの大司教 Antonio Folch de Cardona (1657-1724) が所蔵していたもので、ウィーンで亡くなった後、宮廷図書館に入った。第1葉には Canon Missae ex Bibl. Valensiana, N. 3 という書き込みが見られ、ヴァレンシアのフランシ



(図12)

スコ会修道院で Theol.C.992 という番号で管理されていた写本である。

* Issued as Unterkircher, F. (ed.) *Karolingisches Sakramentar: Fragment; Codex Vindobonensis 958 der Österreichisches Nationalbibliothek: Faksimile-Ausgabe*. Graz, 1971. 2 v. (*Codices selecti phototypice impressi*, v. 25) 原色複製 1.0倍 <HP126-A45>

40 (Zotter 133) Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Codex Borgianus latinus 425.

Missale Pontificis in nativitate Domini. Latin. 69 leaves (3 quinternions, 1 quaternion, 3 quinternions and 1 leaf). 460×320. Parchment.

ローマで15世紀末に筆写。fol.69は16世紀前半に付加されたもの。fol.38vのキリスト磔刑図は Antonio da Monza の作。写字生は Luca。

「アレクサンデル六世 クリスマスミサ典礼書」 ロトンダ体。教皇がみずから旧サン・ピエトロ聖堂で執り行なうしきたりであった三つのミサ（クリスマス第三ミサ、復活祭日曜日ミサ、聖ペテロ・聖パウロ祭日ミサ）のための典礼書として、ボルジア家出身の教皇アレクサンデル6世（1431-1503）が制作を命じた三巻の「教皇ミサ典礼書」の第一巻。ミサ式文は、すべての祈禱文と聖歌だけでなく、朗読される聖句とミサ典文を含み、すべての本文は略字なしに書かれている。また、ミサ式文に挿入された典礼規範は、伝統的な形式をはずれた非常に詳細なものとなっている。

書体は、15世紀にはほとんど典礼用の写本のみを用いられたロトンダ体で、字は概して大きい。字の縦の長さはテキストの種類により異なり、典礼規範は聖歌や祈禱のテキストより小さめに書かれている。字の色分けは、ミサ式文の祈禱・聖歌・朗読・詩節は黒、典礼規範は赤という伝統的なものだが、時折ほかの色（青と金）を加えている。

「アレクサンデル六世 クリスマスミサ典礼書」の彩色は三人の手によるもので、そのうちアレクサンデル6世の紋章と肖像画 (fol. 8r) 及びキリスト磔刑図 (fol.38v) は写本の完成後に付加されたと見られる。磔刑図はアントーニオ・ダ・モンツァ (fl. 1480-1505) の作とされるが、紋章と肖像画の画家、装飾頭文字の画家は特定されていない。ウンブリア派の様式的特徴を示す豪華な41の装飾頭文字はひとつとして同じものがない。また、装飾頭文字の絵柄には、アレクサンデル6世のエンブレムが多用されている。

* Issued as Roth, A. (ed.) 「アレクサンデル六世 クリスマスミサ典礼書 : *codex Borg. lat. 425*」 Tokyo, 1987. 2v. (*Codices e Vaticanis selecti quam simillime expressi iussu Ioannis Pauli PPII, consilio et opera curatorum Bibliothecae Vaticanae*, v.63) 原色複製 1.0倍 <YP51-A61>

I-8 免罪符

一時的罪に対する罪の赦しを与えるものとして、中世期、献金者に免償状（贖宥状）が発行された。罪に対する償いの免除を謳ったので免罪符とも呼ばれる。これが教会の腐敗をもたらすものとして、ルターの宗教改革で糾弾されたのは有名な話である。

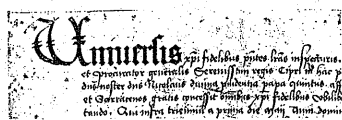
印刷術が発明されると盛んに印刷され、グーテンベルクも免罪符を印刷した。印刷術以前は手書きで作成され、印刷免罪符はそれを真似たものだが、現存数が確認できる資料があまりなく、ファクシミリも稀である。

41 Darmstadt, Hessisches Staatsarchiv.

Indulgentia. French. 1 leaf. 180×290. Parchment.

1454年に筆写。

「27行免罪符」 バタード体。 ダルムシュタットの文書館が所蔵する手書きの免罪符で、1454年7月11日の日付がある。初語の‘Universis’ ほか4語の書体はテキストウーラ体、それ以外はバタード体である（図13）。なお、印刷術を発明したグーテンベルクによって、これら手書きの免罪符を原型とした最初の免罪符印刷が行なわれたのも同じ1454年と見られる。現在、440点を超えるインキュナブラ免罪符が確認されているのに対し、手書きの免罪符は現存する数が少ないため、大変貴重な資料である。



（図13）

* Issued in Mortet, C. (ed.) *Les origines et les débuts de l'imprimerie d'après les recherches les plus récentes*. Paris, 1922. pl.12 原色複製 1.0倍 <UE82-29>

I-9 ユダヤ経典 Haggadah 等

ユダヤ教は「旧約聖書」の延長として「タルムード」と「カバラ」を持ち、聖書注解として「ミドラシュ」を持つ。「タルムード」の説教の部分は「ハガダー」と呼ばれ、法規の部分は「ハラハー」と呼ばれる。もともと口伝律法として伝えられたものが「ミシュナ」に集成され、ラビと呼ばれる律法学者により、「タルムード」が編纂された。

「ハガダー」は装飾に富んだ書物として作成され、*Pessach-Haggadah, Barcelona Haggadah, Golden Haggadah* 等複製の出ているものが多い。

42 St. Petersburg, Publichnaia Biblioteka. Ms. evr. II A No.1321.

Yehudah ben Yaakov ben Yehudah: *Meor ayin*. Hebrew. 51 leaves.
Parchment.

11世紀末に筆写。

「メオール・アイイン」 ユダヤ真教徒 (Karaites) の簡略なヘブライ語文法書。本書以前の文法書とは、アラビア語ではなくヘブライ語で書かれている点が異なっている。キリスト教国における旧約聖書の学者が使用することを意図している。不完全な状態で伝わっており、3分の1葉が欠けている。

* Issued as Zislin, M. N. *Meor' aiin "Svetoch glaza"; karaimskaiâ grammatika drevneevreiskogo iazyka, po rukopisi 1208 g.: faksimile*. Moskva, 1990. (*Pamiâtniki pismennosti Vostoka*, 96) 単色複製 <KM13-A11>

43 (Zotter 177) Vatican City, Bibliotheca Apostolica Vaticana. Vat. ebr. 133.

Talmud Yerushalmi. Hebrew. 151 leaves. 390×305. Parchment.

プロヴァンスにて13世紀に筆写。

「エルサレム・タルムード」 タルムードとはユダヤ教の聖典の一つ。口伝律法の集成であるミシュナ (Mishnah) と、それに対するユダヤ人律法学者の議論と解釈を記録したゲマラ (Gemara) を集大成したものである。4世紀末にパレスチナで編集された版 (「エルサレム・タルムード」、別名「パレスチナ・タルムード」) とその100年後にバビロニアで編集された版 (「バビロニア・タルムード」) がある。5世紀初め、ガリラヤ地方のユダヤ人共同体は、キリスト教徒による迫害のため絶滅した。「エルサレム・タルムード」は未完成に終わり、約10倍の分量とより詳細な議論と解釈を持つ「バビロニア・タルムード」が、今日聖典としての権威を確立している。

* Issued as Liberman, S. (*introd.*) *Talmud Yerushalmi; (Codex Vatican. Vat. ebr. 133) 135 photocopies, by special permission of the Bibliotheca Apostolica Vaticana*. Jerusalem, 1970. 単色複製 1.0倍 <HR13-17>

44 (Zotter 589) Munich, Bayerische Staatsbibliothek. Codex Munich 95.

Babylonian Talmud. Hebrew. 577 leaves. 278×200. Parchment.

北フランスで1342年に筆写。

「バビロニア・タルムード」 上述のようにタルムードとは、口伝律法であるミシュナとその注解のゲマラから成るユダヤの法律と伝承の集大成本であり、4世紀末にパレスチナで編集された *Jerusalem Talmud* と、その100年後にバビロニアで編集された大部の *Babylonian Talmud* の2種類がある。本写本は後者にあたり、ラビのユダヤ教の聖典としての権威を確立して今日に及んでいる。

最初の印刷本 (editio princeps) は現在ライデン大学図書館が所蔵する写本 (Cod. Orientalia 4720) を底本として1520-23年にヴェネツィアの Daniel Bomberg が刊行した。

* Issued as Lieberman, S. (ed.) *Babylonian Talmud; codex Munich (95)*. Jerusalem, 1971. 3v. 単色複製 1.0倍 <YP 9-23>

45 (Zotter 808) Sarajevo, Zemaljski Muzej Bosne i Hercegovine.

Sarajevo Haggadah. Hebrew. 142 leaves (quaternions). 220×160. Parchment. スペイン北部(バルセロナかすぐ近くの地域)にて14世紀後半初期(1350年の少し後)に制作。

「サラエボ・ハガダー」ハガダーとは、過越しの祭りの宴であるセデルの時に家庭で唱和される宗教的な式文を記した冊子で、出エジプトの物語を中心に、祈禱、頌栄、詩篇、物語、歌の類を含んでいる。ハガダー制作には長い歴史があり、数百の写本が現存し、数千の版(多くは挿絵付)が出版されている。

「サラエボ・ハガダー」は、最初と最後の白紙、後半の追加部分を除くと84葉からなる。彩色挿絵が描かれた34葉から始まり(図14)、その後にテキスト50葉が続いている。19世紀末サラエボで本書が発見されるまで、中世ヘブライ語彩色写本が存在することは一般的に認知されていなかったので、中世のユダヤ写本芸術が良く知られるきっかけとなった、最も有名なヘブライ語彩色写本である。



(図14)

「サラエボ・ハガダー」は、律法(モーセ5書)の全体を一貫性をもって挿絵に描いている唯一の中世彩色ハガダーでもある。挿絵は全部で69点、34葉の向かい合うページ(空白ページと交互に2ページおき)に描かれている。大半はページを上下2つのパネルに区切って描かれている。天地創造に始まり、創世記のすべてを描き、出エジプト記と続き、モーセ5書の最後(モーセの死)までを描いている。ヨセフの物語が最も多く、17を占めている。挿絵画家はおそらくユダヤ人。当時の一般的な技術が用いられており、空色、鈍い緑、黄色、朱、深紅が使われている。

テキストの筆跡はセファルディム(スペイン・ポルトガルのユダヤ人)のもの。1492年ユダヤ人がスペインとポルトガルから追放された時にイタリアに渡り、その後バルカン半島にもたらされたと推測されている。ファクシミリ化されているのは、挿絵部分(34葉)とテキスト部分(42葉)である。

* Issued as Roth, C. (text) *The Sarajevo Haggadah; text: "The Sarajevo Haggadah and its significance in the history of art"*. Beograd, 1966. 原色複製 1.0倍 <296- J59s>

46 (Zotter 489) London, British Library. Additional 14762.

The Ashkenazi Haggadah. Hebrew. 49 leaves. 375×290. Parchment.

北イタリア又は南ドイツで1450-60年に筆写。本文と挿絵は Joel ben Simeon による。

「アシュケナージ・ハガダー」最も精巧なドイツ中世ハガダーの一つ。美しい筆跡で書かれた出エジプト記の物語、Eleazar ben Judah of Worms (c.1176-1238) による注釈(草書体)、見事に装飾されたイニシャルとワード・パネル、彩色挿絵で構成されている。

制作者の Joel ben Simeon は、1420年代初め、恐らくケルンで生まれた。移り住んだボンで能書家として訓練を受け、人生の一時期を北イタリアで過ごした。本書の書名は、彼がイタリアで“Ashkenazi”として知られていたことに由来するという説もある(ドイツ系ユダヤ人をアシュケナジムと呼ぶ)。

アシュケナジム、セファルディム(スペイン・ポルトガル系ユダヤ人)、イタリアのユダヤ人社会は、それぞれが特有のハガダーのテキストと装飾プログラムを發展させた。故に中世の装飾ハガダーは制作地によって大別することが可能であるが、ドイツとイタリアの装飾スタイルが結合している本書は、ドイツからイタリアへのユダヤ人流入に伴い、15世紀に新たに現われたイタリアーアシュケナージ(Italo-Ashkenazi)ハガダーのグループに属するものである。

* Issued as Goldstein, D. (ed.) *Die Londoner Haggadah; aus der British Library; ein hebräisches Manuskript aus der Mitte des 15. Jahrhunderts.* Basel, 1985.
原色複製 1.0倍 <YP51-A268>

II 法律・政治

古文書学が中世の公文書の真贋を判定する学として出発した(ロレンツォ・ヴェラ(1407-57)がコンスタンツ寄進状を贋物であると見破ったのは有名な話)ことから分かるように、ヨーロッパにおいて公文書は重要な記録として多数作成され、保存されて来ている。文書は様式、書体とも写本とは異なるものが多く、写本と同じものとして扱う事は出来ないが、「マグナ・カルタ」のように図書館で所蔵されている文書も多い。

法規については、グラティアヌスによる教令集の編纂(12世紀)をはじめとするカノン法学書や都市法、あるいは「ザクセン・シュピーゲル」のような封建法があり、挿図の多い「ザクセン・シュピーゲル」は現存する6部とも複製が刊行されている。

古文書学(diplomatics, palaeography)の対象史料であるので、史料集として複製が多数刊行されており、*Archivio paleografico italiano*(1882-)や*Chartae latinae antiquiores*(1954-)のような大著も刊行されている。

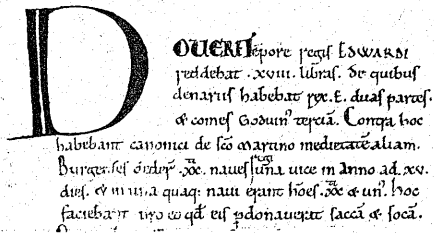
47 London, Public Record Office.

The Domesday Book. Latin. 413+475 leaves. 365×260 or 260×122.

Parchment.

1086年に筆写。

「ドームズデー・ブック」 英国カロリング朝体（小文字）。1086年にウィリアム1世（1027-87）の命により作成された、ノルマン王朝時代のイングランドの検地帳（図15）。名称は検地帳の記載内容の権威を「最後の審判の日（ドームズデー）」に譬えたもの。ウィリアム1世はノルマン・コンクエストにより新たに支配するに至ったイングランドの事情を調査し、税を徴収するため、各州、各郡の集會に陪審を召集し、各荘園ごとに以下の項目について調査させた。すなわち、保有者、その上級主君名、地積、直営地の犁および奴隷数、荘園内の小屋住み農と農奴・自由農民などの数、共同地の事情、等々であり、全部で13,418の地名が記録されている。原本ははじめウィンチェスター、次いでウェストミンスターに置かれたが、現在はロンドンのパブリック・レコード・オフィスに保存されている。2巻から成り、第2巻にはエセックス、サフォーク、ノーフォークの東部3州のみが記載され、*Little Domesday* と呼ばれる。残りの州は第1巻に含まれ、こちらは *Great Domesday* と呼ばれる。1984年に5冊本への再製本がなされた折、複製が作られ、当館所蔵は *Great Domesday* のみである。



(図15)

* Issued as *Great Domesday*. [London], 1986-92. 6 cases. 原色複製 1.0倍
 <YP51-A331>

48 London, British Library. Cotton Ms. Augustus ii 106.

Magna Carta (Great Charter). Latin. 1 leaf. 508×337. Parchment.
 1215年に筆写。

「マグナ・カルタ（大憲章）証明付謄本」 王権の伸張を図ってしばしば封建諸侯の権利を圧迫した英国王ジョン（1167-1216）は、公然と反旗を翻した諸侯に屈服し、1215年6月15日テムズ河畔ランニードの野原で諸侯からの要求事項に調印した。これが前文及び63条から成る「マグナ・カルタ」発布の起源である。内容は国王の徴税制限、人身の自由、不当な裁判による逮捕・財産没収の禁止など。その後数度改訂・再発布され、1297年最終版がエドワード1世によって確認された。17世紀に英国人の自由と人権を保障した法として再評価されて以来、権利請願（1628）、権利章典（1689）と共に英国憲法の重要な一部として尊ばれている。

6月15日にジョン王が調印した証書原本は、現在英国図書館が所蔵している。調印後、司教や州長官など求める人々に配布するため、証明付謄本が13部作成された。現存するのは4部で、2部はリンカンとソールズベリーの主教座聖堂参事会文書室、残りは英国図書館が所蔵している。これらはすべて1215年6月15日という調印の日付を持っているものの、大きさ、形、文章の上で若干の差異が見られる。本史料は英国図書館が所蔵する2部のうちの1部。誰に向けて配布されたかは不明で、印章はなく

なっているが、裏面には1629年にロバート・コットン (1571-1631) が入手した経緯が記されている。コットンの集めたコレクションは1700年に国家に寄贈され、ハーレイ文庫、スローン文庫と並んで大英博物館創立 (1753年) の核となったもので「コットン創世記」「リンディスファーン福音書」「ペーオウルフ」等の有名な写本が含まれている。

本複製は英国の政府刊行物を刊行する HMSO が刊行したものである。

* Issued as *Magna Carta; translation and facsimile*. London, 1965. 単色複製 1.0倍 <CG-211-4>

49 (Zotter 934) Vienna, Österreichische Nationalbibliothek. Ms. 338.

Die Goldene Bulle. Latin. 80 leaves. 423×295. Parchment.

プラハで1400年に筆写。47点の細密画。

「金印憲章」 ゴシック体。「金印憲章」とは、1356年1月に神聖ローマ皇帝カルル4世 (1316-78) がニュルンベルグ帝国議会で発布した帝国法で、同年12月にメッツの帝国議会で補足された。ドイツ国王 (神聖ローマ帝国皇帝) の選挙制と選帝侯特権が主な内容となっている。勅書の印璽に黄金を用いたために金印憲章あるいは金印勅書、黄金文書と呼ばれる。当時妥当していた慣習法を成文化した31章から成る。この金印憲章によって、選帝侯は無制限裁判高権、至高権などを獲得する代わりに、領邦国家形成に敵対する動向は抑えられ、市外市民の採用や領邦君主に対抗する都市内外の団体や同盟が厳禁された。

この写本は発布から40年以上経った1400年にドイツ王にしてボヘミア王 Wenzel (1361-1419) の命で制作されたもので、文書というより彩色写本のように仕上げられている。特に先頭ページ (fol. 1 r) は Hasenburg Master により華やかな装飾が施されており、他の細密画の作者は本書にちなんで Master of the Golden Bull と呼ばれている。ちなみに、Wenzel が作らせたドイツ語最古の豪華本聖書もまたオーストリア国立図書館に蔵されている (Cod.2759-2764)。なお、本写本は1697年にフランクフルト



Die Goldene Bulle
von Kaiser Karl IV
von Prag

(図16)

トで刊行された Thülemeyer: *Tractatio de Bulla aurea* の付録として活字化され (書体は異なる)、本複製はそのリプリントにオリジナル写本の複製を20枚付けたものである。(表紙裏「清福図録」(49) 参照)

* Issued in Thülemeyer, H. G. (ed.) *Die Goldene Bulle*. Graz, 1978. 挿入図版20pp. 原色複製 (部分) 0.95倍 <YP51-A86>

50 (Zotter 303) Hamburg, Staatsarchiv. Ms. Cl. VII Lit.

La. no 2 vol. 1c.

Hamburger Stadtrecht von 1497. German. 301 leaves.

340×240. Parchment.

ハンブルクで1500年頃に筆写。

「ハンブルク都市法」 テクストウラ体。15章から成る都市法。ハンブルクはカール大帝が築いた定住地として始まり(810年)、1290年には市参事会堂も建てられ、ハンザ同盟の都市として繁栄期を迎えている。都市法は1301年のもの(全174葉)が現存しているが、本写本は1497年制定のもの。35の丁から成り、全301葉。細密画が含まれており(図16)、本複製は細密画を中心に18葉のみの複製である。

* Issued as Reincke, H. (ed.) *Die Bilderhandschrift des Hamburgischen Stadtrechts von 1497*. Hamburg, 1968. (*Veröffentlichungen aus dem Staatsarchiv der Freien und Hansestadt Hamburg, Bd. 10*) 原色複製(部分) 1.0倍 <YP51-A492>

51 Madrid, Archivo General de Simancas. P. R. 30-2.

Isabel la Católica: *Testamento*. Spanish. 1+9 leaves. 297×223. Parchment. 1504年10月12日に作成。

スペイン女王イザベル「遺書」

52 Madrid, Biblioteca Nacional. Vit. 6-6 antes T. 301, Folios 195-198.

Isabel la Católica: *Codicilo*. Spanish. 3+1 leaves. 297×208. Parchment. 1504年11月23日に作成。

スペイン女王イザベル「遺言付属書」 スペイン女王イザベル(1451-1504)は、カスティーリャ・レオン王国の国王ファン2世の長女として生まれ、隣国のアラゴン皇太子フェルナンド(1452-1516)との結婚(1469年)により、1474年に女王となるとアラゴン・カスティーリャ2国の統合を実現し(法王アレクサンダー6世よりカトリック両王の称号を得る)、近代スペイン成立の発端を開いた。武装艦隊の育成やコロンプスの援助などの輝かしい業績を残し、1504年11月25日、メディーナ・デル・カンポの宮殿にて死去した。

「遺書」および「遺言付属書」は、病床にあったイザベルが死の直前に記したものであり、「遺書」は、敬虔なカトリック教徒であったイザベルの生活信条や政治姿勢が端々に読み取れる内容である。王位継承問題については、フランドルに嫁がせた次女ファーナを次期カスティーリャ女王、婿のフィリップ公を次期カスティーリャ王に定めている。最後の頁には「我、女王」の署名がある。そして、「遺書」の作成から約1ヵ月後に書かれた「遺言付属書」には、税金や法律の設定に関する項目などが収められる。イザベルの死後、遺言通りにファーナ女王が即位するが、この新女王はすでに精神を病んだ状態であった。代わってカスティーリャ王フェリーペ1世として王座についたフィリップ公も、1506年には唐突な死を遂げる。

本複製は、この二つの文書を合わせたファクシミリ版である。

* Issued as *Testamento y codicilo de la reina Isabel la Católica ; 12 de octubre y 23 de noviembre de 1504*. [Madrid, 1969] 原色複製 1.0倍 <YP51-A708>

Ⅲ 学 芸

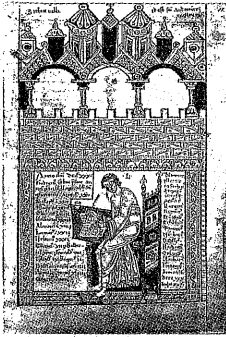
ここで学芸と呼ぶのは、中世初期には既に確立されていた「自由七学芸 (seven liberal arts)」を土台にしている。それは専門科目への基礎学科であり、修道院あるいは大学でまず最初に教えられた。ドナトゥス「文法書」やアリストテレス「オルガノン」、ユークリッド「原論」等は繰り返し作成されたテキストである。ギリシア・ローマ古典が礎になっており、アラビア経由の科学書も多く作成された。

文系の学芸に属するのが文法書、辞書類、理系の学芸に属するのが自然科学書（算術・占星術・航海術等）であり、3-4万点の自然科学書の現存が確認されている。数学関係の中世写本のデータ・ベース Jordanus はインターネットで公開されており、その中で点数の多い著者はアリストテレス、ユークリッド、プトレマイオス、ポエティウス、ヴェーデ等である。

53 (Zotter 287) Ghent, Bibliotheek van de Universiteit Gent. Ms. 92.

Lambert: *Liber floridus*. Latin. 289 (277?) leaves. 370×204. Parchment. Saint Omer で1120年に筆写。

「華の書」 ゴシック体。中世にはセビリアのイシドルス「語源論」、ボーヴェのヴァンサン「自然の鑑」等の百科事典が作られているが、本書も約192に及ぶ異なる著作からの抜粋を編纂した、一種の百科事典。様々な地図や図表を伴っている。編纂者のベネディクト僧 Lambert (c.1060-1125) はフランドル地方 Saint Omer の僧会評議員で、数年かけて編纂、1120年に完成した。本写本は Lambert 自筆のものと考えられている (図17)。いつ、いかにして Gent にもたらされたかは不明である。16世紀前半までは Gent の St. Bavo 修道院が所蔵していたことが知られている。本書の別の写本がウォルフエンビュッテルとパリに蔵されているが、Gent 本が一番古い。地図にはヨーロッパ図、マクロビウス図、T-O 図が含まれている。



(図17)

本複製は部分で、細密画のある部分のみ原色複製である。

* Issued as Derolez, A. (ed.) *Lamberti S. Audomari Canonici Liber floridus; Codex authographus bibliothecae universitatis Gandavensis*. Gandavi, 1968. 原色複製 (部分) 1.0倍 <YP21-62>

54 (Zotter 143) Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Codex Palatinus latinus 1071.

Frederick II : *De arte venandi cum avibus*. Latin. 111 leaves. 360×250.

Parchment.

南イタリアで1258年までに筆写。

フリードリヒ2世「鷹狩りの術」カロリング朝体（小文字）。この写本はホーヘンシュタウフェン家のフリードリヒ2世（1194-1250）の息子マンフレッド王のために30年以上かけて制作されたものである。鷹狩り（falconry）の発祥は紀元前のインドと言われ、古代エジプトやギリシア、ローマなど世界の各地で古くから行なわれていた。ヨーロッパではメロヴィング朝時代（5-8世紀）に貴族の間で流行し、主に王侯貴族のスポーツとして定着したようである。鷹狩りに熱心だった神聖ローマ皇帝フリードリヒ2世によるこの「鷹狩りの術」は、自然哲学者でもあった彼の意図を反映し、様々な鳥の生態について実証に基づく記述がなされ、アリストテレスを否定する見解も述べられている。色鮮やかに描かれた鳥の絵は900点にも及ぶ。全体で6部構成となっており、鳥類学的な紹介に続いて、鷹狩の手法や鷹の馴養法などが書かれ、中世における重要な鳥類学・鷹狩りの文献である。

1969年に忠実な複製が刊行されており、本複製はその抜粋版。

* Issued as Willemsen, C. A. (ed.) *Das Falkenbuch Kaiser Friedrichs des Zweiten = De arte venandi cum avibus; zwölf Faksimile - Drucke aus dem Codex Ms. Palatinus Latinus 1071 der Bibliotheca Apostolica Vaticana*. Graz, 1973. 原色複製（部分）0.93倍 <YP51-A84>

55 (Zotter 673) Padova, Biblioteca capitolare. Ms. D39.

Dondi dall'Orologio, Giovanni: *Tractatus astrarii*. Latin. 34 leaves. 350×241.

Parchment.

Padova? で14世紀後半に筆写。

ドンディ「天体論」カロリング朝体（小文字）。ジョバンニ・デ・ドンディ（1318-89）はイタリアの天文学者で医者。進歩した歯車技術に基づく優れた天文時計（astrarium）を16年かけて造り（1364年完成）、時計製造者として当時のヨーロッパで名声を得た。時計自体は失われたが、その天文時計について書かれた論文である本書で知られ、パリの天文台で天文時計が復興されている。

* Issued as his *Tractatus astrarii; Biblioteca capitolare de Padova, Cod. D. 39*. Citta del Vaticano, 1960. (*Codices ex ecclesiasticis Italiae Bibliothecis selecti*, v. 9) 単色複製 1.0倍 <VF 6-Y486>

56 (Zotter 694) Paris, Bibliothèque nationale de France. Manuscrit français 616.

Gaston Phébus: *Le Livre de la chasse*. French. 218 leaves. 357×250.

Parchment.

パリで1407年に、続きは15世紀から16世紀の間に筆写。

ガストン・フェービュス「狩の書」ゴシック体。フォア伯ガストン（1331-91）は

中世の狩猟家。金髪であったことから Phoebus (太陽) と名乗った。異本が44種存在し、1387年から89年にかけて、まずガストンの口述を写字生が筆写する方法で作られたと思われる。本写本はガストンの没後、パリの細密画家 Master of Bedford の影響下に制作され (図18)、15世紀末には Saint-Vallier 伯が所蔵し、後にルイ14世の所蔵となった。87点の細密画を含み、少なくとも3人の手が区別される。



(図18)

1976年に忠実な複製が刊行されており、本複製はその抜粋版。また90点近い本写本の画像をフランス国立図書館のウェブサイト上 (展示会 *Le roi Charles V et son temps*) で見る事が出来る。

* Issued as Thomas, M. (ed.) *Das höfische Jagdbuch des Gaston Phébus; die vierzig schönsten Bildseiten aus Manuscrit français 616 der Bibliothèque nationale, Paris.* Graz, 1979. 原色複製 (部分) 1.0倍 <YP51-A82>

57 (Zotter 742) Paris, Bibliothèque nationale de France. Codex latinus Parisinus 7239.

Taccola, Mariano: *Tratat despre arta militara si masinile de razboi.* Latin. 114 leaves. 230×320. Parchment.

1470年に筆写。

〔軍事論〕 ゴシック体。軍事技術と戦争用の機資材についての著作。著者 Mariano Taccola (1381-c.1458) はラテン語形 Paulus Sanctinus Ducensis としても知られる。14世紀末、カルパティア山脈からバルカン半島地域で予期されていた対オスマン・トルコ戦争 (1396年9月25日ニコポリスの戦いでヨーロッパ側が敗北) に備えている最中に、キリスト教国の軍隊を率いたハンガリー王ジギスムント (1368-1437) の宮廷があったティミショアラ (ルーマニア西部の都市) で書かれた。彩色挿絵、後に付加された南東ヨーロッパの地図が付いている。フランスのコンスタンチノーブル大使 Pierre de Girardin が1687年にトルコ皇帝の図書館で発見・入手し、1688年パリにもたらした。

この著作はミュンヘン (lat.monac.28800) やヴェネツィア (lat.2941)、ニューヨーク (Ms.136) 等にある様々な異本で知られるが、フランス国立図書館に在る本写本 lat.7239 が最も完全で美しい。しかし、本複製は部分的な単色複製である。1984年にも Baden-Baden で複製が刊行されている。

* Issued as Ion Dumitriu-Snagov (ed.) *Tratat despre arta militara si masinile de razboi : Codicele latin de la Paris 7239.* Bucharest, 1979. 単色複製 (部分) <PS131-A15>

58 Milan, Biblioteca Ambrosiana.

Leonardo da Vinci: *Il Codice atlantico*. Italian. 1119 leaves. Parchment.

1480年頃から筆写。

レオナルド・ダ・ヴィンチ「アトランティコ手稿」「モナリザ」で有名な画家レオナルド・ダ・ヴィンチ(1452-1519)がアンボワーズで亡くなると、おびたしい数の手稿・素描が弟子 Francesco Melzi に遺贈された。彼はそれらをミラノ近郊ヴァプリオに持ち帰ったが、1570年に彼も亡くなると、この大量の手稿類は散佚し始める。この手稿の熱心なコレクターであった Pompeo Leoni (1533-1608) は集めた手稿を再編集し「素描集 (disegni)」と「機械等素描集 (disegni di machine...)」の2種に分けた。今日、前者がウィンザー・コレクションとして知られ、後者が「アトランティコ手稿」として知られる。この「アトランティコ手稿」は1625年、Galeazzo Arconati が購入し、1637年にミラノのアンプロシウス図書館に寄贈した。この時、後出60のルカ・パチョーリ「神聖比例論」(レオナルドの挿図を含む)や今日パリ学士院の所蔵する手稿も併せて寄贈されている。レオナルドの手稿には、他にもマドリッド国立図書館の蔵する「マドリッド手稿」や大英博物館の蔵する「アランデル手稿」等がある。

「アトランティコ手稿」は1480-1518年に描かれたもので、405葉から成っている。まず、1894-1904年にミラノの Hoepli 社が複製本を刊行したが、1964年に手稿をオリジナルの状態に戻しながら補修を行なう作業が始まり、全体を1,119葉に整理した、より完璧な複製本が1973-75年に刊行された。他のレオナルド手稿の複製本も刊行されており、日本の岩波書店も「パリ手稿」「ウィンザー手稿」「マドリッド手稿」等の複製を刊行している。

* Issued as *Il codice atlantico; edizione in facsimile dopo il restauro dell'originale conservato nella Biblioteca ambrosiana di Milano*. [Firenze], 1973-75. 12v. (His *Edizione nazionale dei manoscritti e dei disegni di Leonardo da Vinci*)
原色複製 1.0倍 <YP14-254>

III-1 数 学

ヨーロッパ中世においてギリシアの数学が受け継がれていたとは言い難い。アポロニウスやアルキメデスが広く知られるようになったのは16世紀以降である。しかし、ユークリッドについてはポエティウス (c.480-524) が訳したものが伝えられており(実際には9世紀から10世紀の訳とも言われる)、算術書もアル・フワリズミー、サクロボスコ、フィボナッチ、アニアヌス等によるものが知られ、アラビア数字の使用を促したと言われる。

59 (Zotter 281) Florence, Biblioteca Riccardiana. Manoscritto 2669.

Calandri, Filippo: *Trattato di aritmetica*. Italian. 122 leaves. 170×166. Parchment.

15世紀末に筆写。細密画は Giovanni di Giuliano Boccardi による。

カランドリ「算術書」人文主義書体（斜体）。本写本は、ルネサンスの擁護者ロレンツォ・イル・マニフィコ（1449-92）の息子で、後のヌムール公爵となるジュリアーノ・デ・メディチ（1479-1516）に献呈された算術の教科書である。献辞が書かれているわけではないが、メディチ家の紋章や *Le tens revient*（時は再来せり）という motto、R のイニシャル等々の装飾からそれが知れる。数学と幾何学の様々な問題が明



(図19)

るい色彩の挿画と共に取められ、子供が楽しく学習出来るようにという制作者の配慮が感じられる。第1葉には、万物の根元は数であると説いたギリシアのピタゴラスと見られる人物が描かれており（図19）、次に、建築モチーフの枠取りが施された掛け算の表が続く。算術書本文に入ると、木の切り株の絵に囲まれた数学の公式や、植物模様で飾られた金色の頭文字、さらに挿画として、古代趣味的なギリシア神話の場面から筆写当時（15世紀末）の市民生活の風景まで、多種多様なモチーフが現われている。この

ミニアチュールはボッカルディーノの工房の関係者によるものと考えられている。

1492年にフィレンツェで刊行された Filippo Calandri の *Aritmetica* という木版図版を多数含んだインキュナブラと本書は内容的に同じであるので、本書の著者もカランドリとされている。

* Issued as his *Aritmetica; secondo la lezione del Codice 2669 (sec. XV) della Biblioteca Riccardiana di Firenze*. A cura di G. Arrighi. Firenze, 1969. 2 v. 原色複製 1.0倍 <MA21-A40>

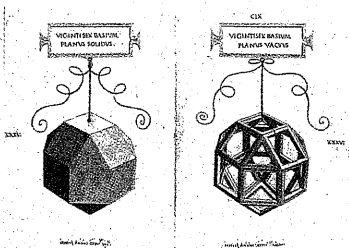
60 (Zotter 552) Milan, Biblioteca Ambrosiana. Ms.170 sup.

Pacioli, Luca: *De divina proportione*. Italian. 130 leaves. 285×197? .
Parchment.

1498年以降に筆写。レオナルド・ダ・ヴィンチによる60点の挿図。

ルカ・パチョーリ「神聖比例論」人文主義書体。黄金比論 ($a:b=b:(a+b)$ となる比のこと) を扱った論文。著者のルカ・パチョーリ (1445頃-1517) はフランシスコ会修道士で、ルネサンス期イタリアの数学者。ペルージャ大学をはじめイタリア諸都市

の大学、宮廷で講義を行ない、当時の数学的知識を集大成した「算術・幾何・比及び比例全書（略称スンマ）」（ヴェネツィア、1494年刊）の著者として名声を得ていた。ちなみに「スンマ」は複式簿記について初めて論述した印刷出版物として、会計学史上の重要文献になっている。1496年、パチョーリはミラノ公ルドヴィコ・マリア・スフォルツァ（イル・モーロ）の宮廷に招かれた。その感謝の印として書かれたのが「神聖比例論」であ



(図20)

る。本文71章、補遺20章から成り、1498年頃には完成していた。レオナルド・ダ・ヴィンチの描いた60点の多面体の挿図が付されているのが特徴の一つ（図20）。二人はミラノ公の宮廷で知り合い、親密に交流したことで知られている。

パチョーリは「神聖比例論」の写本を3冊制作させた。うち2冊が残っており、本写本（アンブロシウス図書館所蔵写本）は、Giangaleazzo Sanseverinoに贈ったもので、Galeazzo Arconatiの手を経てアンブロシウス図書館へ寄贈された。黒と朱のインクで筆写され、fol. 1の双頭の竜を描いた小型細密画と紋章、各頁の小型イニシャル、レオナルドの挿絵（fol. 91-120）は彩色されている。他にはミラノ公への献呈写本がジュネーヴ図書館に残っている。1509年には「神聖比例論」は、建築における黄金比論を第2部、ピエロ・デラ・フランチェスカの「正立体論（*De corporibus regularibus*）」のイタリア語訳を第3部に付け加えた形で、ヴェネツィアで出版された。こちらではレオナルドの挿図は、木版画に変えられている。

* Issued as Marinoni, A. (introd.) [*De divina proportione*] Milano, 1982. (*Fontes ambrosiani in lucem editi cura et studio Bibliothecae ambrosianae*, 72)

原色複製 1.0倍 <K25-A11>

III-2 音楽

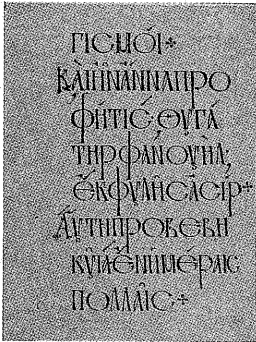
古代ギリシアにおいては4年毎に、運動競技だけでなく各種音楽（キタラ賛歌やホメロス賛歌等）の競技会が開かれたという。古代において、音楽は重要な教養科目として位置付けられ、その延長として、中世においてもボエティウス「音楽教程」が自由学芸のひとつとして教えられた。しかし、中世においては教会音楽が中心的な位置を占め、グレゴリオ聖歌に代表される典礼の音楽が発達した。

詩篇やミサのことは、祈願等、様々な文句が儀式に応じて使い分けられ、アンティフォナーレ、カンタトリウム、グラドゥアーレ、インヴィタトリウム、セクエンツィア、レスボンソリウム等と呼ばれる。記譜法も色々あり、1889年から *Paléographie musicale* というタイトルで楽譜のファクシミリが刊行されている。

61 Iasi, Biblioteca Centrala Universitara 'Mihai Eminescu'. Ms. 160 / IV-34.
The Iasi Gospel lectionary. Greek. 156 leaves (1 duernion + 19 quaternions).
245×168. Parchment.

11世紀に筆写。

「ヤーシ福音書読誦集（ヤーシ典礼書）」典礼書（lectionary）は、礼拝の時に朗誦する朗読箇所を旧約・新約聖書などから集めたもの。ミサまたは聖務日課の間に朗読される。主なビザンツの典礼書は、その内容によって、福音書読誦集（エヴァンゲリアリオン）、旧約聖書読誦集（プロフェトログイオン）、使徒書簡読誦集（アポストロス）



(図21)

と称されている。本写本は聖人の祝祭日に読誦された18の福音書の抜粋 (Gospel pericopes) を含んでおり、ルーマニアに現存する最古の音楽文献の一つである。金または赤インクの線で記されたエクフォネティック記譜法 (ビザンチンの中世音楽文献はすべて、この記譜法で書かれている。図21) によって、10-11世紀の礼拝用の読誦が、ビザンチン・ルーマニア地域でどのように行なわれていたか知ることが出来る。

何枚かの葉に残るラテン語の書き込みから、1204年コンスタンチノーブルで任命された総主教によって、この本が用いられたと考える学者もいる。f. 1rにはコンスタンチノーブル総主教ゲンナディオス2世 (1400?-68?) によるギリシア語の祈禱があり、トルコ人の侵入からキリスト教徒を救ってくれるよう神に祈っている。恐らくこの書き込みはコンスタンチノーブル陥落 (1453年) 後に書かれ、その時写本はゲンナディオス2世によってマケドニアのセラエ (Serrae) 修道院に運ばれた。彼は1459年その修道院に避難し、1468年に死んだ。ここから別の避難者がモルドバに避難場所を見つけ、写本はルーマニア北東部の町ヤーシに来たのである。

本書の表紙は2枚の板を緑の革で覆ったものである。

* Issued as Pantiru, G. *Lectionarul evanghelic de la Iasi; MS. 160 / IV-34.* Bucuresti, 1982. 単色複製 0.47倍 <KD351-A 2>

62 (Zotter 189) Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Codex Vaticanus latinus 1202.

Lektionar zu den Festen der Heiligen Benedikt, Maurus und Scholastika. Latin. 262 leaves. 370×254. Parchment.

モンテカッシーノで1070年に筆写。

「聖ベネディクト読誦集」 (モンテカッシーノ風) ベネヴェント書体 (小文字)。本



(図22)

写本はモンテカッシーノのベネディクト会大修道院で制作された絵入り読誦集である。同修道院では聖ベネディクトゥス、聖マウルスおよび聖スコラスティカ (ベネディクトの妹) の3人それぞれの祝日に際し、このラテン語典礼書を歌隊の朗誦に用いて来た。なお、イタリアのヌルシアに生まれた聖ベネディクトゥス (c. 480-c.550) はスピアコで隠遁生活を送った後、無所有・純血・服従を基礎とした修道士の守るべき戒律を定めて (529年) ベネディクト修道会の祖となった人物である。写本の内容は、修道院長デシデリウス (在位1058-87) に対する韻文頌詞に始まり (fol. 1v)、本好

きな彼の肖像が見開きの右ページに描かれている (fol.2r 図22)。各四行句の冒頭の文字が DESIDERIVS ABBAS という折句を構成している。組成は四枚綴り折丁 (quaternion) である。全体を筆写した写字生は、他のモンテカッシーノ写本に「レオ」の名を署名している人物 (Leo Marsicanus) と同一視され、彼は修道院図書館長であり、現在ミュンヘンにある「モンテカッシーノ年代記」(Clm4623) の作者であるとされている。聖務日課の際に朗読される文章については大型の文字が使用され、文中の挿画に加えられた説明文の赤インクの小型文字との対照が見事である。この書体はベネディクト会が用いたものなので、ベネヴェント書体と呼ばれている。

* Issued as 今道友信他監修「*Codex Vaticanus Latinus 1202*; 聖ベネディクト、聖マウルス、聖スコラスティカの祝祭のための読誦集」 Japanese ed. Tokyo, 1983.
2v. 原色複製 1.0倍 <YP 9-A57>

63 (Zotter 421) Leiden, Bibliotheek der Rijksuniversiteit. Ms. Ltk. 2058.

Die gheestelicke melody. Dutch. 72 leaves. 150×110. Paper.

オランダで1470年頃に筆写。

〔聖歌集〕 混交書体。ライデン大学図書館が所蔵するオランダ中世の聖歌集。オランダ北部のある修道院で尼僧により作製された紙の写本であり、19編の歌を収録している。9つの quaternion からなる全72葉で、各折丁の最初の4葉に折丁記号が記してある。各歌詞の初めの頭文字には、主に赤と青のインクを用いた植物模様の装飾が施されている。テキストの各頁は fol.60r までが19行、それ以降は17行で書かれており、恐らく写本全体が一人の写字生の手によるものと見られる。十字架を背負うキリストをはじめ、教会における様々な場面を描いた14点の挿画があり、そのうち12点が頁大の細密画となっている。現在の製本の状況は、1800年頃のものである。

* Issued as Obbema, P. F. J. (ed.) *Die gheestelicke melody; Ms. Leiden, University Library, Ltk. 2058.* Leiden, 1975. 単色複製 1.0倍 <YQ18-12>

64. Putna, Scoala muzicala de la Putna (Biblioteca Manastirii). Manuscrisul nr. 56/544/576 I.

Antologhion. Greek or Church Slavic. 160 leaves. Parchment.

16世紀に筆写。

* Issued as Ciobanu, G. (ed.) *Manuscrisul nr. 56/544/576 I de la Manastirea Putna; "Antologhion"; "Scoala muzicala de la Putna".* Bucuresti, 1980. (*Izvoare ale muzicii românești*, v. 3) 単色複製 <KD237-24>

65 Putna, Scoala muzicala de la Putna (Biblioteca Manastirii). Manuscrisul nr. I-26/Iasi.

Antologhion. Greek or Church Slavic. 236 leaves. Parchment.

1545年に筆写。

* Issued as Ciobanu, G. (ed.) *Manuscrisul nr. I-26/Iasi; "Antologhion"; "Scoala*

muzicala de la Putna". Bucuresti, 1981. (*Izvoare ale muzicii românești*, v. 4)
単色複製 <KD237-27>

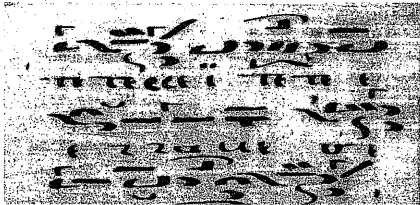
66 Putna, Scoala muzicala de la Putna (Biblioteca Manastirii). Manuscrisul nr. 12/Leipzig.

Antologhion. Greek or Church Slavic. 3+134 leaves. Parchment.

1550年から70年の間に筆写。

*Issud as Ciobanu, G. (ed.) *Manuscrisul nr. 12/Leipzig; "Antologhion"; "Scoala muzicala de la Putna"*. Bucuresti, 1985. (*Izvoare ale muzicii românești*, v. 6)
単色複製 <UP72- A118>

「アントロギオン」 上記3点の写本はルーマニアのプトナ修道院が所蔵するビザンチン音楽の楽譜である(図23)。プトナ修道院はモルダビアのステファン王子によっ



(図23)

て1466年に設立された。併設された音楽学校や彩色写本の技術などが注目され、早くから文化的中心地としての役割を担ってきた。同修道院が所蔵する楽譜の写本としては15世紀から17世紀にかけて制作されたこれら3点を含む10点が知られており、いずれも 'Akolouthiai' と総

称される、14~15世紀頃のビザンチンの礼拝用の歌曲や記譜法を現代に伝えるものである。この10点はそれぞれ異なる写字生によってプトナ修道院独特のスタイルで書かれている。

IV 医学

西洋中世の医学は以下の4つに大別出来る。①ギリシア・ローマ医学を引き継いだもの ②アラビア医学を取り入れたもの ③スコラ哲学に組み込まれたもの ④民間医学。①では Hippocrates, Galenus, Celsus 等の医書が重んじられた。②では11世紀半ばに設立されたサレルノ大学でアラビア医学が研究され出すと Abulcasis, Avicenna, Rhasis 等の医書が導入された。③ではアルベルトゥス・マグヌスが権威となり、他に外科学では Guy de Chauliac や Guido Lanfranchi のような人が出た。④の民間医学も盛んで、アルドブランディーノ「身体養生」(1256)を始めとする健康マニュアルが多数書かれている。

67 (Zotter 932) Vienna, Österreichische Nationalbibliothek. Cod. 93.

Medicina antiqua. Latin. 161 leaves. 280×185. Parchment.

シチリアで13世紀の半ばに筆写。

「古代の医学」 ゴシック体。古代末期の薬草および医薬材料に関する著作をまとめ

たもの。ギリシアの医薬学者ディオスコリデスの「本草書」、ローマの博物誌家プリニウスの「自然誌」など、当時広く知られていた4つの医学関係書から筆写されている。様々な薬用植物や動物、また治療の場面などが鮮やかな色彩で描かれている。中世末期までに制作された同様の写本は約50点ほど現存していると見られるが、その中の最も美しい写本の一つである。1972年に完全な複製版が刊行されており、本複製はその抜粋版である。

* Issued in Biedermann, H. (ed.) *Medicina magica; metaphysische Heilmethoden in spätantiken und mittelalterlichen Handschriften, mit dreissig Faksimile, Tafeln*. Graz, 1986. pp.78-95. 原色複製 (部分) 0.87倍 <SC25-A3>

68 (Zotter 978) Vienna, Österreichische Nationalbibliothek. Ms. Series nova 2644.

Ibn-Butlan: *Tacuinum sanitatis*. Latin. 111 leaves. 332×230. Parchment.
ロンバルディア地方と Verona で14世紀末に筆写か。

「健康表」 ゴシック体。Ibn-Butlan (11世紀初め-1068年) はバグダッド生まれの医者。原著 *Taqwim al-sihha* はアラビア語で書かれたが、12世紀に Gerard of Cremona (1114-87) によってラテン語に翻訳された。内容は医学の手引書であり、日々の健康維持に必要な事柄、すなわち空気、食物、運動と休養、睡眠、喜びや怒りなどの感情等と、その適正な使い方について述べられている。全206点の細密画は様々な植物、動物、薬、食物と、人々の四季折々の生活風景を描いたものである (図24)。1531年にシュトラスブルクでラテン語版が印刷されている。本複製は1967年にグラーツで刊行された複製版からの抜粋である。なお、オーストリア国立図書館では同名の写本として Ms. Series Nova 2396も所蔵している。



(図24)

* Issued in Biedermann, H. (ed.) *Medicina magica; metaphysische Heilmethoden in spätantiken und mittelalterlichen Handschriften, mit dreissig Faksimile, Tafeln*. Graz, 1986. pp.48-77. 原色複製 (部分) 0.74倍 <SC25-A3>

IV-1 本草 Herbal

古代、自然哲学の一部として植物の研究が行なわれ、アリストテレス、テオフラトゥス、プリニウス等による研究書が著されている。なかでもディオスコリデスや擬アプレイウスによる本草書（薬草研究）は非常に流布した。9世紀にはディオスコリデスはアラビア語訳され、アラビア医学に取り入れられると共に、12世紀にはヨーロッパに逆輸入され、サレルノ大学で医学書、本草書として編集された。挿図も実際の植物に基づいて描かれるようになり、13世紀のルフィナス、ルネサンス期のブルンフェルスやフックスによる植物誌へ引き継がれた。

69 (Zotter 928) Vienna, Österreichische Nationalbibliothek. Codex Vindobonensis medicus graecus 1.

Dioscorides, Pedanius: *De materia medica*. Greek. 491 leaves. 370×315. Parchment.

コンスタンティノポリスで512年より前に筆写。

ディオスコリデス「本草書」 デイオスコリデス (c.40-c.90) はギリシア人の医薬学者。ローマ皇帝ネロの軍隊の外科医としてヨーロッパ各地を回り、薬草に関する大著を集大成した。ギリシア語で書かれたが、後にラテン語訳され、そちらの書名「医薬の材料について」で知られる。本写本は皇帝 Ancius Olybrius の娘 Juliana に献呈されたもので、彼女の肖像が描かれている。ディオスコリデス本草書の中では現存最古のものであり、現在はウィーンのオーストリア国立図書館にあることから「ウィーン写本」(ドイツ語では *Wiener Dioskurides*) と呼ばれる。392点の全頁細密画と87点のテキスト挿図を含み、特に fol.12v-387r には、ディオスコリデスが言及した383種類の薬用植物図がアルファベット順に収められている。Juliana の死後、複数の所有者の手を経て、おそらく13世紀後半からペトラのヨハネス修道院の所有するところとなった。その間、この「ウィーン写本」から再び筆写、あるいは部分的に転写されたと見られる写本が幾つか制作されている。1569年にはユダヤ人の所有者からオーストリア皇帝マクシミリアン2世が購入し、ウィーンの宮廷図書館へと移された。1998年にはユネスコ世界遺産にも指定されており、ビザンチン美術の一環をうかがわせる作品として美術的価値も高い。既に1906年に複製が刊行されているが、1965年にはより完全な複製も刊行されている。

6世紀には豪華な彩色写本がコンスタンティノポリスや小アジアで制作されており、同じオーストリア国立図書館の所蔵する「ウィーン創世記」、ミラノにある「イリアス・アンブロジーアーナ」やロッサーノ聖堂にある「ロッサーノ紫の福音書」は有名な写本である。

* Issued as Mazal, O. (ed.) *Pflanzen, Wurzeln, Säfte, Samen; antike Heilkunst*

in Miniaturen des Wiener Dioskurides. Graz, 1981. 原色複製(部分)
<YP14-1258>

70 (Zotter 1038) New Haven (CT), Yale Center for British Art, Paul Mellon Collection.

Helmingham herbal and bestiary. 20 leaves. 430×280. Parchment.

East Anglia で15世紀に筆写。

「ヘルミンガム本草書」 ゴシック体。3丁(20葉)から成る本草書にして動物画集。95種の植物と48種の動物がそれぞれアルファベット順に描かれている。かつて英国 Suffolk 州 Helmingham Hall にあったので「ヘルミンガム本草書」と呼ばれる。1961年のオークションで米国のコレクター Paul Mellon (1907-99) の手に渡った。メロンは愛書家団体 Roxburghe Club のメンバーであったので、会員の義務として同クラブから複製を刊行したのが本複製である。この複製は内容的に共通点の多いオックスフォードの写本(71参照)と合わせて作成されている。

メロンのコレクションは彼の死後、イエール大学、ヴァージニア歴史協会、ヴァージニア大学の三機関に分けて寄贈され、本写本はイエール大学の Yale Center for British Art に入っている。

* Issued in Barker, N. (ed.) *Two East Anglian picture books; a facsimile of the Helmingham herbal and bestiary and Bodleian ms. Ashmole 1504*. London, 1988. 原色複製 1.0倍 <YP51-A186>

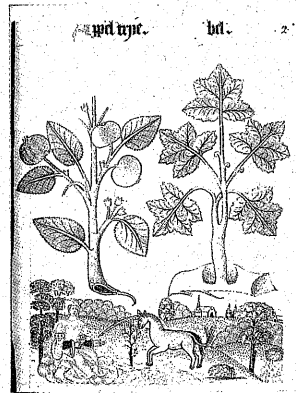
71 (Zotter 1039) Oxford, Bodleian Library. Ms. Ashmole 1504.

Herbal and bestiary. 50 leaves. 410×284. Parchment.

East Anglia で15世紀に筆写。

「本草と動物書」 ゴシック体。70と非常に似た内容の写本。共通点が多いが、相異点も多く、70と関連を持って制作されたと思われる。6つの丁と9葉から成る。94種の植物と45種の動物、その他エンブレムのデザイン等が描かれ(図25)、末尾に索引がある。

本書は17世紀イギリスの科学者にして尚古家、愛書家 Alias Ashmole (1617-92) が所蔵していたもので、彼の膨大な科学コレクション(cabinet of curiosities)と共にオックスフォード大学ボドレイ図書館に寄贈された(1677年)。当時、オックスフォード大学はアシュモール博物館を建てて収蔵したが、写本2,000冊等はボドレイ図書館へ移されている。



(図25)

* Issued in Barker, N. (ed.) *Two East Anglian picture books; a facsimile of the Helmingham herbal and bestiary and Bodleian ms. Ashmole 1504*. London,

1988. 原色複製 1.0倍 <YP51-A186>

72 (Zotter 128) Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Ms. Barberini latinus 241.

Martinus de la Cruz: *Libellus de medicinalibus Indorum herbis*. Latin.

70 leaves. 206×152. Paper.

メキシコで1552年に筆写。

マルチヌス・デ・ラ・クルス「インドの薬草」 斜体の人文主義書体。メキシコの薬草を集めた最古の写本。著者（編者）は Tlaltilulco（メキシコ市）の College of Santa Cruz の学生であった Martinus de la Cruz と Juannes Badianus（両者ともアズテク人）で、アズテク民族が薬草として用いた植物のリストを作成し、Martinus が本文と図を書き、Badianus がラテン語訳したと思われる。末尾に Badianus の名が記されていることから「Badianus 写本」と呼ばれる。病気のグループにより13章に分けられており、204の薬草が記述されている。

本写本は教皇ウルバヌス8世（在位1623-34）の甥、フランチェスコ・バルベリーニ枢機卿のコレクションにあったもので、約12,000点の写本と共に20世紀初頭にヴァチカン図書館に入った。

* Issued as Emmart, E. W. (ed. & tr.) *The Badianus manuscript (codex Barberini lat. 241), Vatican Library; an Aztec herbal of 1552*. Baltimore, 1940. 原色複製 1.0倍 <SD121-63>

V. 歴史・地理

古代期、ヘロドトス、トゥキディデス、タキトゥスのような歴史家が出たが、中世における歴史記述はキリスト教を土台にするものであった。エウセビオス（c.263-339）を初めとしてベータ（673-735）、フライジング（c.1111-1158）等により普遍史や年代学書が書かれ、それに対応するマップ・ムンディと呼ばれる世界地図が作られた。

地理書としてはセヴィリアのイシドールによる「語源論」（7世紀）第20巻での記述を初めとして、カルピーニ、マンデヴィル等の旅行記が有名であり、それらに出てくる異国の怪物を描いた写本も多数残っている。

ここでは有名なプトレマイオス、マルコ・ポーロの著作の他、コロンブス関係資料、伝記等が取り上げられている。

73 (Zotter 199) Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Codex Vaticanus latinus 4922.

Donizo: *Vita Mathildis*. Latin. 90 leaves. 211×156. Parchment.

カノッサにて1115年に筆写。7点の細密画。

ドニゾー「カノッサのマティルダ伝」 カロリング朝体。 神聖ローマ皇帝ハインリヒ4世が教皇グレゴリウス7世に屈したという「カノッサの屈辱」事件（1077）の舞台となったカノッサ城砦の主・トスカナ辺境伯マティルダ（1046-1115）の伝記。国王や法王でない人物の伝記としては最古のものである。カノッサ家の歴史やマティルダの生涯を、カノッサ城自身が物語るという形式で描いている。

レオン詩体六脚詩句で書かれた本写本は数丁から成るが、quaternion が中心である。まず本体のマティルダ伝2巻が完成し、その前部分に目次など、その後部分にマティルダの死を悼む詩などが付け加えられて成立した。現在の25葉目と26葉目の間にあった2葉が切り離されてしまったため、本文の一部が欠落している。詩は2名が筆写しており、訂正・追記をしている人物は著者ドニゾー本人ではないかと推定されている。彼はカノッサのベネディクト会聖アポロニウス修道院の修道士で、後に院長を務めた。標題は1612年に初めて本写本を翻字・刊行したS. テンヤジェルが与えたもので、本来は写本第1巻冒頭にある“De principibus Canusinis (カノッサの諸侯について)”が著者の意図した標題と考えられている。本写本には7枚の彩色細密画が付いており、f. 49r は玉座のマティルダに跪いて教皇への取り継ぎを嘆願するハインリヒ4世を描いたものである（図26）。各頁19行の本文には黒インクが主に使用され、少し離れた位置に置かれた詩の書き出しの1字のみ、1行ごとに赤と黒で色分けされて書かれている。金を用いて彩色された動物文様の大きなイニシャルが数点、朱系統の色を使用した繊細な中型のイニシャルがしばしば見られる。カロリング小文字体を思わせる、優美な書体で筆写されている。



(図26)

* Issued as Golinelli, P. (ed.) 「カノッサのマティルダ伝: Vat. lat. 4922」 Tokyo, 1985-86. 2v. (*Codices e Vaticanis selecti quam simillime expressi iussu Ioannis Pauli PPII, consilio et opera curatorum Bibliothecae Vaticanae*, v. 62) 原色複製 1.0倍 <YP18-88>

74 (Zotter 701) Paris, Bibliothèque nationale de France. Ms. fr. 2810.

Polo, Marco et al.: *Le Livre des merveilles*. French. 307 leaves. 421×300. Parchment.

フランスで14世紀の終わりに筆写。本文は2人の写字生による。挿絵は「ブシコー元帥の時禱書の画家」など複数の画家による。

「驚異の書」(マルコ・ポーロ「東方見聞録」) テクストゥーラ体。この写本は時禱書の注文で有名なベリー公の甥であるブルゴーニュ公ジャン（1371-1419）の注文によって制作されたもので、1413年1月に新年の贈り物としてベリー公に贈呈された。

公の死（1416年）後、アルマニャック伯の手に渡り、さらにベリー公の曾孫であるヌムール公の手に渡ったが、最終的には王室図書館に入った。マルコ・ポーロの「東方見聞録」をはじめ、ジャン・ド・コリ「偉大なるハンの国」、ポルデノーネ「旅行記」など8人の著作が収められている。

最初の著作であるマルコ・ポーロ（1254-1323?）の東方旅行は、1271年に父、叔父と共にヴェネツィアを出発し、西・中央アジアを経て、1274年に元朝の中国に到着した。そして、中国に17年間滞在した後、インドや南海諸島を経てモンゴルから、黒海を通過して帰国したというものである。「東方見聞録」はマルコ・ポーロがこの体験を口述したものをピサの物語作者ルスティケロが文章化した（1298年）とされているが、その祖本は現存せず、これに基づく140種以上の古写本、古版本が存在すると言われる。「驚異の書」に含まれた仏語訳の「東方見聞録」も、そうした異本の一つである。

「驚異の書」の折丁の大部分は quaternion であり、2人の写字生のうち最初の一人が筆写の大半である fol. 267までを完成させ、最後の4つの折丁（ff. 268-299）を第2の写字生に引き継いでいる。「東方見聞録」が掲載されている最初の95葉には、扉絵を含めて84点の細密画を見ることが出来る。この細密画はパリ、ジャクマール・ブンドレ美術館に蔵されているジャン・ル・メングル2世（通称ブシコーの元帥）が注文した時禱書の挿図で知られる画家グループによるものである。複製本は写本の一部、マルコ・ポーロ「東方見聞録」のみのファクシミリ版である。

* Issued as ジャン・リシャール解説 「驚異の書；マルコ・ポーロ東方見聞録；フランス国立図書館蔵本；Fr. 2810」 Japanese ed. Tokyo, 1998. 原色複製 1.0倍 <YP51- A593>

75 (Zotter 164) Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Codex Urbinatus latinus 277.

Ptolemaeus, Claudius: *Cosmographia* (translated in Latin by Jacobus Angelus) Latin. 135 leaves (1 leaf, 7 quinternions, 1 singulion, 6 quinternions and 1 singulion). 598×438. Parchment.

フィレンツェにて1472年に筆写。筆写師兼飾り文字師はウーゴ・コンミネッリ、地図師はピエトロ・デル・マッサイオ。

クラウディオス・ブトレマイオス「宇宙誌」人文主義書体。2世紀頃アレクサンドリアで活躍した万有学者ブトレマイオスの地理学上の著作。原題は「地理学入門 (*Geographike Hyphegesis*)」といい、地図の作成方法などについて述べた概論と、約8,100地点の経度緯度を地方別に並べた目録表から成る本文（全8巻）、及び複数の付図から成る。付図はブトレマイオス自身が作図したのか、彼の死後アガトダイモンという技師が作図したのか議論が分かれる。

「地理学入門」に「宇宙誌 (*Cosmographia*)」という標題を与えた（1406年）のは、ギリシア語原典をラテン語に翻訳したヤコポ・ダンジェロで、教皇アレクサンデル5世に写本を献呈する彼の姿が序言冒頭のミニアチュールの中に描かれている。「地理

学 (*Geographia*)」という標題のものも含め、写本はギリシア語、ラテン語を合わせて148種が現存する。本写本より少し前にニコロ・ジェルマーノが制作した写本(ナポリ国立図書館ファルネーゼ文庫蔵)も有名で、部分的複製が東京で刊行されている。印刷本の刊行は1475年に始まり、19世紀までに56種を数える。本書はルネサンス期イタリアの傭兵隊長ウルビーノ公フェデリゴ・ダ・モンテフェルトロ(1422-82)が所蔵していたもので、発注者、代金の支払者は不明であるが、古代ローマ風に装飾された扉メダイヨンの中にフェデリゴを象徴する動物の絵や紋章が散りばめられていることから、彼にあてて制作されたことは確実と言える。フェデリゴは文芸保護者としても有名で、熱心な愛書家でもあった。印刷本でなく写本を愛好し、費用と労力を惜しまず書物を収集し、常に30~40人の筆写師を雇っていたと伝えられている。「宇宙誌」写本に限っても5種類を所蔵、他にもルネサンス書物工芸の白眉と称えられる2巻本「ウルビーノの聖書」(1476-77年制作)など数々の素晴らしい写本がウルビーノ家旧蔵書として今日に伝わっている。

ウルビーノ家図書館の書物はそれぞれ豪華な装丁が施されていたというが、本書は原装が失われているため、複製版では当時の装丁を留める他のウルビーノ家旧蔵ギリシア語版「宇宙誌」(Urb. graec. 82)が装丁の手本とされている。金箔手押しなどを施した赤褐色染の子牛革で覆った木表紙に、留め金が2つ付いている。十分な大きさを得るため2枚の厚めの羊皮紙をつなぎ合わせ、つなぎ目で折って1折丁としている。quinternionが殆どだが、“世界全図”(ff. 72-73)の様に見開き全体を要する地図が描かれた丁のみ1枚綴りの独立した折丁となっている。地図は殆どが白い肉側頁に描かれており、海の部分は紫に近い濃紺で彩色され、大陸(羊皮紙の地のまま)には海と同じ青色で河川が、茶色で山脈が描き込まれている。本文は2段組、罫線が空押しされ、暗褐色のインクが主に使われている。書体は草書風ローマン書体。筆写者ウーゴ・コンミネッリはフィレンツェの書籍商ヴェスパシアーノ・ダ・ビスティッチ(1421-98)の元で働いたこともある人物で、前述の「ウルビーノの聖書」を初め6種類の写本を残している。彼と地図師ピエトロ・デル・マッサイオは1469年を筆頭に共同で3点の「宇宙誌」を制作した。本書はこれら3点の中ではもちろん、「宇宙誌」全写本の中でも芸術性、内容の正確性を高く評価されるものである。

* Issued as「クラウディオス・プトレマイオス 宇宙誌」東京1984. 2v. (*Codices e Vaticanis selecti quam simillime expressi iussu Ioannis Pauli PPII, consilio et opera curatorum Bibliothecae Vaticanae*, v. 53) 原色複製 1.0倍 <YP7-123>

76 Madrid, Archivo Ducal de Alba.

Columbus, Christopher: *Documentos colombinos en la Casa de Alba*. Spanish. 27 leaves (separate). 385×540 / 90×220. Paper.

「アルバ家のコロンブス文書」 アルバ公爵家(Casa Ducal de Alba)が所蔵していたコロンブス(1451-1506)の21の文書を集めたもの。受取や報告を含む手紙や覚え書きなどがあり、多彩な内容になっている。最も初期の自筆文書は1493年のもので、年

代的に最後のものは息子ディエゴに宛てた1505年2月の手紙（死の15ヶ月前に書かれたもの）である。

この他に第2回航海の記録として貴重な「アントニオ・デ・トーレスに託した覚書」（イサベラ市にて作成、1494年1月30日付）や「第1回航海の参加者名簿（断片）」（パロスにて作成、1492年6月23日付）が含まれる。後者はコロンブスが第3回航海に携行した原本から、1498年11月16日サント・ドミンゴ市で作成された写しである（原本は所在不明）。

* Issued as Varela, C. (*notes*) *Documentos colombinos en la Casa de Alba*. Sevilla ; Madrid, 1987. 2v. 原色複製 1.0倍 <GK422- A76>

77 Seville, Biblioteca Capitular y Colombina.

Columbus, Christopher: *Libro de las profecías*. Spanish and Latin. 70 leaves. 290×210. Paper.

1502年から04年の間に書かれた。

クリストファー・コロンブス「預言の書」 アメリカ大陸発見で有名なコロンブスはイザベル女王の影響によりフランシスコ会的な預言者のヴィジョンに捕らえられ、インディアスへの航海が実現したのは神の摂理であり、預言の成就に他ならないと考えていた。さらに、インディアスから得た利益を元にエルサレムを奪回することも祈念していた。エルサレム奪回の実現を預言しているとコロンブスが考えた言葉を、聖書、ピエール・ダイイ著「世界の像」等から集めて編纂したのがこの「預言の書」である。セビリアのサンタ・マリア・デ・ラス・クエパス修道院のカルトウジア会修道士ガスパー・ゴリシオが編纂に協力した。

1501年2月26日付けのゴリシオ宛手紙で、王に見せるため清書しようと思っている旨書いているが、印刷されることはなかった。聖書からの引用文、コロンブスの手紙（「インディアス事業の着想」等）、アウグスティヌスなどからの引用文等を集めたもので、終末まで155年しかない間に広い土地に福音を広めねばならないと結論している。

各葉にふられた数字から、原本は84葉と推定される。装丁は革、金めつきされた8つの鋳を持つムダハル様式。セビリアのコロンブス図書館に彼の蔵書と共に所蔵されている。

* Issued as his *Libro de las profecías*. Ed. facsímil. Madrid, 1985. 原色複製 1.0倍 <GK422- A74>

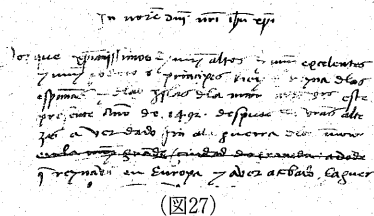
78 (Zotter 1026) Madrid, Biblioteca Nacional. Ms. Vitr. 6-7.

Columbus, Christopher & Casas, Bartolomé de las: *Diario*. Spanish. 67 leaves. 310×200. Paper.

バルトロメ・デ・ラス・カサスが手写本を筆写。

クリストファー・コロンブス「処女航海の日記」 コロンブスが毎日書き留めた第1

回航海（1492年8月3日～93年3月15日）の日誌を、ドミニコ会士ラス・カサス（1474?-1566）が要約したもの。航海日誌原本は、帰国後コロンブスがフェルナンド王、イサベラ女王に提出し（1493年4月）、そこから写本が作成されたことが知られている（1493年6月1日付、並



びに同年9月5日付コロンブス宛書簡でイザベル女王は日誌の写しをとったので、それを送る旨伝えている）が、原本、写本共に行方不明になっている。コロンブス家が所蔵していた写本（息子のフェルナンドは父の伝記の中でこの写本をしばしば引用している）をもとにラス・カサスが作成したこの要約（図27）は、第1回航海日誌の内容を今日に伝える唯一の史料となっている。

ラス・カサスは新大陸に渡ってインディオの惨状を目にし、コンキスタドール（征服者）の非道な行為を弾劾、インディオの保護を生涯の仕事としたことで知られており、著作も「インディアスの破壊についての簡潔な報告」（1552）など多数ある。大作「インディアス史」編纂の参考資料とするため、この航海日誌を筆写・要約したものと考えられている。欄外や本文中にラス・カサス自身の私見が散見されるが、概して原本に忠実な要約であると見られている。装丁は革。

コロンブスの新大陸発見を伝える書簡（タイトルは「新発見された島に関する書簡」）は1493年から短期間に何度も印刷・刊行されたが、本書が公刊されたのは、やっと1825年になってからであった。

* Issued as his *Diario de la primera navegacion*. Ed. facsimil. Madrid, 1984. 原色複製 1.0倍 <GK422-A75>

79 Seville, Archivo General de Indias.

Columbus, Christopher: *Libro copiadore*. Spanish. 38 leaves. 320×210. Paper. 16世紀半ばに筆写。

「コロンブスの書簡控え帳」 16世紀半ばに作られた手写本の写しと思われる。近年発見されたもので、旅に関する手紙6通、カトリック王への個人的な手紙2通を含む。最初の手紙の日付は1493年である。

* Issued as his *Libro copiadore*. Ed. facsimil. Madrid, 1989. 原色複製 1.0倍 <GK422-A75>

V-1 年代記 Chronicle

「英国年代記」「ロシア原初年代記」等、中世特有のジャンルである年代記は教会で編纂

されたが、フロワサールの「年代記」(14世紀)のように母語で書かれたものもあり、文学として扱われるものもある。種類も多く、「ニュルンベルク年代記」のようにインキュナブラとして刊行され、広く流布したものもある。

80 (Zotter 736) Paris, Bibliothèque nationale de France. Ms. latin 5411.

Chronicon Casauriense. Latin. 272 leaves. 375×240. Parchment.

Casauria において修道僧 Giovanni di Berardo (Johannes Berardi) が12世紀末に筆写。

「カサウリア年代記」 ゴシック体。カサウリアはイタリア中部 Abruzzo 地方の町。871年にベネディクト会 San Clemente 修道院が建てられ、この年代記は、同修道院の変遷や、関係する公文書などの台帳を記録したものである。Leonate 修道院長 (1155-82) の時代に、修道士 Giovanni di Berardo が構成し、Maestro Rustico と呼ばれる写字生、他の写字生1名、及び装飾者1名によって制作された。1490年にはこの写本はナポリのアラゴン家にあったという記録があり、1494年、アンジュー家の権利を回復するためナポリ遠征を行なったフランス王シャルル8世 (1470-98) によって、アラゴン王国のナポリ図書館からパリにもたらされ、後代の手で *Instrumentarium seu chartularium monasterii Casauriensis* というタイトルが書かれている。(口絵2参照)

17世紀の古文書学者ジャン・マビヨンは本写本を既に知っており、彼の有名な古文書学研究書 (1681) で12-13世紀の書体の例として図版を用いて説明している。

* Issued as *Liber instrumentorum seu Chronicorum Monasterii Casauriensis; codicem Parisinum Latinum 5411 quam simillime expressum edidimus*. Aquila, 1982. 原色複製 1.0倍 <YP51-A625>

81 (Zotter 704) Paris, Bibliothèque nationale de France. Ms. français 6465.

Grandes chroniques. French. 470 leaves. 460×350. Parchment.

Saint-Denis の修道院で15世紀に筆写。51点の細密画はヤン・フーケ (c.1420-c.80) による。

「大年代記」 バタード体。フランスの起源から始まり歴代国王の業績を記した中世国家史的年代記の代表作。王家の墓所として知られるパリ北郊サン＝ドニ修道院 (ダゴバール1世が626年に設立) では、ルイ6世 (1081-1137) の時代よりラテン語の王国年代記が書き継がれていた。ルイ9世 (聖王、1214-70) の命によりこれらを編纂、フランス語に翻訳したのが「フランス大年代記」の最初 (1274年) である。以後ルイ11世 (1423-83) の時代まで、サン＝ドニ修道院において編纂が継続された。106部の写本が現存している。本書はノエル・フリボワが縮約し、1458年シャルル7世に献呈したと推定されている写本。宮廷画家として活躍したヤン・フーケ (1420頃-80頃) と彼がトゥールに開設していた工房が挿絵制作を担当している。フーケはイタリア・ルネサンスの影響を初めてフランス絵画に取り入れた15世紀を代表する画家。写本挿

絵の分野では他に「エティエンヌ・シュバリエの時禱書」「ユダヤ古代史」などを残している。

* Issued as Fouquet, J. *Die Bilder der Grandes Chroniques de France; mit der originalen Wiedergabe aller 51 Miniaturen von Manuscrit français 6465 der Bibliothèqu National in Paris und 60 Schwarzweiss - Abbildungen.* Graz, 1987. 原色複製 (部分) 1.0倍 <KC482- A15>

82 St. Petersburg, Rossiiskaya Akademiia Nauk, Biblioteka.

Povest' o Kulikovskoi bitve. Old Russian. 124 leaves. 350×240. Paper. 1570年代に筆写。

「クリコボの戦い」 本写本は中世のロシア諸公国とキプチャク・ハーン国の戦いを描いたロシアの年代記 *Skazanie o Mamaevom poboishche* (ママイの敗北記) の一部である。全体は Laptev volume、Osterman volumes (2巻)、Shumilov volume など6巻から成り、ロシア国内のそれぞれ異なる機関に分かれて所蔵されている。本複製は、ロシア科学アカデミー図書館で所蔵されている Osterman volumes 第2巻の始めの部分で、1230年頃から約250年続いた「タタールのくびき」(キプチャク・ハーン国による間接支配) の中で特に有名な「クリコボの戦い」の部分 (図28) の複製である。1380年9月、モスクワ大公国のドミトリー大公 (1350-89) の率いる連合軍は、ハーン国のママイ・ハーンの軍勢をロシア中部ドン川支流のクリコボの原野で迎え撃った。結局ロシア側の大勝利に終わったものの、兵の半分を失ったと伝えられている。これが「タタールのくびき」を打ち破る一撃となったので、この勝利をたたえて、本写本他「Ermolinsk 年代記」を始めとする年代記や *Zadon shchina* という武勲詩でも取り上げられている。



(図28)

* Issued as Likhachev, D. S. (ed.) *Povest' o Kulikovskoi bitve; tekst i miniatiury litsevoogo svoda XVI veka.* Leningrad, 1984. 原色複製 (部分) 1.0倍 <YP51-A203>

V-2 地 図

地図の歴史は古く、旅行の道具としてだけでなく、世界観の表現としても作られて来た。すでに、ギリシア人は地球を球体と認識しており、プトレマイオスの地理学は以後1500年間権威であり続けた。中世においてプトレマイオスを継承したのはアラビア人であり、それがヨーロッパにもたらされるのは15世紀になったのである。

ヨーロッパ中世の地図はキリスト教会の影響下で作られ、エルサレムを中心にしてアジア、ヨーロッパ、アフリカの3大陸を円の中に示すT-O図がセビアのイシドールやオロシウス等の著作中に取り入れられている。これとは別にマクロビウスの著作中で用いられた半球図（またはゾーン図）、ベアトゥス「黙示録注解」中に用いられた世界図等が転写されて多数現存している。また、ポルトラーノと呼ばれる地中海の海図も作られた。

コロンブスの新大陸発見もこれらの地図が土台になっており、彼自身地図（海図）販売者であったという説もある。印刷術の発明と新大陸の発見が重なって16世紀以後、より正確な地図が作製されることになる。

83 Vienna, Österreichische Nationalbibliothek. Cod. 324.

Tabula Peutingeriana. Latin. 1 leaf. 340×6750. Parchment.

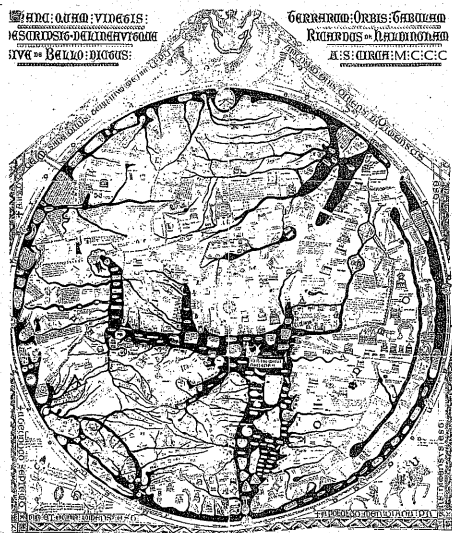
12世紀から13世紀初頭の間に筆写。

「ポイティンゲル図」 テクストウラ体。古代ローマ帝国の横長の道路図で、1508年にアウグスブルクの蒐集家 K. Peutinger が入手したので「ポイティンゲル図」と呼ばれる。この地図はローマのカラカラ帝の時代、3世紀頃の原因を模写したものである。矩形の羊皮紙計12枚（うち最西の1枚亡失）に連続して描かれ、イベリアからインドまでを横長の紙面に収めた形になっている。

この地図は1598-99年にポイティンゲルの遠縁 M. Welser が地図刊行者で有名な A. Ortelius と J. Möller の助力で銅版印刷している。

* Issued in Klemp, E. (ed.) *Asien auf Karten von der Antike bis zur Mitte des 19. Jahrhunderts.* Weinheim, 1989. 図2 原色複製（部分）0.96倍 <YP51-

A165>



(図29)

84 Hereford, Hereford Cathedral.

Richard de Bello of Haldingham :

Hereford mappamundi. Latin.

1 leaf. 1580×1330. Parchment.

英国で1290年頃筆写。

「ヘレフォード世界図」 英国で制作された最古の世界図。図の左下に書かれた書き込みから著者がヘレフォードの主教であった Richard de Bello とされる。牛皮に描かれており、地図の部分は直径1.32mの円で、中心がエルサレムである（図29）。ローマ時代に作られた地図を元に写したものと考えられているが、オリジナルは現存しない。地図中には「聖

書」からのエピソードが描かれ、ヘレフォード大聖堂の祭壇で用いられた。

ヘレフォード寺院は8世紀に作られた福音書を始め、鎖につながれた書物が並べられた中世の図書室を残していることでも有名であり、230点の中世写本の他、計1,500点の貴重書を所蔵している。

* Issued in *Africa on maps dating from the twelfth to the eighteenth century*. Leipzig, 1968. 図3 原色複製 0.22倍 <YP7-21>

85 London, British Library. Ms. Royal 14 C IX.

Higden, Ranulf: *Mappamundi*. From his *Polychronicon*, ff. 1 v-2 r. Latin. 478×339. Parchment.

英国で1350年頃筆写。

ヒグデン「世界図」 ヒグデン (c.1299-1364) は英国チェスターのベネディクト会士で年代記 *Polychronicon* の著者。「ポリクロニコン」冒頭部分にあるのが世界図で、この写本には以下、地中海地図と地名索引が付けられ、その後、本文が始まっている。John Wardeboys が所蔵していたが、1509年、英国王ヘンリー8世 (1491-1547) の手に渡り、現在では英国図書館が所蔵している。地図付きの「ポリクロニコン」写本は120部ほど現存するが、本写本はオリジナルに最も近いものと考えられている。

ヒグデン「ポリクロニコン」は1387年に John Trevisa (1306-1402) により英訳され、インクynaブラ時代にはウィリアム・キャクストン (1420/24-92) により「イングランド誌」(1480)、「ポリクロニコン」(1482) として刊行された。

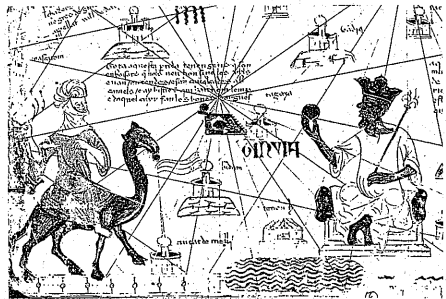
* Issued in *Africa on maps dating from the twelfth to the eighteenth century*. Leipzig, 1968. 図4 原色複製 1.08倍 <YP7-21>

86 (Zotter 687) Paris, Bibliothèque nationale de France. Ms. espagnol 30.

Cresques, Abraham: *Catalan atlas*. Catalan. 6 double leaves of plates. 650×500. Parchment.

バルセロナで1375年に筆写。

「カタロニア図」 十字軍の輸送により地中海の海上交通が発達すると共にポルトラノと略称される海図が13世紀頃より発達した。本図はそこから発展した世界地図と海図で、マヨルカ島在住のアブラハム・クレスケスが作成した。フランス王シャルル5世の注文と思われ、14世紀後半にシャルル5世の図書館に移り、現在はフランス国立図書館の所蔵となっている。もともと6葉の大きなパネルとして作られていたが、12葉の本の形に変えられた。6葉の内容は以下の通り。



(図30)

- 1葉：占星術、天文学のダイアグラム
 - 2葉：カレンダー、天体の位置、黄道12宮
 - 3葉：西ヨーロッパ、地中海西部、北アフリカの西半分（図30）
 - 4葉：東ヨーロッパ、地中海東部、黒海、北アフリカの東部
 - 5葉：カスピ海周辺の西アジア、パミール、イラン、メソポタミア、アラビア、インド西部
 - 6葉：アジア東部、インドの東から中国まで、知られていない北東地域
マルコ・ポーロの伝えたアジア情報が詳しい所に特色がある。
- ちなみに、フランス国立図書館はこの地図を電子化してインターネット上で公開している。

* Issued as Grosjean, G. (ed.) *Mapamundi, the Catalan atlas of the year 1375*. Dietikon - Zürich, 1978. 原色複製 1.0倍 <YP51-A302>

87 Modena, Biblioteca Estense.

Catalan world map. Catalan. Cliameter 1130. Parchment.

1450年頃、マヨルカ島かバルセロナで筆写。

「カタロニア世界図」 86でも述べたようにカタロニアは海図制作の中心地であり、本図もそれを土台にしていると考えられる。作者は不明であるが、海図作者 Petrus Roselli とする説もある。直径1.13mの円形中に地図と聖書伝説が描かれている。

Biblioteca Estenseはフェラーラの貴族エステ家の蔵書がその起源で、モデナに移った後、フランチェスコ2世（1660-94）が建てた図書館。文芸の保護者であったエステ家の蔵書を所蔵し、岩波書店から複製が刊行中の「ボルソ・デステの聖書」も同館の所蔵。

「カタロニア世界図」は1934年にロンドンで解説書付きで複製が刊行され、1995年にも新しい複製が刊行されている。

* Issued in *Africa on maps dating from the twelfth to the eighteenth century*. Leipzig, 1968. 図5 原色複製 0.27倍 <YP7-21>

VI. 文 学

ヨーロッパ中世の文学として叙情・叙事詩、武勲詩、ロマンス、風刺文学、滑稽話、寓話、聖・俗演劇、サーガ、歌謡等のジャンルがある。「ロランの歌」「ベオウルフ」「ニーベルンゲンの歌」等は著名な叙事詩であるが、騎士物語で有名なアーサー王伝説は原型がスキタイ文化にまで遡れるという。口承によって受け継がれた文学が多く、写本には異文が非常に多い。

88 (Zotter 196) Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Vaticanus latinus 3867.

Vergilius: *Vergilius Romanus*. Latin. 309 leaves. 332×323. Parchment.

6世紀の中頃に筆写(制作地はラヴェンナとする説あり)。19点の細密画。

ヴェルギリウス「ヴェルギリウス・ロマヌス」ラスティック・キャピタル体。写

本は、20の断片を現存する309葉の1巻にまとめたもの(図31)でヴェルギリウスの作品 *Bucolis*、*Georgies*、*Aeneis* が含まれている。当初412葉から成っていたと見られる。紙葉が正方形に近い形をしている所から5-6世紀に制作されたものとされる。13世紀より前にパリ近郊のサン・ドニ大修道院図書館に属していたことが確認出来



(図31)

るが、15世紀、シクストゥス4世の頃にはヴァチカン図書館の所蔵となっている。ちなみにヴァチカン図書館には4世紀末から5世紀初頭に筆写されたヴェルギリウス作品(Vat.lat.3225)も所蔵されており、そちらは「ヴェルギリウス・ヴァチカヌス」と呼ばれている。

複製本は、全309葉の縮刷複製(白黒)と、細密画のある19葉の原色複製である。

* Issued as Bertelli, C. (ed.) 「ヴェルギリウス・ロマヌス; Vat. lat. 3867」 Japanese ed. Tokyo, 1985. 3v. (*Codices e Vaticanis selecti quam simillime expressi iussu Ioannis Pauli PP II, consilio et opera curatorum Bibliothecae Vaticanae*, v.66) 原色複製(部分)と単色複製 0.47倍 <YP18-85>

89 (Zotter 316) Heidelberg, Heidelberger Universitätsbibliothek. Codex Palatinus germanicus 357.

Kleine (Alte) Heidelberger Liederhandschrift. Middle High German. 45 leaves. 185×135. Parchment.

シュトラスブルクで1270年代に筆写。

「小ハイデルベルク歌謡写本」 ゴシック体。1150年頃から1300年にかけての約150年間に盛んに創作された、中高ドイツ語の宮廷風恋愛叙情詩（ミンネザング）の収集写本。創作の最盛期を過ぎた13世紀の終りから14世紀の初めにかけて、主に西南ドイツで、富裕な愛好者によって体系的に収集・保存された。本書は、1300年頃コンスタンツで作られた「ヴァインガルテンまたはシュトゥットガルト歌謡写本」（写本B）、最も大部な「大ハイデルベルク歌謡写本」（写本C 後出91）と並んで、3大収集写本とされている。本書（写本A）は3つの写本の中で最も古く、1270年代にシュトラスブルクで、司教 Konrad von Lichtenberg (d.1299) の命で制作されたと推定されている。12世紀及び13世紀初期の詩人34名の名前とその作品を収録している。

* Issued as Blank, W. (ed.) *Die kleine Heidelberger Liederhandschrift; Cod. Pal. Germ. 357 der Universitätsbibliothek Heidelberg*. Wiesbaden, 1972. 2 v. (*Facsimilia Heidelbergensia*, Bd. 2) 原色複製 1.0倍 <KS381-A41>

90 (Zotter 166) Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Codex Urbinatus latinus 376.

Guillaume de Lorris & Jean de Meun: *Le Roman de la Rose*. Old French. 130 leaves (16 quaternions+2 leaves). 325×235. Parchment.

パリで1280年頃筆写。本文は、Berthaud d'Achy ともう一人逸名の写字生による。

挿絵は、Berthaud d'Achy と *Méliacén* (fr.1633) の画家。

ギヨーム・ド・ロリス、ジャン・ド・マン「薔薇物語」 ゴシックの混淆書体。ギヨーム (fl.1230) とジャン (1240-1305) はともに中世フランスの詩人。「薔薇物語」は約22,000行の8音節詩句から成るフランス中世の寓意文学の代表作である。4,058行までの前編はギヨームによって1230年頃に書かれたが、おそらく作者の死去のため中断し、後編はジャンによって約40年後の1270年頃に書かれた。薔薇として寓意化されている乙女に対する求愛の物語であり、前編は詩人ギヨームの見た夢を語るという夢物語の形を採っている。前編と後編で作風は大いに異なっており、ギヨームの貴族的・騎士道的志向と、ジャンの市民的・現実主義的風潮とを総合した作品となっている。チョーサーやダンテ、ペトラルカに愛読され、イタリア語、オランダ語、英語に翻訳もされた。

現在300点近くの写本が現存しているが、本写本は1275年頃によく完成した「薔薇物語」の最も早期のもので、かなり確実に年代が決定できる手写本と見なされている。遅くとも1628年にはウルビーノ公爵家の図書館の所有となり、その後、1657年に公爵家の図書館の全蔵書と共にヴァチカン図書館に移された。

16の折丁は quaternion で、さらに fol.129が単紙葉として加わり、現状では巻末の見返し紙葉と一緒に人為的につなぎ合わされた bifolio (二つ折フォリオ) となっている。fol.33で写字生が交代しており、巻末の記載によれば、この第二の写字生がベルトー・ダシである。最初の写字生はほとんど黒に近い暗い色のインクで書い

たのに対し、ベルトーはさまざまな濃淡のある褐色のインクを用いている。93点の細密画と1点の挿絵入り頭文字があり、詩の物語の経過に題材をとった場面などが描かれている。fol.51vの挿絵だけは「メリアサン fr.1633の画家」が仕上げ、それ以外の挿絵についてはベルトー・ダシが描いたものと推測されている。美術史的には盛期ゴシックから後期ゴシックに至るフランス芸術の変革期に当る作品と言える。

* Issued as König, E. (ed.) *Le roman de la Rose: Urb. Lat. 376*. Japanese ed. Tokyo, 1989. 2v. (*Codices e Vaticanis selecti quam simillime expressi iussu Ioannis Pauli PP II, consilio et opera curatorum Bibliothecae Vaticanae*, v. 71) 原色複製 1.0倍 <YP51-A101>

91 (Zotter 319) Heidelberg, Heidelberger Universitätsbibliothek. Ms. Palatinus germanicus 848.

Codex Manesse. German. 426 leaves. 355×250. Parchment.

チューリッヒで14世紀の初めに筆写。

「大ハイデルベルク歌謡写本(マネッセ写本)」ゴシック体(小文字)。詩人(ミンネゼンガー)約140人による名詩歌集。全体では約6,000節からなる詩と、詩人137人の姿を描いた1頁大の彩色細密画を含んでいる。中世ドイツの最も豪華な歌謡写本である。1310年代から30年代にかけて制作された。筆記には6-10人の写字生、挿画には4人の画家が携わったと考えられている。チューリッヒの貴族マネッセ家(Rüdiger Johannes 父子)が立案したため、「マネッセ写本」と通称される。1571年にはプファルツ選帝侯フリードリッヒ3世の蔵書としての記録が残り、ハイデルベルクにあったことが知られている。1657年パリの王立図書館が購入、長らく「パリ写本」として知られていたが、1888年ドイツ帝国によって買い戻され、現在はハイデルベルク大学図書館に展示されている。Johann Jakob BreitingerとJohann Jakob Bodmerによって出版する試みがなされていたが(1758-59年)、ロマン主義時代に再評価され、1838年完全な形で出版された。

* Issued as Walther, I.F. (ed.) *Codex Manesse; die grosse Heidelberger Lied-erhandschrift*. Frankfurt am Main, 1975-78. 原色複製 1.0倍 <YP18-51>

92 (Zotter 420) Leiden, Bibliotheek der Rijksuniversiteit. Ms. Letterkunde 191.

Guillaume le Clerc: *Ferguut*. Middle Dutch. 32 leaves. 250×165.

Parchment.

オランダで14世紀半ばに筆写。

ギョーム・ル・クレール「フェルグート」テキストウーラ体。本書は、ギョーム・ル・クレールによる古伝説のアーサー王ロマンス「フェルギウスとガリエン(*Fergus et Galienne*)」(1200-33年)の翻案である。中世オランダ語訳としては、現存する唯一の写本と見られる。内容は、田舎の少年フェルグートがアーサー王とその騎士たちの姿を見たことから騎士に憧れ、数々の冒険を繰り広げた後、ロジアンを治める女性



(図32)

ガリエンと結婚するという物語である。折丁は quinternion (10葉で1丁) で、3つの折丁と2枚の紙葉の全32葉で構成されている。各ページは44行の2段組で書かれ、各段の頭文字を中心に人の顔や動物などをモチーフにした装飾が施されている。特に第1葉の初語の頭文字には、よるいを着た一人の騎士の全身が描き込まれている(図32)。

* Issued as Haan, M. J. M. de (ed.) *Ferguut; a facsimile of the only extant Middle Dutch manuscript* (Leiden, University Library, ms. Letterkunde 191). Leiden, 1974. 単色複製 1.0倍 <KR157-18>

93 Oxford, Bodleian Library. Ms. Bodley 851.

Langland, William: *Piers the Plowman*, etc. Middle English. 209 leaves. 235/45×175/80. Parchment.

オックスフォードあるいはラムジー修道院において1370年代初め(?)に筆写。15世紀に書き足された。

ウィリアム・ラングランド「農夫ピアズの幻想」 Anglicana formata 体。頭韻詩で書かれた寓意的夢物語詩であり、14世紀後半に書かれた中世英文学の代表的な作品。著者ラングランド(1330?-1400?)はイングランド西部で生まれ、ロンドンに住んだ下層聖職者。

「農夫ピアズ」は全部で54以上の写本が現存している。内容的に、最も早い時期に書かれたAテキスト(1362年頃成立)、それを修正し大幅な増補を加えたBテキスト(1377年頃成立)、最終的な改訂が加えられたCテキスト(1395年頃成立)の3種類に大別されているが、いずれもラングランドが書いたものとされる。本写本 Ms. Bodley 851 (Zテキスト)は著者の草稿(Ur-text)のコピーであり、A・B・Cテキストに先立つものであるとする研究もあるが、賛否が分かれている。

本写本は全209葉あり、3つの別々の作品を1冊にまとめたものである。「農夫ピアズ」は3番目の部分に含まれている。本複製は、第5葉(r-v)、ジョン・ウェルズの蔵書票の貼られている葉(6v)、124r-140v(「農夫ピアズ」Zテキスト)のみ。

ジョン・ウェルズはラムジー修道院修道士でオックスフォード Gloucester College の学者、反ウィクリフ派として有名だった。彼の蔵書票が貼られているのは最初の部分だが、写本制作に携わった複数の書記の筆写、装飾のタイミングなどから、残りの部分もウェルズが所蔵していたのではないかと見られている。

* Issued as Brewer, C. & Rigg, A. G. (introd.) *Piers Plowman; a facsimile of the Z-text in Bodleian Library, Oxford, MS Bodley 851*. Cambridge; Rochester, NY, 1994. 単色複製 0.87倍 <KS163-A77>

94 Lisbon, Biblioteca Nacional de Lisboa. Codex Alcobacensis 36.

Vida de Santo Alexo. Portuguese. 5 leaves. 276×185.

1375年頃に筆写。

「聖アレクシス伝」 ゴシック体。10世紀頃、東方ビザンティンから伝わった聖人伝。ギリシア人僧が伝えたと言われる。アレクシスは4-5世紀初めの聖人であり、この聖人伝によればローマ貴族の出身。婚礼の日に家を出、エデッサ（トルコ南東の都市）で苦行者の生活を送ったという。伝説では、エデッサで17年暮らした後、聖者として知られるのを嫌ってローマに戻り、父の家の階段の下で17年人知れず暮らしたことになる。5世紀のシリアに源を発する伝説が元で、ギリシア語・ラテン語の形で西ヨーロッパに伝わり、11世紀にはフランス語で *La vie de saint Alexis* が書かれるなど、様々な文学作品として取り上げられ普及した。日本で印刷されたキリシタン版 *Sanctos No Gosagueono Vchi Nvqigaqi*（「サントスの御作業の内抜書」1591）中にも「サント・アレクシス伝」として含まれている。

本写本は Alcobaca の Santa Maria 修道院に伝わる2種のポルトガル語の「聖アレクシス伝」のうち、古い方である。同修道院は他にもう1種のラテン語「聖アレクシス伝」を所蔵していた (Cod. 35)。

* Issued in Allen, J. H. D. *Two old Portuguese versions of the Life of Saint Alexis: Codices Alcobacenses 36 and 266.* Urbana, 1953. (*Illinois studies in language and literature*, v. 37, no. 1) 単色複製 0.62倍 <869.3-A384t>

95 Lisbon, Biblioteca Nacional de Lisboa. Codex Alcobacensis 266.

Vida de Santo Alexo. Portuguese. 7 leaves. 263×180.

1400年頃に筆写。

「聖アレクシス伝」 ゴシック体。前項の写本から筆写されたと推定されている写本。後世（1415年頃？）の手で、テキストを通じて修正が施されている。

* Issued in Allen, J.H.D. *Two old Portuguese versions of the Life of Saint Alexis: Codices Alcobacenses 36 and 266.* Urbana, 1953. (*Illinois studies in language and literature*, v. 37, no. 1) 単色複製 0.66倍 <869.3-A384t>

96 San Marino, Huntington Library. Ms. EL. 26 C 9.

Chaucer, Geoffrey: *The Canterbury tales.* Middle English. 240 leaves. 399×284. Parchment.

ロンドンで1410年頃に筆写。

ジェフリー・チョーサー「カンタベリー物語」 Anglicana formata 体。イギリスの詩人チョーサー（c.1343-1400）の最大傑作であり、1387年から1400年にかけて執筆されたと見られる。17,000余行の韻文と2つの長い散文の物語から成る。南イギリスにあるカンタベリー聖堂に詣でる巡礼たちがロンドンの宿屋に落ち合い、チョーサーもそれに加わる。そこで各人が往復にそれぞれ話をするという展開になっている。し

かし、チオーサーの死によって未完に終わり、24編の物語が書かれたに留まった。

この写本は17世紀初頭から3世紀の間、エルズミア男爵の図書室に所蔵されていたため「エルズミア・チオーサー（エルズミア写本）」の名で知られる。この図書室は Thomas Egerton 卿（1540? - 1617）が収集し始めたもので、Brigewater House Library の名で代々続き、20世紀初頭には刊本4,400冊、写本12,000冊に達した。1917年に鉄道王ヘンリー・E・ハンティントンが蔵書全体を購入し、本写本も現在はハンティン

トン図書館の所蔵となっている。チオーサーの死後すぐに制作されたこの写本は、80点ほど現存する「カンタベリー物語」の写本の中でも、ウェールズ国立図書館に蔵されている Hengwrt 写本と並んで、最もテキストとしての信頼性が高いとされる。23点の細密画は各話の冒頭に23人の巡礼の姿を描いたものであり、そのうちチオーサーの自画像と見られる1点は特に有名である（図33）。さらに各ページには豪華な金の装飾が施されており、美術的価値も高い。

エルズミア写本の複製は1911年に刊行されていたが、単色（部分的に原色）複製であり、イリュミネーションも忠実な複製ではなかった。本複製は日本のミズノプリテック社により250部印刷され、出版は雄松堂である。



（図33）

* Issued as Woodward, D.H. (ed.) *The Canterbury tales; the new Ellesmere Chaucer facsimile of Huntington Library MS EL 26 C 9*. Tokyo, 1995. 原色複製 1.0倍 <YP51-A454>

97 Oxford, Bodleian Library. Ms. Douce 104.

Langland, William: *Piers the Plowman*. Middle English. 112 leaves (10 quaternions+3 quinternions+1 folio) 213/17×146/51. Parchment.

1427-28年に筆写。72点の細密画。

ウィリアム・ラングランド「農夫ピアズの幻想」 Anglicana formata 体。本写本は、主に「農夫ピアズ」のCテキストから成るが、テキストの内容より、欄外の挿絵で有名である。54以上の現存する写本の中で、一連の挿絵が付いている唯一の写本である。62のページに72の彩色された挿絵があり、本複製ではその箇所だけはすべて原色図版で複製されている（別頁立て）。1人の筆写者によって書かれており、その通用語が Hiberno-English（アイルランド植民者の方言）であることから、アイルランドで制作された可能性が強いと考えられている。挿絵画家の名は不明。写本は収集家 Francis Douce（1757-1834）（27参照）の旧蔵書。

* Issued as Pearsall, D. A. (introd.) *Piers Plowman; a facsimile of Bodleian Library, Oxford, MS Douce 104*. Woodbridge, Suffolk; Rochester, NY, 1992. 単色複製（一部原色） 1.0倍 <KS163-A79>

98 (Zotter 56) Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Codex Reginensis latinus 1896; Berlin, Staatliche Museen zu Berlin–Preussischer Kulturbesitz. Codex Hamilton 201 (Cim. 33)

Dante Alighieri: *Divina Commedia*. Italian. 102 leaves. 320×470. Parchment. 1482–90年に筆写。筆写地は不明。ニコラウス・マンゴーナ (Nicolaus Mangona) が筆写。サンドロ・ボッティチェルリ (Sandro Botticelli) の挿絵。

ダンテ・アリギェーリ「神曲」 人文主義書体。ダンテ最後の作品。亡命中の作品で、1300年の復活祭に彼岸の3つの国をさまよひ放浪するダンテの様子を書いている。ダンテの自筆原稿は現在一片も知られていないが、写本は多い。本写本は、ロレンツォ・ピエルフランチェスコ・デ・メディチ (1463–1503) の注文によるもので、ボッティチェルリ (1444 or 5–1510) が挿絵を描いたが未完に終わった。現在では3箇所に分かれて所蔵され (ヴァチカンに7葉、ベルリンに84葉)、一葉毎に別々に保存されている (複製では、その全体を本来綴じられていた順序に再現)。ただし、102葉のうち、10葉は喪失してしまっている。

ボッティチェルリは1481年に刊行された「神曲註解」(クリストフォロ・ランディーノ著)の挿図の下絵も描いており、こちらは Baccio Baldini による銅版画となっている。

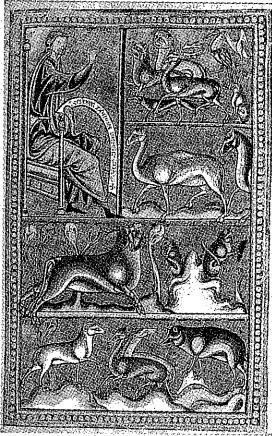
* Issued as his *La comedia di Dante Alighieri: manoscritto su pergamena dell'anno 1400 al 1450 con disegni originali fatti da Sandro Botticelli od altro di quel tempo della scuola fiorentina*. Tokyo, 1986. 2v. (*Codices e Vaticanis selecti quam simillime expressi iussu Ioanis Pauli PP II, consilio et opera curatorum Bibliothecae Vaticanae*, v. 54) 原色複製 1.0倍 <YP14–1196>

VI-1 動物寓話 Bestiaries

Bestiary は中世独特のジャンルで、4世紀頃にアレキサンドリアでギリシア語で書かれた *Physiologus* という動物、鳥、鉱物等をキリスト教の教義に基づいて記述した本が土台となっている。中世ヨーロッパでは5世紀にラテン語訳されたものが底本となり、特に12–13世紀にイギリスで多く (40点が現存) 制作された。ボドレー図書館が所蔵する「動物寓話」(Ashmole 1511) やアバディーン大学が所蔵する「動物寓話」(Ms. 24) はその有名な例である。

文章だけでなく、図が多く描かれているが、架空の動物も多く描かれている。ルネサンス期に作られた動物誌の本とは意味合いが異なるので、学芸ではなく文学として分類した。

99 (Zotter 642) Oxford, Bodleian Library. Ms. Ashmole 1511.



(図34)

Bestiarium. Latin. 105 leaves. 280×180. Parchment.

英国（リンカーンシャー）で1210年頃筆写。

『動物寓話集』ゴシック体。本写本は古代の文献および聖書の中に登場する動物の寓話を収めた動物誌である。旧約聖書における天地創造の6日間の物語に始まり、さまざまな実在の動物や一角獣、火とかけなどの架空の動物たちについて、姿形、性質などをもとにその寓意をキリスト教的に解釈している。全130点の細密画は、金色の背景に赤、青、緑の色彩を主体として描かれており、動物とその寓話の世界が力強く表現されている。旧蔵者は71と同じ *Alias Ashmole* (1617-92)。本複製は細密画の部分（図34）を中心に複製したものである。

* Issued as Unterkircher, F. *Tiere Glaube, Aberglaube; die schönsten Miniaturen aus dem Bestiarium*. Graz, 1986. 原色複製（部分）0.75倍 <KC482-A17>

Ⅶ. 木版本 (block-book)

15世紀のヨーロッパにおける本の作成方法には活字印刷、木版印刷、写本の3つが併存した。一枚ものの版画を本とみなすことは難しいが、印刷術の起源をめぐる論説から、本のコレクターにも収集された。一方、木版画は印刷本においても挿絵の技法として使われ続けたので、美術品のコレクターも挿絵入り本を収集し、様々な目録も作成されている。特に、W. L. Schreiber: *Manuel de l' amateur de la gravure sur bois et sur metal au XVe siècle* (1891-1910) は有名である。

ヨーロッパにおける木版画は14世紀には既に行なわれていたが、この技術で本を作成することは早くて1420-30年頃、別の説では1450-60年頃に始まった。オランダあるいはドイツで作成され、一番多く作られたのが1465-75年頃である。*Biblia pauperum* (貧者の聖書)、*Speculum humanae salvationis* (人類救済の鑑)、*Apocalypse* (黙示録)、*Arsmoriendi* (往生術) 等がよく印刷されたタイトルで、これらは金属活字でも印刷された。

木版本の特徴は、紙の片面にしか印刷されていないことで、残存部数も少ない。書誌学の興隆と共に複製の刊行も盛んになり、20世紀初頭までに18タイトルの木版本の複製が刊行されている。

100 Manchester, John Rylands University Library of Manchester.

The annunciation. 1 leaf. 290×210. Paper.

「受胎告知」

101 Manchester, John Rylands University Library of Manchester.

St. Christopher. 1 leaf. 289×208. Paper.

「聖クリストファルス」 これらはすべてマンチェスターのジョン・ライランズ図書館

所蔵の一枚ものの木版画である(図35「受胎告知」)。木版画が活字本の前身かどうかという観点で、本のコレクターも木版画を収集した。ジョン・ライランズ図書館の所蔵する木版画はスペンサー家第2代 George John (1758-1834) の集めたもので、Althorp コレクションと呼ばれる。1892年に、設立したばかりのジョン・ライランズ図書館が4万点以上の印刷本と共に購入した。中でも上記2点の木版画はその古さで有名であり、「聖クリストファルス」には1423年という表示がある。両者は Buxheim の修道院の所蔵していた写本 (*Laus Virginis*) 中には含まれているのを1769年に発見された。スペンサー伯の蔵書を解題した T.F. Dibdin: *Bibliotheca Spenceriana* (London, 1814-23) は冒頭で、この2点の木版画を取り上げている。



(図35)

本複製はジョン・ライランズ図書館の所蔵するインキュナブラの複製シリーズとして刊行されたもので、本巻は木版画の複製を集めたもの。他に *St. Anthony the Hermit*, *St. Briolget of Sweden* 等が収録されている。

* Issued in Dodgson, C. (ed.) *Woodcuts of the fifteenth century in the John Rylands Library; reproduced in facsimile with an introduction and notes*. Manchester, 1915. (*The John Rylands facsimiles, no. 4*) 原色複製 1.0倍 <YP14-617>

102 Paris, Bibliothèque nationale de France. Xyl.31.

Exercitium super Pater Noster. Flemish. 8 leaves. 287×204. Paper.

オランダで1430-40年に印刷。

「主の祈りの礼拝」 ゴシック体。木版画の絵入り本。「マタイ伝」にある主の祈りをテーマにしたカテキズム・テキスト。著者は Hendrik van den Bogarde (1382-1469) とされる。絵のみ木版画で、文字は手書きである。元々は10葉であったが、第1葉と第9葉が欠けている。1805年にブリュッセルの書店よりフランス国立図書館が購入した。本書には文字も木版の第2版があり、同館はそちらも同時に購入している。

* Issued as Kristeller, P. (ed.) *Exercitium super Pater Noster; nach der ältesten Ausgabe der Bibliothèque nationale zu Paris in 8 Lichtdrucktafeln*. Berlin, 1908. (Graphische Gesellschaft, 6. *Veröffentlichung*) 単色複製 1.0倍

< YP51- A542 >

103 Heidelberg, Heidelberger Universitätsbibliothek. Codex Palat. germ. 438.
Decalogus. German. 10 leaves. 263×194. Paper.

ドイツで1465年以後に印刷。

「十戒」 ゴシック体。

104 Heidelberg, Heidelberger Universitätsbibliothek. Codex Palat. germ. 438.
Septimania poenalis. German. 5 leaves. 248×175. Paper.

ドイツで1455-60年に印刷。

「教会の七つの戒規」 ゴシック体。

105 Heidelberg, Heidelberger Universitätsbibliothek. Codex Palat. germ. 438.
Symbolum apostolicum. Latin. 8 leaves. 264×182. Paper.

ドイツで1460-70年に印刷。

「使徒たちの信条」 ゴシック体。

以上3種の木版本が Codex Palat. germ. 438として1つに管理されている。「十戒」は各葉とも十戒のラテン語とドイツ語訳が書かれ、さらに悪魔の返事がドイツ語で書かれている(図36)。「教会の七つの戒規」は7葉で完全本だが、金曜日、土曜日の2葉が欠けている。「使徒たちの信条」は第2版で、初版は1450-60年頃印刷された。ヴェラムに印刷されたものがオーストリア国立図書館に所蔵されている。この第2版も不完全本で、12葉のうち、第2-5葉を欠いている。

複製本はこれらの単色複製であるが、*Decalogus*と*Symbolum apostolicum*についてはそれぞれ1葉のみ原色複製である。

* Issued as Kristeller, P. (ed.) *Decalogus; Septimania poenalis; Symbolum apostolicum; drei Blockbücher der Heidelberger Universitäts-*

tsbibliothek in 23 Lichtdrucktafeln und 2 Tafeln in Farbenlichtdruck. Berlin, 1907. (Graphische Gesellschaft, 4. Veröffentlichung) 単色複製 (*Decalogus*と*Symbolum apostolicum*は各々1葉のみ原色複製) 1.0倍 < YP51- A543 >



(図36)

106 Munich, Bayerische Staatsbibliothek.

Das Symbolum apostolicum. German. 12 leaves. 220×152. Paper.

ドイツで1470年頃印刷。

「使徒たちの信条」 ゴシック体。「使徒たちの信条」の第3版。Weihernの修道院で所蔵されていたもの。欠葉のない完全本である。

複製本は単色複製（リトグラフ）だが、オリジナルには7色の彩色が施されている。複製本にはその他に、1枚もの木版画9点も複製されている。

* Issued in Kristeller, P. (ed.) *Symbolum apostolicum; Blockbuch – unicum der K. Hof- und Staatsbibliothek zu München, nebst 12 Holzschnitten gleichen Stils in 21 Lichtdrucktafeln*. Berlin, 1917. (Graphische Gesellschaft, 23. Veröffentlichung) 単色複製 1.0倍 <YP51- A544>

107 Munich, Bayerische Staatsbibliothek. Xyl.1.

Das Puch von dem Entkrüst. German. 19 leaves. 290×200. Paper.

ドイツで1470年頃印刷。

「アンチ・クリスト伝説」ゴシック体。「アンチ・クリスト伝説」は木版本で流布し、インキュナブラでも版を重ねた。本書は反キリストに関する60の場面の図と文章から成っている。紙の片面に印刷され、裏面同士がのりづけされている。図は手彩色が施されている。

* Issued as *Das Puch von dem Entkrüst*. Leipzig, 1925. (*Blockbücher*, 1. Bd.) 原色複製 1.0倍 <KC482- A69>

(じゅうもんじ かなこ 書誌部国内図書課)
(さとう のりこ 主題情報部科学技術・経済課)
(おりた ひろはる 書誌部外国図書・特別資料課)
(きたむら やよい 総務部企画・協力課)
(あんべ さちこ 総務部人事課)

所在都市・所蔵機関名索引

この索引は採録した写本をその所蔵機関から検索するためのもので、本目録のエントリー番号への参照となっている。写本は所蔵機関が管理している番号で一意的に特定できるので、写本の専門書ではこの情報を普通、写本の識別に用いている。本目録では所在都市、所蔵機関、写本番号の順に記載しているので索引でもこの順に記載し、アルファベット順に排列してある。都市名は英語形に統一してあるので注意が必要である(例、Wien でなく Vienna、Firenze でなく Florence、Citta del Vaticano でなく Vatican City、München でなく Munich 等)。また、写本番号は出来るだけ略語形で表記した。

- Alba Julia, Biblioteca Nationala a Romanier, Filiala Batthyaneum. Ms. 162 16
 Amman, Amman Museum. 1
 Berlin, Staatliche Museen zu Berlin-Preussicher Kulturbesitz. Cod. Hamilton
 201 (Cim. 33) 98
 Cambridge (Eng.), Trinity College Library. Ms. R.16.2 26
 Chantilly, Musée et Château de Chantilly (Musée Condé). Ms. 65 30
 Darmstadt, Hessisches Staatsarchiv. 41
 Dublin, Chester Beatty Library. Ms. Western 99 37
 Dublin, Trinity College Library. Ms. A.I.6 (58) 15
 El Escorial, Real Biblioteca del Monasterio de San Lorenzo de El Escorial.
 Cod. Vitr. 17 18
 Florence, Biblioteca Riccardiana. Ms. 2669 59
 Ghent, Bibliotheek van de Universiteit Gent. Ms. 92 53
 Hamburg, Staatsarchiv. Ms. Cl. VII Lit. La. no 2 vol. 1c 50
 Heidelberg, Heidelberger Universitätsbibliothek. Palat. germ. 357 89
 Heidelberg, Heidelberger Universitätsbibliothek. Palat. germ. 438 103-105
 Heidelberg, Heidelberger Universitätsbibliothek. Palat. germ. 848 91
 Hereford, Hereford Cathedral. 84
 Iasi, Biblioteca Centrala Universitara 'Mihai Eminescu'. Ms. 160/IV-34 61
 Jérusalem, Israel Museum. 1QIs^a, 1 QpHab, 1QS 1-2
 Jerusalem, Rockefeller Archaeological Museum. 1
 Leiden, Bibliotheek der Rijksuniversiteit. Ms. Ltk. 191 92
 Leiden, Bibliotheek der Rijksuniversiteit. Ms. Ltk. 2058 63
 Lisbon, Biblioteca Nacional de Lisboa. Cod. Alcobacensis 36 94
 Lisbon, Biblioteca Nacional de Lisboa. Cod. Alcobacensis 266 95
 London, British Library. Add. 14762 46

London, British Library. Cotton Ms. Augustus ii	106	48
London, British Library. Ms. Royal 1 D V-VIII	6	
London, British Library. Ms. Royal 2 B VII	14	
London, British Library. Ms. Royal 14 C IX	85	
London, Public Record Office.	47	
Madrid, Archivo Ducal de Alba.	76.	
Madrid, Archivo General de Simancas. P. R. 30-2	51	
Madrid, Biblioteca Nacional. Ms. Vitr. 6-7	78	
Madrid, Biblioteca Nacional. Ms. Vitr. 14-2	23	
Madrid, Biblioteca Nacional. Vit. 6-6 antes T. 301, Folios 195-198	52	
Manchester, John Rylands University Library of Manchester.	100-101	
Milan, Biblioteca Ambrosiana.	58	
Milan, Biblioteca Ambrosiana. Ms. 170 sup.	60	
Modena, Biblioteca Estense.	87	
Moscow, Rossijskaya Gosudarstvennaya Biblioteka.	20	
Moscow, Rossijskaya Gosudarstvennaya Biblioteka. Ms. Grg 9.	21	
Moscow, T'Sentral'nyi gosudarstvennyi arkhiv drevnikh aktov.	4	
Munich, Bayerische Staatsbibliothek.	106	
Munich, Bayerische Staatsbibliothek. Cod. Munich 95	44	
Munich, Bayerische Staatsbibliothek. Xyl. 1	107	
New Haven (CT), Yale Center for British Art, Paul Mellon Collection.	70	
New York, Metropolitan Museum of Art.	28	
New York, Pierpont Morgan Library. Ms. 644	22	
Nuremberg, Germanisches Nationalmuseum. Ms. 2* 156 142	17	
Oxford, Bodleian Library. Ms. Ashmole 1504	71	
Oxford, Bodleian Library. Ms. Ashmole 1511	99	
Oxford, Bodleian Library. Ms. Bodley 851	93	
Oxford, Bodleian Library. Ms. Douce 104	97	
Oxford, Bodleian Library. Ms. Douce 180	27	
Oxford, Bodleian Library. Ms. Rawlinson C. 259	9	
Padova, Biblioteca capitolare. Ms. D39	55	
Paris, Bibliothèque nationale de France. Cod. lat. Parisinus 7239	57	
Paris, Bibliothèque nationale de France. Ms. espagnol 30	86	
Paris, Bibliothèque nationale de France. Ms. fr. 403r	24	
Paris, Bibliothèque nationale de France. Ms. fr. 616	56	
Paris, Bibliothèque nationale de France. Ms. fr. 2810	74	
Paris, Bibliothèque nationale de France. Ms. fr. 6465	81	
Paris, Bibliothèque nationale de France. Ms. lat. 5411	80	

Paris, Bibliothèque nationale de France. Ms. lat. 10525	13
Paris, Bibliothèque nationale de France. Nouv. acq. lat. 2290	25
Paris, Bibliothèque nationale de France. Nouv. acq. lat. 3093	29
Paris, Bibliothèque nationale de France. Xyl.31	102
Paris, Musée du Louvre. RF 2022–2025	33
Putna, Scoala muzicala de la Putna (Biblioteca Manastirii). Manuscrisul nr. I-26/Iasi	65
Putna, Scoala muzicala de la Putna (Biblioteca Manastirii). Manuscrisul nr. 12/Leipzig	66
Putna, Scoala muzicala de la Putna (Biblioteca Manastirii). Manuscrisul nr. 56/544/576 I	64
Rouen, Bibliothèque municipale. Ms.183	34
St. Petersburg, Publichnaia Biblioteka. Ms.evr. II A No.1321	42
St. Petersburg, Rossiiskaya Akademiia Nauk, Biblioteka.	82
St. Petersburg, Rossiiskaya Natsionalnaya Biblioteka.	19
St. Petersburg, Rossiiskaya Natsionalnaya Biblioteka. Ms. B 19A	8
San Marino, Huntington Library. Ms. EL. 26 C 9	96
Sarajevo, Zemaljski Muzej Bosne i Hercegovine.	45
Seville, Archivo General de Indias.	79
Seville, Biblioteca Capitular y Colombina.	77
Sinai, St. Catherine's Monastery.	12
Torino, Biblioteca Nazionale Universitaria. Ms. K. IV. 29	32
Torino, Musei Civici di Torino. Inv. N° 47	31
Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Barb. lat. 241	72
Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Borg. lat. 425	40
Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Palat. lat. 871	10
Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Palat. lat. 1071	54
Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Reg. graec. 1	7
Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Reg. lat. 1896	98
Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Urb. lat. 277	75
Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Urb. lat. 376	90
Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Vat. ebr. 133	43
Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Vat. graec. 1162	3
Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Vat. lat. 1202	62
Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Vat. lat. 3867	88
Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Vat. lat. 4922	73
Vatican City, Biblioteca Apostolica Vaticana. Vat. lat. 8541	5
Verona, Biblioteca Capitolare. Cod.Bibl.Veron.LXXXV (80)	38

Vienna, Österreichische Nationalbibliothek. Cod. 93	67
Vienna, Österreichische Nationalbibliothek. Cod. 324	83
Vienna, Österreichische Nationalbibliothek. Cod. 1858	36
Vienna, Österreichische Nationalbibliothek. Cod. med. gr. 1	69
Vienna, Österreichische Nationalbibliothek. Ms. 338	49
Vienna, Österreichische Nationalbibliothek. Ms. 958	39
Vienna, Österreichische Nationalbibliothek. Ms. Ser. nov. 2644	68
Vienna, Österreichische Nationalbibliothek. Ms. Ser. nov. 2844	35
Vorau, Stiftsbibliothek Vorau. Cod.273	11

書名索引

この索引の対象となっている書名は以下のものである。①エントリーで用いた写本の書名 ②複製の書名（ただし①と殆ど同じ場合は省略）③複製の叢書名 ④必要に応じて写本の別書名。しかし、解題中に出てくる別の写本の書名等は索引の対象とはしていない。

排列はまず欧文タイトルをアルファベット順に並べ、その後、日本語タイトルを五十音順に並べている。

- Africa on maps dating from the twelfth to the eighteenth century 84-85, 87
Anglo-Norman Apocalypse 26
Annunciation 100
Antologhion 64-66
Apocalipsis 22
Apocalypse 24
Apocalypse anglo-normande 26
Arhangelski Gospel in 1092 20
Aritmetica 59
Arkhangelskoe evangelie 1092 goda 20
Ashkenazi Haggadah 46
Asien auf Karten von der Antike bis zur Mitte des 19. Jahrhunderts 83
Babylonian Talmud 44
Badianus manuscript 72
Beatty Rosarium 37
Belles heures de duc de Berry 28
Bestiarium 99
Bible of Patricius Leo 7
Biblia pauperum 10
Bilder der Grandes Chroniques de France 81
Bilderhandschrift des Hamburgischen Stadtrechts von 1497 50
Blockbücher, 1. Bd. 107
Book of hours from the School of Jean Bourdichon 34
Book of hours of Croy 36
Book of Kells 15
Canonici Liber floridus 53
Canterbury tales 96
Catalan atlas 86

Catalan world map	87
Chronicon Casauriense	80
Codex Alexandrinus	6
Codex Aureus Epternacensis	17
Codex Aureus Laureshamensis	16
Codex Manesse	91
Codex Vaticanus graecus 1162	3
Codex Vaticanus latinus 1202	62
Codice atlantico	58
Codices e Vaticanis selecti ..., v.51	10
Codices e Vaticanis selecti ..., v.53	75
Codices e Vaticanis selecti ..., v.54	98
Codices e Vaticanis selecti ..., v.62	73
Codices e Vaticanis selecti ..., v.63	40
Codices e Vaticanis selecti ..., v.66	88
Codices e Vaticanis selecti ..., v.71	90
Codices e Vaticanis selecti ..., v.75	7
Codices e Vaticanis selecti ..., v.78	5
Codices e Vaticanis selecti ..., v.79	3
Codices ex ecclesiasticis Italiae Bibliothecis selecti, v.9	55
Codices selecti phototypice impressi, v.1	38
Codices selecti phototypice impressi, v.25	39
Codices selecti phototypice impressi, v.67-67*	35
Codicilo	52
Comedia di Dante Alighieri	98
Commentary on the Apocalypse	22-23, 25
Cosmographia	75
De arte venandi cum avibus	54
De divina proportione	60
De materia medica	69
Dead Sea scrolls	1
Decalogus	103
Decalogus; Septimania poenalis; Symbolum apostolicum	103-105
Diario	78
Diario de la primera navegación	78
Divina Commedia	98
Documentos colombinos en la Casa de Alba	76
Domesday Book	47

Douce Apocalypse	27	
Edizione nazionale dei manoscritti e dei disegni di Leonardo da Vinci		58
Endzeiterwartung und Ritterideologie	27	
Evangeliar; Codex Aureus Epternacensis	17	
Exercitium super Pater Noster	102	
Facsimilia Heidelbergensis, Bd.2	89	
Falkenbuch Kaiser Friedrichs des Zweiten	54	
Ferguut	92	
Fontes ambrosiani in lucem editi cura et studio Bibliothecae ambrosianae,	72	60
Geographia	75	
Gheestelicke melody	63	
Golden Gospel of Heinrich III	18	
Golden Gospels of Echternach	17	
Goldene Bulle	49	
Goldene Evangelienbuch Heinrichs III	18	
Grandes chroniques	81	
Graphische Gesellschaft, 4. Veröffentlichung	103-105	
Graphische Gesellschaft, 6. Veröffentlichung	102	
Graphische Gesellschaft, 23. Veröffentlichung	106	
Great Charter	48	
Great Domesday	47	
Gregorian sacramentary (fragment)	39	
Grigorovicevo evangelie, br.9	21	
Grigorovich Gospel	21	
Habakkuk commentary	2	
Hamburger Stadtrecht von 1497	50	
Helmingham herbal and bestiary	70	
Herbal and bestiary	71	
Hereford mappamundi	84	
Heures de Turin	32	
Heures de Turin - Milan	31	
Höfische Jagdbuch des Gaston Phébus	56	
Homily for the Virgin	3	
Iasi Gospel lectionary	61	
Illinois studies in language and literature, v.37, no.1		94-95
Indulgentia	41	
Isaiah manuscript	2	
Izvoare ale muzicii românești, v.3	64	

Izvoare ale muzicii românești, v.4	65
Izvoare ale muzicii românești, v.6	66
Jahresgabe des deutschen Vereins für Kunstwissenschaft, 1933	18
John Rylands facsimiles, no.4	100-101
Karolingisches Sakramentar: Fragment	39
Kleine (Alte) Heidelberger Liederhandschrift	89
Lamberti S. Audomari Canonici Liber floridus	53
Lectionarul evanghelic de la Iasi	61
Lektionar zu den Festen der Heiligen Benedikt, Maurus und Scholastika	62
Leningrad codex	8
Leonine sacramentary	38
Libellus de medicinalibus Indorum herbis	72
Liber floridus	53
Liber instrumentorum seu Chronicorum Monasterii Casauriensis	80
Libro copiator	79
Libro de las profecías	77
Livre de la chasse	56
Livre des merveilles	74
Livre d'heures de l'école de Jean Bourdichon	34
Londoner Haggadah	46
Lorsch Gospels	16
Magna Carta	48
Makedonski srednovekovni rakopisi, 2	21
Manual of discipline	2
Manuscrisul nr. 12/Leipzig; "Antologhion"; "Scoala muzicala de la Putna"	66
Manuscrisul nr. 56/544/576 I de la Manastirea Putna; "Antologhion"; "Scoala muzicala de la Putna"	64
Manuscrisul nr. I-26/Iasi; "Antologhion"; "Scoala muzicala de la Putna"	65
Mapamundi, the Catalan atlas of the year 1375	86
Mappamundi (from <i>Polychronicon</i>)	85
Marien-Homilien	3
Medicina antiqua	67
Medicina magica	67-68
Megilot Yam ha-melah	2
Meor ayin	42
Missale Pontificis in nativitate Domini	40
New Testament	9
Origines et les débuts de l'imprimerie d'après les recherches les plus récentes	41

Ostromir Gospel	19
Ostromirovo evanĝelie	19
Pamiatniki pismennosti Vostoka,	96 42
Pentateuch, prophets, and hagiographa	8
Pflanzen, Wurzeln, Säfte, Samen	69
Piers the Plowman	93, 97
Povest' o Kulikovskoi bitve	82
Prayer book: Rothschild-Gebetbuch	35
Psalter Ludwigs des Heiligen	13
Psalter of Sinai	12
Psalterium Sinaiticum	12
Psautier de Saint Louis	13
Puch von dem Entkrist	107
Queen Mary's Psalter	14
Roman de la Rose	90
Rosarium	37
Rothschild-Gebetbuch	35
Sacramentarium Leonianum	38
St. Christopher	101
Sarajevo Haggadah	45
Septimania poenalis	104
Skazanie o Borise i Glebe	4
Studies and facsimiles of Netherlandish illuminated manuscripts, v.1	37
Symbolum apostolicum	105-106
Tabula Peutingeriana	83
Tacuinum sanitatis	68
Talmud Yerushalmi	43
Testamento	51
Testamento y codicilo de la reina Isabel la Católica	51-52
Tiere Glaube, Aberglaube	99
Tractatus astrarii	55
Tratat despre arta militara si masinile de razboi	57
Trattato di aritmetica	59
Très belles heures de Notre Dame	29, 33
Très riches heures de duc de Berry	30
Two East Anglian picture books	70-71
Two old Portuguese versions of the Life of Saint Alexis	94-95
Vergilius Romanus	88

Veröffentlichungen aus dem Staatsarchiv der Freien und Hansestadt Hamburg,

Bd.10 50

Vida de Santo Alexo 94-95

Vita Mathildis 73

Vitae sanctorum 5

Vorauer Volksbibel 11

Woodcuts of the fifteenth century in the John Rylands Library 100-101

アレクサンデル六世 クリスマスミサ典礼書 40

ウェルギリウス・ロマヌス 88

カノッサのマティルダ伝 73

驚異の書 74

クラウディオス・プトレマイオス 宇宙誌 75

クロイの時禱書 36

聖ベネディクト、聖マウルス、聖スコラスティカの祝祭のための読誦集 62

東方見聞録 74

トリノ＝ミラノ時禱書 31-33

貧者の聖書 10

ベアトゥス黙示録註解 23

ベアトゥス黙示録註解 アローヨ写本 25

ベリー公のいとも美しき聖母時禱書 29

ベリー侯の豪華時禱書 30

レオの聖書 7

著者名索引

この索引の対象となっている著者名はオリジナル写本の記入中に現われる著者名であり、解題中に出てくる人名は対象にしていない。普通の図書館目録と同じく姓、名の順に記載し、そのアルファベット順に排列してある。著者名の形は出来るだけその人物の母語形を用いている。

- Angelus, Jacobus 75
Beatus of Liebana 22-23, 25
Bening, Simon 36-37
Berthaud d'Achy 90
Boccardi, Giovanni di Giuliano 59
Botticelli, Sandro 98
Boucicaut Master 74
Bourdichon, Jean 34
Calandri, Filippo 59
Casas, Bartolomé de las 78
Chaucer, Geoffrey 96
Colombe, Jean 30
Columbus, Christopher 76-79
Comminelli, Ugo 75
Cresques, Abraham 86
Dante Alighieri 98
Dioscorides, Pedanius 69
Dondi dall'Orologio, Giovanni 55
Donizo 73
Eyck, Jan van 31-33
Facundus 23
Fouquet, Jean 81
Frédéric II 54
Gaston Phébus 56
Giovanni di Berardo 80
Guillaume de Lorris 90
Guillaume le Clerc 92
Higden, Ranulf 85
Horenbout, Gerard 36
Ibn-Butlan 68

Isabel la Católica	51-52	
Jakobus Kokkinobaphos	3	
Jean de Meun	90	
Jean d'Orlean	29	
Joel ben Simeon	46	
Lambert	53	
Langland, William	93, 97	
Leonardo da Vinci	58, 60	
Limbourg Brothers (Pol, Jean and Herman)	28, 30	
Maius	22	
Mangona, Nicolaus	98	
Martinus de la Cruz	72	
Monza, Antonio da	40	
Pacioli, Luca	60	
Paulus Sanctinus Ducensis	57	
Pietro del Massaio	75	
Polo, Marco	74	
Ptolemaeus, Claudius	75	
Purvey, John	9	
Richard de Bello of Haldingham	84	
Taccola, Mariano	57	
Vergilius	88	
Wycliffe, John	9	
Yehudah ben Yaakov ben Yehudah	42	